上ノ原遺跡

南信土地改良事務所
中川村教育委員会

上ノ原遺跡

長野県上伊那郡中川村大字片桐上ノ原

緊急発掘調査報告書

1982

南信土地改良事務所
中川村教育委員会

序

この報告書は，片桐北部地区の県営ほ場整備事業により緊急発掘した報告書であります。片桐地区は天竜川の典型的な河岸段丘が連なり上段には遺跡群があり，注目されていながら本格的発掘調査が行なわれないままにいましたが，ほ場整備事業に先行して昭和53年西ケ原遺跡を皮切りに，溝林・原田遺跡の発掘調査を続けてきました。

今回調査した上ノ原遺跡は，竹の上部落の中段にあり，ゆるやかな傾斜地を背にして南に開け，眼下に天竜川沿岸の平担地が下伊那まで眺望できる恵まれた環境にあります。

この遺跡は，縄文中期後葉のものが主体の集落址で，発掘された遺構は，縄文中期後葉に当る住居址12軒と，竪穴・土拡・溝状遺構等が発見されています。埋甕・鉢等のほか 12,000 点を超える土器片と 3,000 点の石器片が発掘され，土拡からは約 4,500 年を経過したと思われる炭化した栗の実も発見されています。この報告書の作成にあたり，一部であるが石器の組成について記述されていますので参考になれば幸です。

中川村では，昭和56年度に歴史民俗資料館を建設し，考古資料として既に発掘された数多くの埋蔵文化財と共に今回発見されたものを展示してあります。この報告書とともに多くの人に見ていただき，先住民の歴史をひもとき，郷土を愛する心を養ううえに意義あるものにしたいものです。

この発掘調査にあたり，県教育委員会並びに南信土地改良事務所のご指導をいただき，調査団長友野良一先生をはじめ，権威ある諸先生を調査員に迎え，地元の積極的な協力，関係者のご努力により無事調査を終えこの報告書が刊行できますことを心から感謝申し上げます。

昭和58年３月

中川村教育長　北　澤　正　美

例　　言

1. 本書は昭和57年度に実施した，片桐北部地区県営圃場整備事業に伴なう，埋蔵文化財の緊急発掘調査にもとづく報告書である。

2. 本事業は南信土地改良事務所の委託により，中川村教育委員会が実施した。

3. 本報告書は契約期間内(昭和57年度)中にまとめることが要求されているため，調査によって検出された遺構及び遺物をより多く図示することに重点をおいたので文章記述はできるだけ簡略化につとめたが，そのうち第１号住居址は特に石器の組成について調査を行った。

4. 各遺構の縮尺は$\frac{1}{60}$としたが，一部$\frac{1}{80}$のものある。遺物の縮尺は$\frac{1}{3}$を基準としたが，大形の土器は$\frac{1}{6}$とした。また小形の石器及び土器は$\frac{1}{1.5}$とした。

5. 本報告書の執筆者及び図版製作者は次のとおりである。

　◦本文執筆者　友野良一・根津清志・木下平八郎・小木曽　清・松下千里・横田愛子・宮下喜代子

　◦図版製作者　遺構図，土器，石器の実測，土器拓影
　　友野良一，根津清志，小木曽　清，松下千里，横田愛子，高山よし子，
　　細田登志美，宮崎五百子

　◦写 真 撮 影　木下平八郎，小木曽　清，根津清志

6. 本報告書の編集は教育委員会がおこなった。

7. 遺物及び実測図類は中川村歴史民俗資料館に保管してある。

目　次

序

例　言

第Ⅰ章　発掘調査の経緯 …… 1
第１節　発掘調査に至るまでの経過 …… 1
第２節　調査会の組織 …… 1
第３節　発掘調査の経過 …… 2

第Ⅱ章　遺跡の環境 …… 4
第１節　遺跡の位置 …… 4
第２節　地形及び地質 …… 5
第３節　歴史的環境 …… 6

第Ⅲ章　遺構と遺物 …… 9
第１節　調査の概要 …… 9
第２節　遺構と遺物 …… 9

所　見 …… 89

図　版 …… 91

あとがき …… 109

挿 図 目 次

第１図　上ノ原遺跡の位置図
第２図　上ノ原遺跡の層序
第３図　上ノ原遺跡地層断面図（道路南北）
第４図　上ノ原遺跡付近の遺跡分布図
第５図　上ノ原遺跡地形発掘図
第６図　上ノ原遺跡遺構配置図
第７図　打製石斧形態分類図
第８図　横刃形石器形態分類図
第９図　第１号住居址実測図
第10図　第１号住居址遺物分布図・接合関係図
第11図　第１号住居址出土土器実測図
第12図　第１号住居址出土土器拓影
第13図　第１号住居址出土土器底部
第14図　第１号住居址出土土器底部
第15図　第１号住居址出土石器実測図
第16図　第１号住居址出土石器実測図
第17図　第１号住居址出土石器実測図
第18図　第１号住居址出土石器実測図
第19図　第２号住居址実測図
第20図　第２号住居址出土土器実測図
第21図　第２号住居址出土土器拓影
第22図　第２号住居址出土石器実測図
第23図　第８号住居址実測図
第24図　第８号住居址出土土器実測図
第25図　第８号住居址出土土器拓影
第26図　第８号住居址出土石器実測図
第27図　第３号住居址実測図
第28図　第３号住居址出土土器拓影
第29図　第３号住居址出土石器実測図
第30図　第４号住居址実測図
第31図　第４号住居址出土土器実測図
第32図　第４号住居址出土土器拓影
第33図　第４号住居址出土石器実測図
第34図　第４号住居址出土石器実測図
第35図　第５号住居址実測図
第36図　第５号住居址炉実測図
第37図　第５号住居址出土土器実測図
第38図　第５号住居址出土土器拓影
第39図　第５号住居址炉内出土土器拓影
第40図　第５号住居址出土石器実測図
第41図　第６号住居址実測図
第42図　第６号住居址出土遺物
第43図　第７号住居址実測図
第44図　第７号住居址出土遺物
第45図　第９号住居址実測図
第46図　第９号住居址出土遺物
第47図　第10号住居址実測図
第48図　第10号住居址出土土器実測図
第49図　第10号住居址出土遺物
第50図　第11号住居址実測図
第51図　第11号住居址出土遺物
第52図　第11号住居址出土遺物
第53図　第１，２，３，４，５号竪穴実測図
第54図　第６号竪穴及び附近の実測図
第55図　竪穴出土土器拓影
第56図　竪穴出土石器実測図
第57図　溝状遺構実測図
第58図　溝状遺構出土遺物
第59図　土拡実測図

表 目 次

表 1　第 1 号住居址土器分類表……22
表 2　第 1 号住居址石器分類表……22
表 3　第 1 号住居址黒曜石分類表……22
表 4　第 1 号住居址礫・剥片分類表……22
表 5　第 1 号住居址石器集計表……22
表 6　第 1 号住居址打製石斧……23
表 7　第 1 号住居址定角式石斧……23
表 8　第 1 号住居址横刃形石器……23
表 9　第 1 号住居址磨石……24
表10　第 1 号住居址凹石……24
表11　第 1 号住居址石錘……24
表12　第 1 号住居址乳棒状石器……24
表13　第 1 号住居址礫器……25
表14　第 1 号住居址石皿……25
表15　第 1 号住居址石棒……25
表16　第 1 号住居址スクレイパー……25
表17　第 1 号住居址ピエス・エスキーユ……25
表18　第 1 号住居址石鏃……25
表19　第 1 号住居址石錘……26
表20　第 1 号住居址使用痕のある剥片・核……26
表21　第 1 号住居址大型礫……26
表22　第 1 号住居址礫……26
表23　第 1 号住居址剥片……29
表24　第 3 号住居址土器分類表……42
表25　第 3 号住居址石器分類表……42
表26　第 3 号住居址打製石斧形態別個体数……42
表27　第 3 号住居址横刃形石器形態別個体数…42
表28　第 3 号住居址黒曜石分類表……45
表29　第 4 号住居址土器分類表……46
表30　第 4 号住居址石器分類表……47
表31　第 4 号住居址打製石斧形態別個体数……47
表32　第 4 号住居址横刃形石器形態別個体数…47
表33　第 4 号住居址黒曜石分類表……48
表34　第 6 号住居址土器分類表……59
表35　第 6 号住居址石器分類表……59
表36　第 6 号住居址打製石斧形態別個体数……59
表37　第 6 号住居址横刃形石器形態別個体数…59
表38　第 6 号住居址黒曜石分類表……59
表39　第 7 号住居址土器分類表……62
表40　第 7 号住居址石器分類表……62
表41　第 7 号住居址打製石斧形態別個体数……62
表42　第 7 号住居址横刃形石器形態別個体数…62
表43　第 7 号住居址黒曜石分類表……64
表44　第 9 号住居址土器分類表……65
表45　第 9 号住居址石器分類表……65
表46　第 9 号住居址打製石斧形態別個体数……67
表47　第 9 号住居址横刃形石器形態別個体数…67
表48　第 9 号住居址黒曜石分類表……67
表49　第11号住居址土器分類表……71
表50　第11号住居址石器分類表……74
表51　第11号住居址打製石斧形態別個体数……74
表52　第11号住居址横刃形石器形態別個体数…74
表53　第11号住居址黒曜石分類表……74
表54　土器，石器集計表……85
表55　上ノ原遺跡土器・石器集計表…… 86

図 版 目 次

図版 1　遺跡遠景（上は東より，下は西より
図版 2　住居址群（西より）住居址，土拡群（南より）
図版 3　第 1 号住居址，遺物出土状態
図版 4　第 2 号住居址，第 3 号住居址
図版 5　第 4 号住居址，第 5 号住居址
図版 6　第 6 号住居址，第 7 号住居址
図版 7　第 8 号住居址，第 9 号住居址
図版 8　第10号住居址，第11号住居址
図版 9　第 1 号，第 6 号竪穴，第10号，第11号土拡
図版10　溝状遺溝，出土遺物
図版11　第 1 号，第 2 号住居址，出土遺物
図版12　第 4 号，第 5 号　〃　　〃
図版13　第 6 号，第 7 号，第 8 号，第 9 号，
　　住居址，第 1 号，第 6 号竪穴出土遺物00
図版14　第10号，第11号住居址出土遺物
図版15　第11号住居址出土遺物，敲炉器
図版16　発掘スナップ

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　発掘調査に至るまでの経過

県営ほ場整備事業地区内の遺跡の調査を委託された場合には，受託するよう県教育委員会より村教育委員会に連絡があり，おって南信土地改良事務所より緊急発掘調査について委託したい旨，村教育委員会への依頼があって，両者協議のうえ，村教育委員会の編成した中川村上ノ原遺跡発掘調査団が業務を遂行することになった。

昭和57年４月15日南信土地改良事務所長と中川村長との間で「埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約」を締結し５月25日上ノ原遺跡調査団会を開催し発掘計画について協議し，当日の午後現地において発掘式を挙行し，翌５月26日より調査団により調査を開始した。

第２節　調査会の組織

◦中川村教育委員会

教育委員長	松村安雄
委員長代理	富永精一
委員	杉澤要
〃	斉藤英雄
教育長	北沢正美
教育次長	湯沢幸雄
技師	北村章
嘱託	松下千里

◦上ノ原遺跡調査団

団長	友野良一	（日本考古学協会会員）
調査員	根津清志	（長野県考古学会会員）
〃	木下平八郎	（　〃　）
〃	小木曽清	（宮田村）
調査補助員	横田愛子	（飯島町）
〃	宮下喜代子	（飯島町）
〃	高山よし子	（中川村）

第３節　発掘調査の経過

月日	日誌
5. 25	午前中発掘器材の運搬を行う。地元の作業員の方々により調査作業上の休憩所及び器材置場を設置する。午後１時30分より役場において，調査団の打ち合せ会議を開く，午後３時現地において関係者により鍬入式を行う。
26	調査地域の水田の耕土をブルトーザーで除土する。
27	地場下面のジョレン掛，ＢＭの設定。
28	層位確認のため道路添の残土処理作業。
29	５ｍ×５ｍのグリッド設定。
31	道路の西面の地層図作成。午後調査員会。
6. 5	第１号住居址の調査を開始。木下，松下遺跡の景観写真の撮影（大草神又の上より）
7	第１号住居址の南1.3ｍに縄文晩期とおもわれる鉢形土器を発見する。
8	blutothcにて道路の東側と西側と南側水田の除土，北側盛土附近に住居址確認。東の地区に竪穴２と溝状遺構を発見。
10	道路の西側地区のジョレン掛を行う。
11	村文化財調査委員と教育長見学。作業終了后教育次長の出席を求め発掘についての打ち合せを行う。
12	住居址の確認ができましたので，各住居址の担当を定める。
15	ジョレン掛で発見されたグリッドの遺物記録をはじめる。
17	道路より西側の２枚の水田の耕土を除去するため，ブルドーザーを使用する。住居址を新しく発見する。
18	雨天のため全員で遺物の水洗いを行う。
19	第４号住居址の炉址の検出と土偶が床面近くから発見される。
21	第４号住居址の柱穴断面の実測と，床面清掃，炉址は縁石が抜れたものであることを確認
23	遺跡の中央を南北に通っている道路を取りのぞく作業
25	段丘の東添を通る道路きわに溝状遺構を発見，この遺構内に焼土が二個所確認
26	溝状遺構内に土拡を検出，その付近から大型打製石斧を発見，溝状遺構の底部はかたく叩かれている部分と焼土が見受けられた。
28	第４号住居址と溝状遺溝との間に１号２号の竪穴址を検出する，そのうち１号竪穴址から粟の炭化物が多く発見される。
29	第１号竪穴より底部に穴のあいた石皿と，粟の炭化物が10数箇出土する。またその付近から深鉢形土器も出土した。
7. 1	１号竪穴の底部から，粟の炭化したものが100箇以上検出する。土拡検出，３号４号竪穴も検出される。
2	第２号住居址を完掘し，第２号住居址は第８号住居址を切って作られているところより

		第８号住居址の発掘を進める。３号竪穴清掃，２号土拡と考えられていたものは５号竪穴となる。
7.	3	第１号住居址の実測，写真撮影終る。竪穴，土拡も実測写真を終る。
	5	第６，９，10号の住居址の調査を始める。
	6	４，５，６号土拡が発見される。
	7	雨天につき全員で遺物を洗う。
	8	第６，７，10，11号住居址の実測及び写真撮影を行う。
	9	第２号住居址床面から埋甕を発見，第８号住居址から鉢形土器出土。第９号住居址実測と本遺跡の全測を始める。
	10	前日に引きつづいて全体測量と全景の写真をとる。
	11	遺跡の一般えの公開をなし，根津調査員が説明を行う。
	12	午前中雨のため遺物の水洗いが行われる。午後遺構の実測，木下調査員写真の撮影。
	13	現場の作業は一応終了したが，一部測量が残っていたのでこの個所を実測。午後テントの取り片付けや器材の片付けをなし全作業を終る。
8.	2	出土遺物の整理
11.	4	報告書作成のための整理作業を始める。
2.	20	報告書作成の作業終了

長期間にわたった発掘にあたって，深いご理解とご協力をいただいた，地元の関係の方々，発掘に直接ご参加下さいました方々に心より感謝を申し上げる次第であります。

発掘調査に参加された方々（順不同）

斉藤英雄，荒井晴雄，高柳市之丞　寺沢　勝，高柳茂雄，木下文子，荒井　操，北沢早苗，米山喜美子，原みち子，地田きく子，荒井わか子，戸田新次，桃沢　武，佐々木敦美，高柳はつゑ，雨沢恵子，有賀美恵子，北村美智恵，桃沢みさゑ，原はつほ，太田喜代子，斉藤照子，古屋公彦，細田登志美，宮崎五百子

第Ⅱ章　遺跡の環境

第１節　遺跡の位置

上ノ原遺跡の地理的位置は，東経137度56分36秒，北緯35度38分22秒に位置し，長野県上伊那郡中川村大字片桐の竹ノ上地籍にある。遺跡に至るには，国鉄飯田線七久保駅を下車し，東方に3.5㎞，国道153号線バイパスより西北方に650ｍ進んだ地点に所在する。遺跡は，中央アルプスに源を発する与田切川の押し出した飯島町七久保，本村横前と続く扇状地上より更に一段と低い処で天竜川の底位段に所属する標高557ｍ～560ｍの位置する処に広がる集落跡である。

本遺跡は縄文中期の梨ノ木遺跡，弥生前期の刈谷原遺跡，そして昭和56年に発掘した溝林遺跡更に昨年発掘した原田遺跡と遺跡が一帯に広がっている横前地帯から一段低い地点にあり，天竜川西側の良く発達した処で，遠く南アルプス連山を望むことができ背後には中央アルプスの南駒ケ岳がそそり立つ姿を見ることができ景観のよい処である。

第１図　上ノ原遺跡位置図

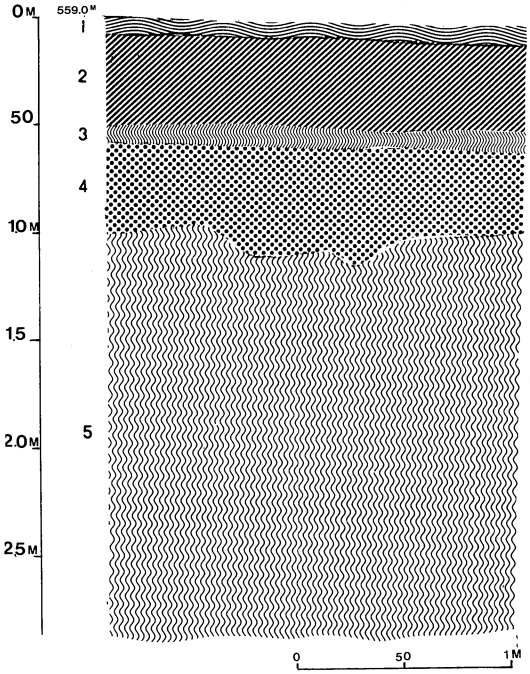
第２節　地形及び地質

１）

遺跡の位置する上ノ原は天竜川の河床より数えて３段目の南に張り出している河成段丘である。遺跡地は標高557.9 m～558.3 mの間にひろがりをもっている遺跡である。天竜川との比高は67mを測る場所に位置している。

２）

上ノ原遺跡の基盤は，古期火山灰層が砂礫層に混入し洪積からなっている。その上に中期～新期ロームが乗った地層から成る。当遺跡の地層調査箇所は，旧道路が地形的に比較的よく残っていたので，その断面を利用して調査した。そのうち層位３は旧水田の地場層である。したがって３層以下が不動の地層となっている。

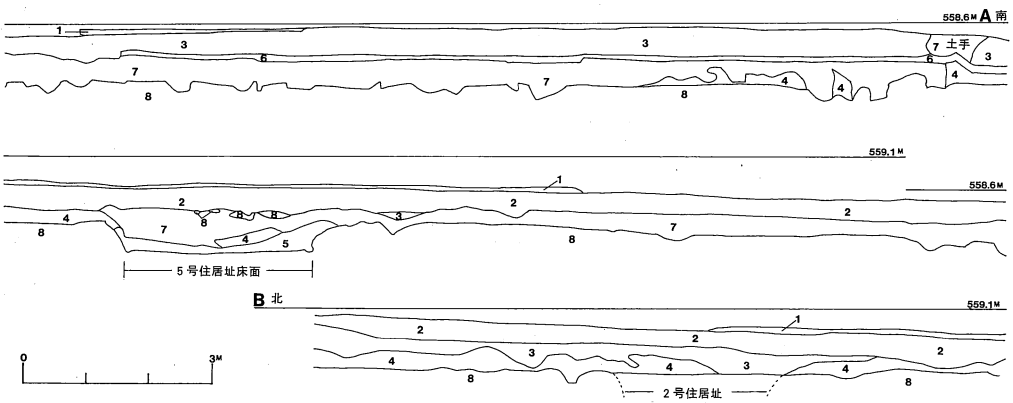


第２図　層　　序

凡　　例

1	コンクリート
2	埋　　土
3	耕土（黒土）
4	黒褐色土
5	褐　色　土
6	地　　場
7	撹　乱　層
8	ロ　ー　ム

第１層　コンクリート舗装　　第４層　黒褐色土層
第２層　耕　　土　　層　　第５層　ローム層
第３層　旧水田の地場



第３図　道路南北断面図

第３節　歴史的環境

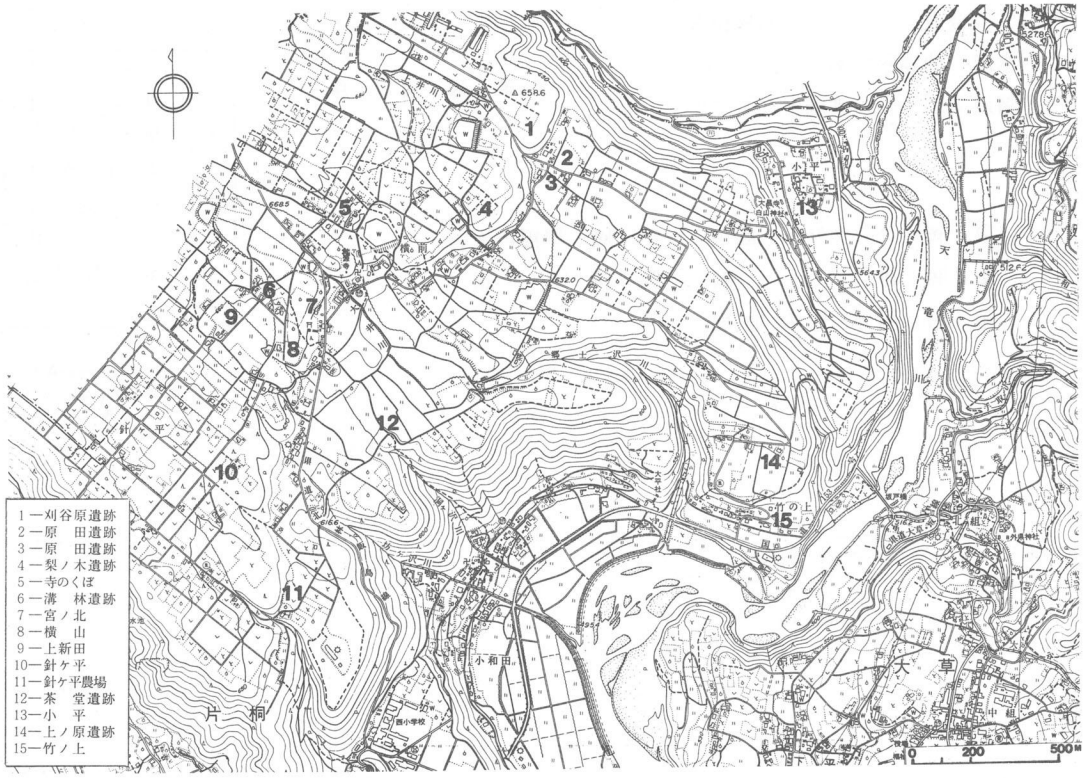
上ノ原遺跡の所在する中川村片桐地区には，分布調査の結果48個所の遺跡が確認されている。今回は，そのうち，当遺跡の附近に分布する遺跡を簡単にふれたい。

1. 梨ノ木遺跡は天竜川の高位段丘上に位置している遺跡で，その広さは６ヘクタールに及ぶ大規模な遺跡である。分布調査の結果縄文中期中葉と後葉・弥生後期の遺物が多数収集されている。特に堤の工事で縄文中期の土偶が出土している。

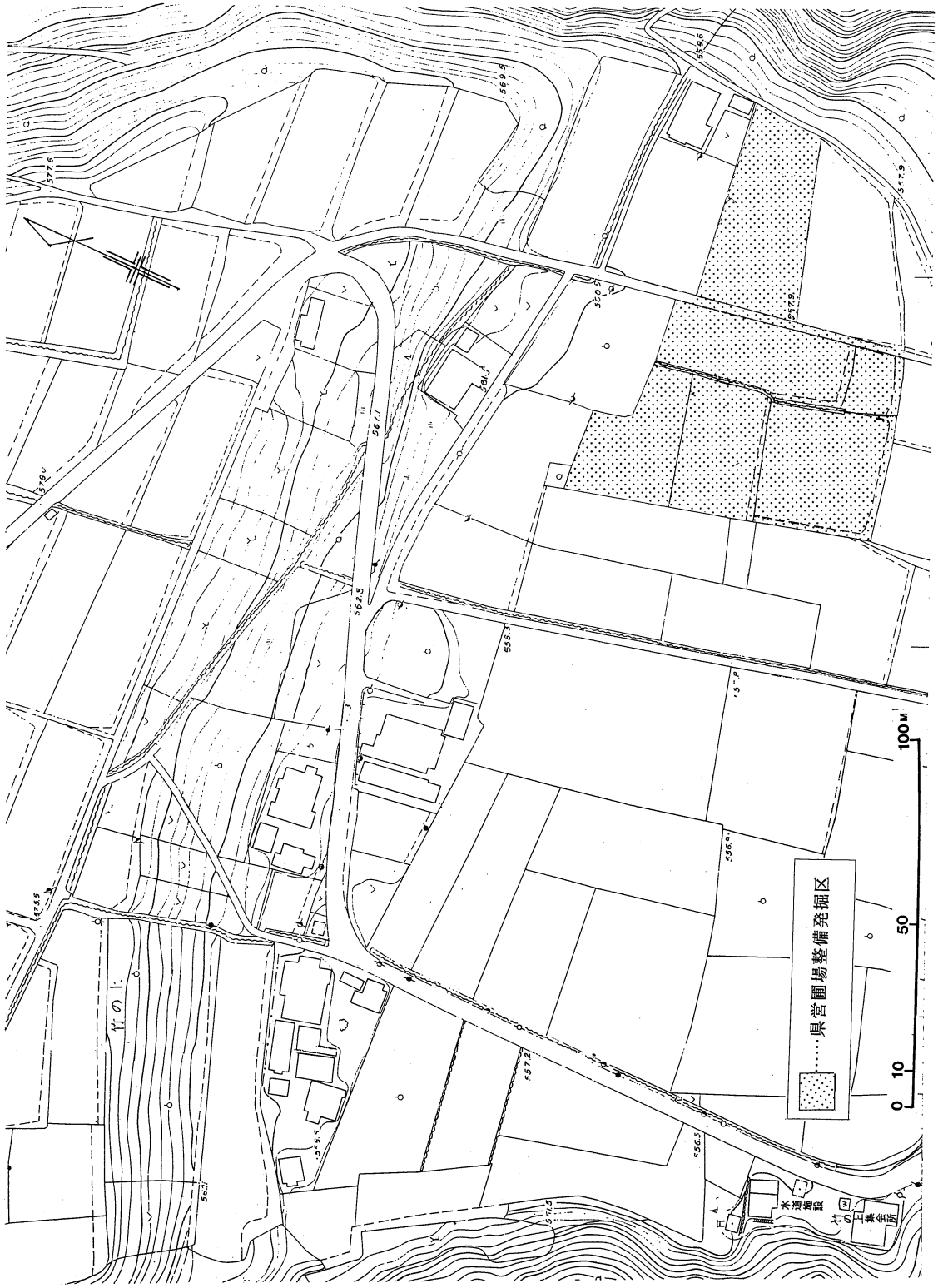
2. 刈谷原遺跡は，梨ノ木遺跡と上井川をへだて同一面の段丘上に分布している遺跡で，弥生時代前期の遺物を出土したことで著名である。また縄文前期初頭の土器を出土することで重要な遺跡である。

3. 原田遺跡，本遺跡は昭和56年度発掘調査を行った結果，弥生中期初頭の遺構と遺物が発見された遺跡である。

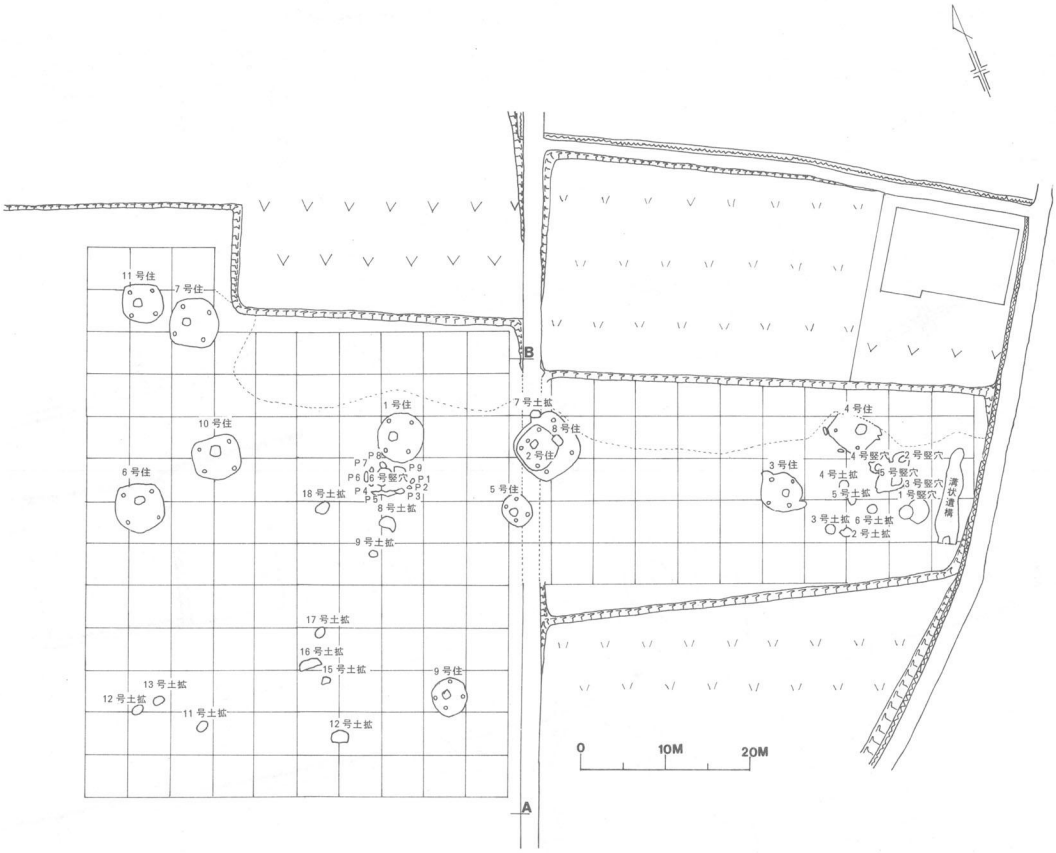
4. 竹の上遺跡は，天竜川の底位段丘に所属する遺跡で，縄文時代中期と古墳時代の遺物が出土している。



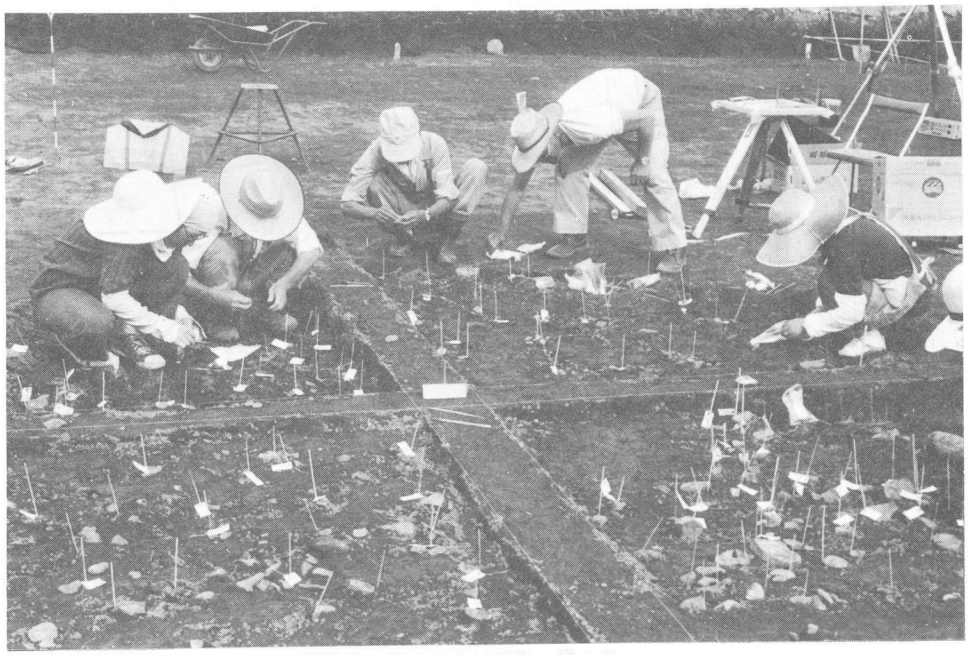
第４図　上ノ原遺跡付近遺跡分布図



第5図　遺跡付近の地形・発掘区


11 号住
7 号住
B
1 号住
7 号土拡
8 号住
2 号住
10 号住
6 号住
P8
P7
P9
P6
6 号竪穴
P1
P4
P2
P5
P3
18 号土拡
8 号土拡
5 号住
9 号土拡
4 号住
4 号竪穴
2 号竪穴
3 号住
4 号土拡
5 号竪穴
3 号竪穴
5 号土拡
1 号竪穴
溝状遺構
3 号土拡
6 号土拡
2 号土拡
17 号土拡
16 号土拡
15 号土拡
9 号住
13 号土拡
12 号土拡
11 号土拡
12 号土拡
A
0
10M
20M

第 6 図　遺構配置図



第Ⅲ章　遺構と遺物

第１節　調査の概要

上ノ原遺跡の発掘は，南信土地改良事務所及び文化庁補助による委託事業である。本調査は遺跡範囲確認のおりの試掘では，縄文中期後葉の土器が集中して発見された地点を中心として調査範囲を便宜上Ａ・Ｂ・Ｃ地区に区画して調査が行われた。調査の対象となった地目は水田地帯が主であるが，一部に試掘地点の畑地が加わっている。本遺跡の範囲は上ノ原地籍の大部分に広がる東西300ｍ南北200ｍ程の面積の遺跡と考えられるが，今回はそのうち遺跡の中心部と思える地域を選んで調査を実施した。

調査の手順として選定された水田の耕土は耕作のためかく乱されているところから，重機によって水田造成時の地場層まで除土を行い，５×５ｍ毎の調査グリッドを設定し調査を行った。

調査の結果，Ａ地区に第１号住居址，第５号住居址，第６号住居址，第７号住居址，第８号住居址，第９号住居址，第10号住居址，第11号住居址と第５～８号竪穴，及び第３～10号土拡を検出した。Ｂ地区では，第２号住居址，第３号住居址，第４号住居址，第８号住居址と第１～４号竪穴及び溝状遺構を調査した。

第２節　遺構と遺物

1. 土　器

今回の調査で出土した土器はかなりの量に達した。その内訳は復原された土器25点で，他は大方小破片で分類不可能の土器片もいくつかあった。今回はあまり複雑している遺物でないので，本遺跡として特に類別を行わなかった。発見された土器は，縄文前期の土器は皆無で，大方は縄文中期後葉の曽利系が主体で，そのうち加曽利系かと思われるものが若干認められた程度である。曽利系土器は井戸尻Ⅲ式の新しいところかと思われるものが一部見受けられるが，あまり明かに分類できないので，曽利の古いところに位置ずけた。遺物の主体は曽利Ⅱ，Ⅲ式であって，Ⅳ式に入るものは認められなかった。遺構の中にはⅡ～Ⅲ式にまたがるものが多い。そのほか，縄文後期後半の浅鉢，中世の陶磁が発見された。

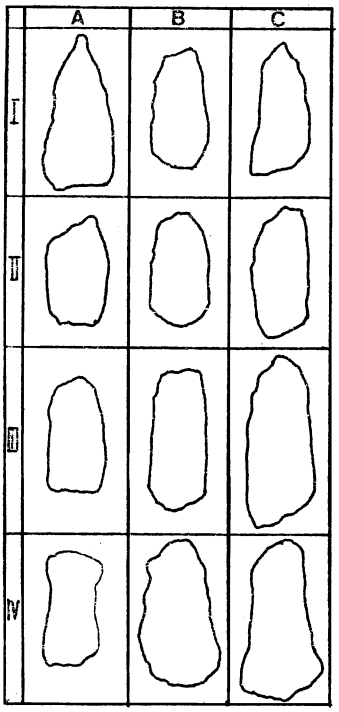
2. 石　器

今回の調査では第１号住居址の石器組成の有り方について研究を試みた。第２号以下は数量程度にとどまってしまったが，遺跡全体の数量が把握されたことは大きな成果であった。これ等の結果は後述の集計表を見ていただきたい。特に打製石斧及び横刃型石器は形態分類を試みた。他の石器については形態分類は行わなかった。

1. 打製石斧形態分類（第７図）

上ノ原遺跡の打製石斧の出土量も多いことと遺構の記述者も異なることもあって，記述上の統一を計るため形態分類を行なった。十二ノ后，大石・判ノ木山東の諸遺跡で形態分類が行われているので，分類基準について詳しくはふれないが。分類の基準となっているものは，(I)刃部の形態，(II)側縁形態の平面形である。(I)については，その平面形態をＡ－直刃，Ｂ－円刃，Ｃ－斜刃の三種類に分け，(2)については，Ⅰ－刃部に最大幅をもち頭部に行くにつれて巾をせまくする。Ⅱ－胴部に最大幅をもつ胴ぶくれ状の側縁を呈する。Ⅲ－側縁の両辺を呈す。Ⅳ－胴部に抉りがあるもので，上下が対称形をなすものである。これは従来よりよく用いられている，撥形，短冊形，分銅形が基準となっており，Ⅰが撥形，Ⅱ・Ⅲが短冊形，Ⅳ分銅形となる。Ａ～Ｃ，Ⅰ～Ⅳの組合せにより12種に分類できる。

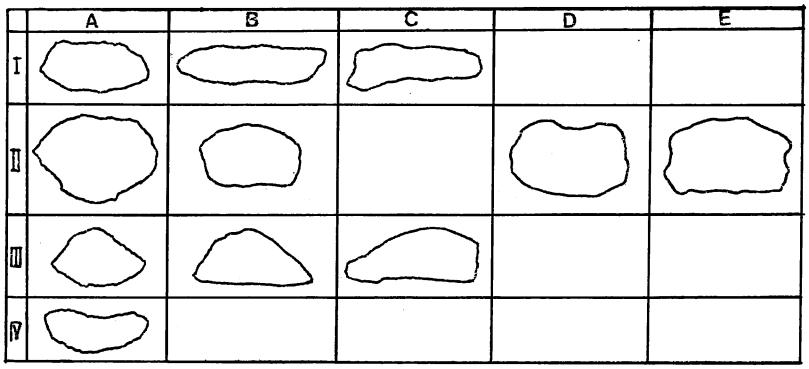
石斧に使用されている石材は，赤石山系のものが大多数であるが，一部木曽山系の石も使用されている。この分類は十二ノ后の分類を参考に使わしてもらった。



第７図　打製石斧形態分類

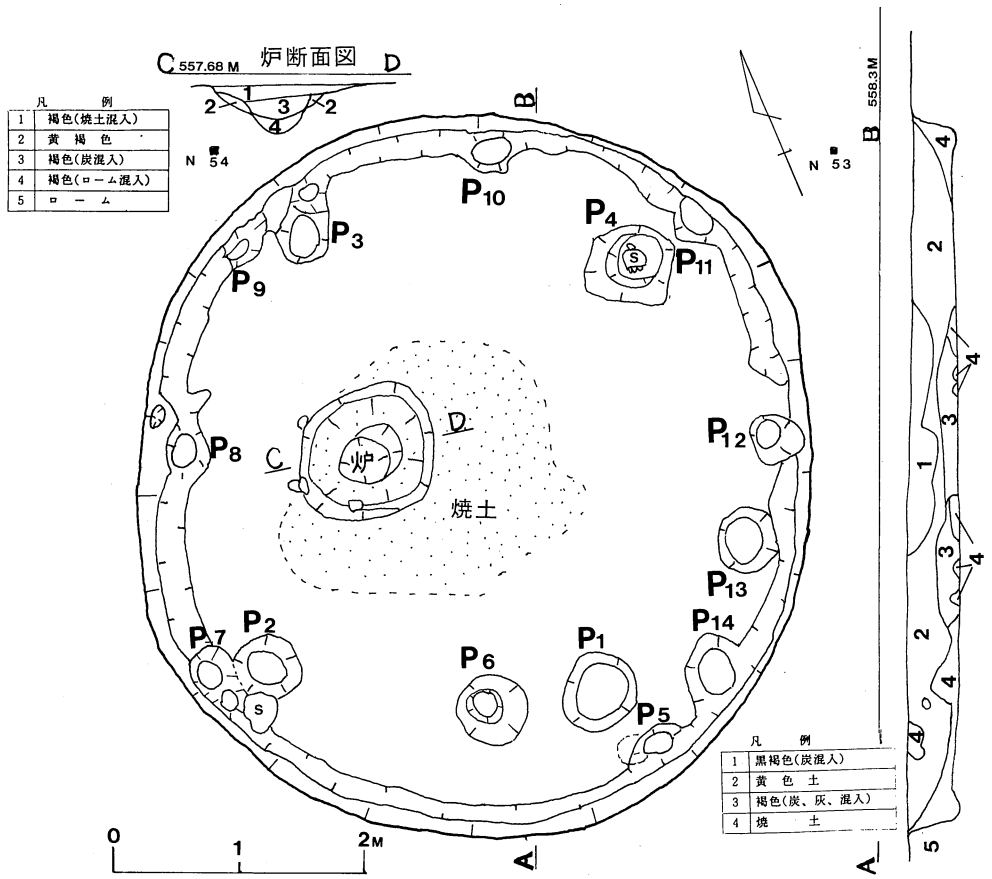
2. 横刃形石器形（第８図）

横刃形石器の分類の基準は，平面の形では，刃部をＡ－円刃Ｂを直刃，Ｃを内湾刃し，刃部に対する辺－背－の形態でⅠ～Ⅳに分類した。ＤＥについては，背に抉入の横刃形石器をＤとし，両側縁部に抉入のものをＥとした。量的にはわずかであるが検出されているので形態分類図で表わす事とした。



第８図　横刃形石器形態分類

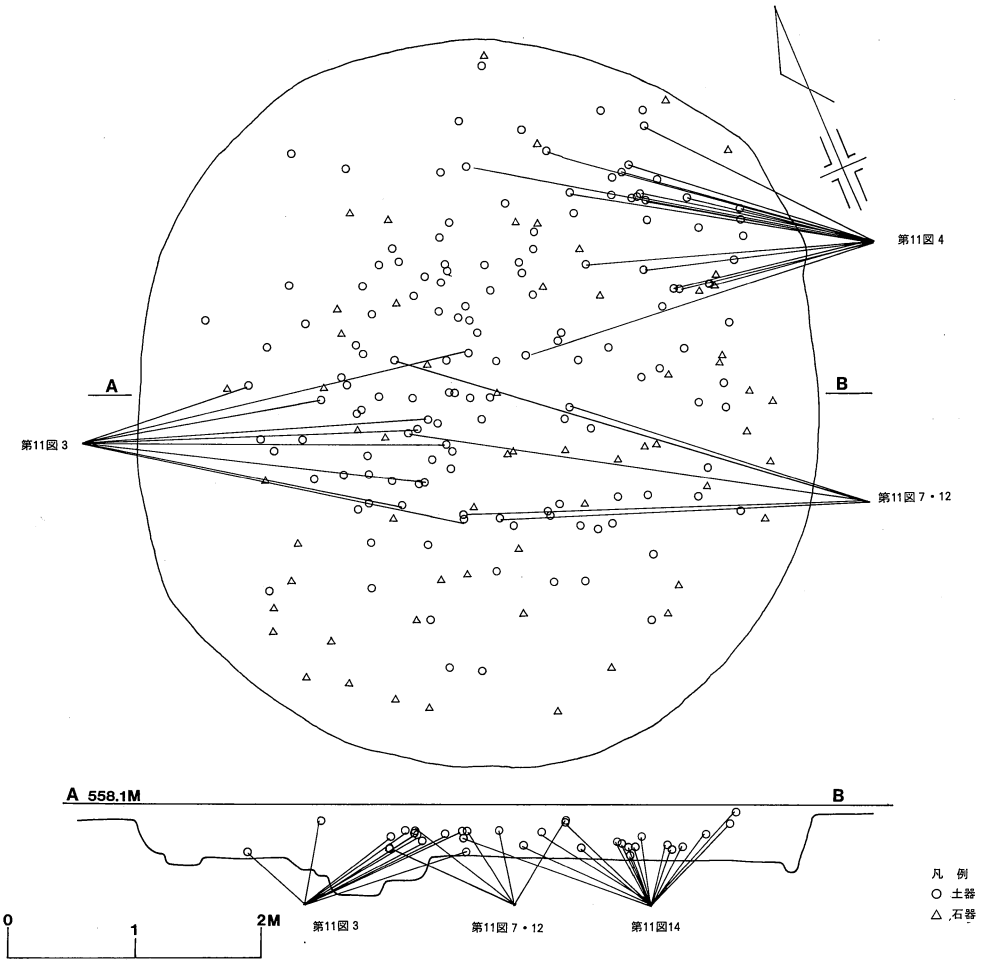
Ⅰは直な背をもつもの，Ⅱはゆるやかに外湾する背をもつもの，ⅢはⅡよりも外湾度が高い三角形状の背をもつもの。Ⅳは内湾する背をもつものである。この分類は打製石斧と同様他の遺構の遺物の分類に共用されるものである。



第9図　第1号住居址実測図

第1号住居址（第9図）

遺構，本址は台地の基部中央東寄りにあり，M53グリッドに検出されたもので，そのプラン 5.3×4.4 m円形である。主軸はN70°Wである。重機で水田造成時の地場面まで除土した際に土器破片が多く出土したので，その周辺を少し削ると，ローム上面が現われ落込みを確認したため，どの土層よりの掘込であるか不明である。壁高は 30 cm 前後壁帯は良好である。周溝は巾20cm前後深さは4～10 cm，入口の一部を除いて壁直下をめぐる。床面はほぼ水平でよく締り良好である。ピットは14検出されたが，主柱穴はＰ１～Ｐ４の４個と考えられる。その径は55cm前後，深さ70cm前後あり，底部は平らである。東側周溝の切れる位置にあるピットは，埋甕の埋置される場所であるが，甕は見当たらないが，それにかわるものと思われる。炉は西壁より 1.1 m中央寄りにあり，炉石は抜き取られており，拳大の礫が4個残っていただけでその形状は不明であるが，おそらく4個平石を組み合せた石囲炉と推定され，掘込みは床面から摺鉢状に掘られ40cmを測る。炉底は焼土がレンス状に堆積している。焼土は炉址以外に広さ 0.7 × 1.7 mの範囲，厚さ10cmに分布している。（木下）



第10図　第１号住居址土器石器出土状態接合関係図

遺物（第10図～第18図）

遺物は，覆土から床面まで多量の土器，石器，土製品が出土した。出土地点，レベルを計測記入し床面に近いⅢ・Ⅳ層と，Ⅱ層の床面に近いもの，及び壁直下のものを本址の遺物とした。

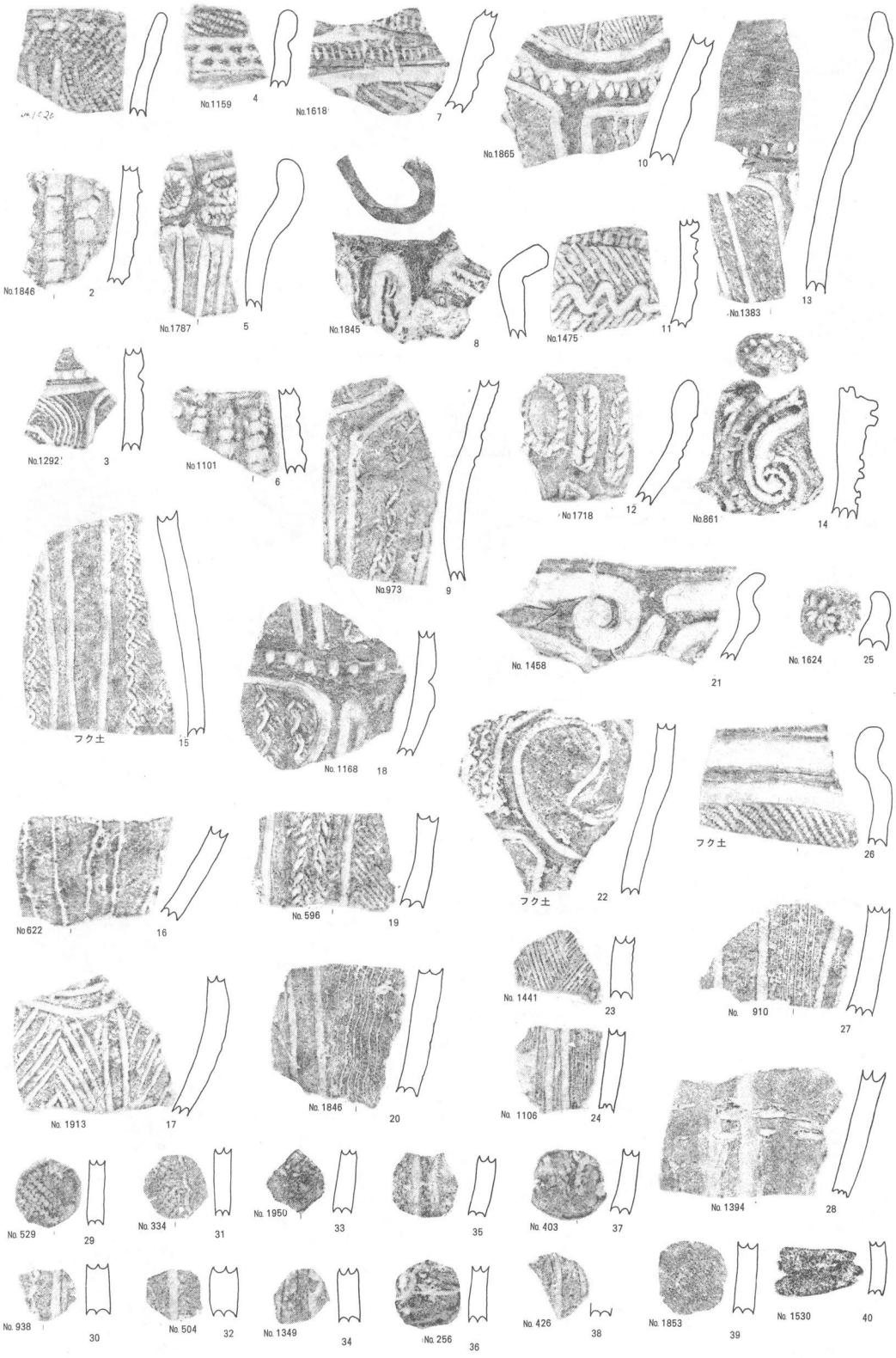
土器は，完形品は２点。底部から口縁部の１部あうもの２個体，半完形のもの２個体で他はすべて破片である。復原された土器の一部は，床面から20㎝前後浮いているが，大半は床面直上である。器種は，深鉢が多く，台付土器の台脚部が14点あり，器型のわかるものは，床面直上より出土した１点だけである。土器片円盤（第12図33・34）は14個あるが，本址にともなうものは２個である。土器片錘（第12図40）が１点床面より７㎝浮いて出土した。土堝（第11図15）の下半部が１個あるが覆土中のものである。底部（第13図・第14図）は，図示以外にも多く，100個を越えるが本址に伴うものは30個である。床面下５㎝から１点検出された。土器片の総数は2,400点を越える。

土器の主体を示めるものは深鉢で，曽利Ⅲ期併行のものである。破片（第12図４・６・14他）中に

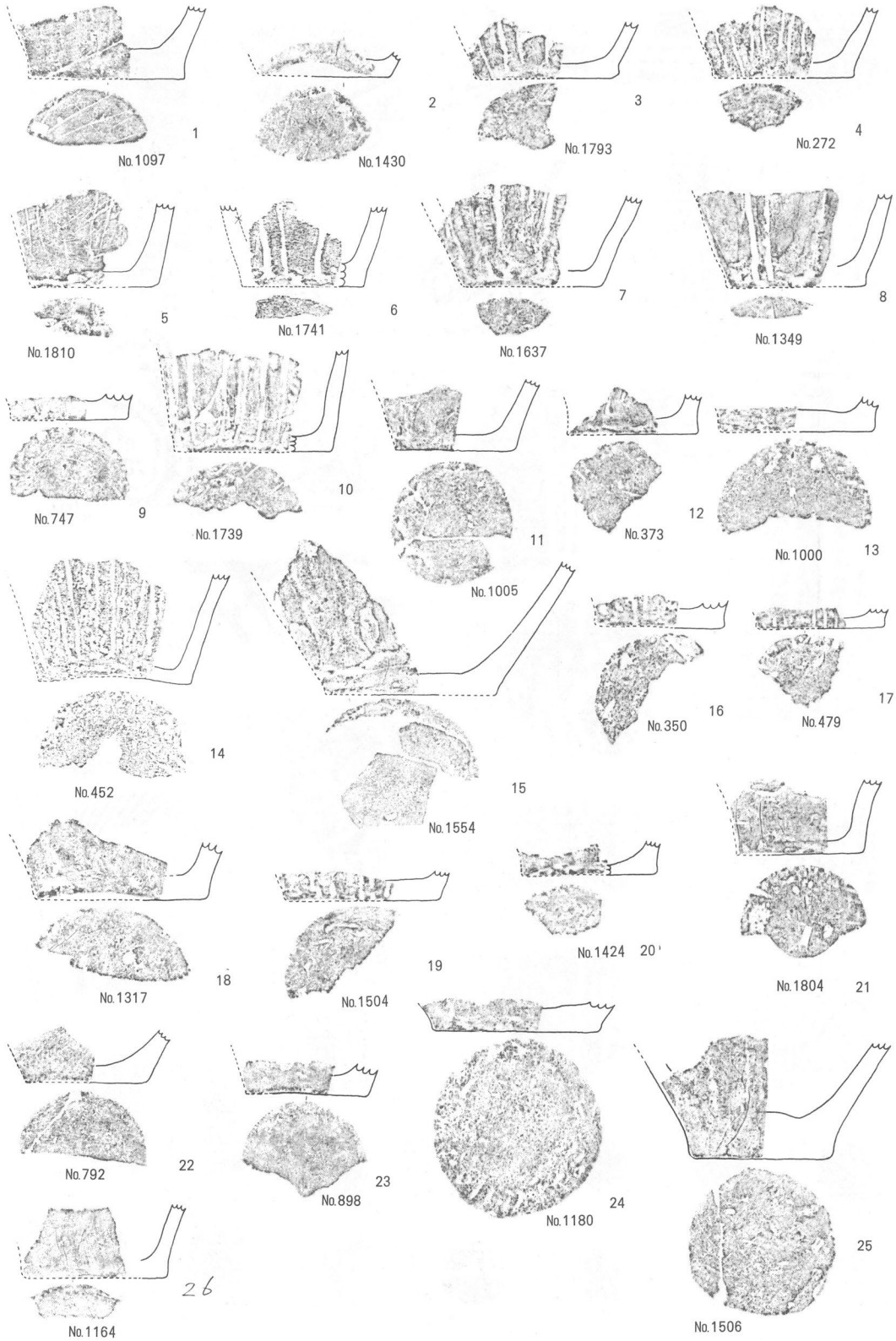
曽利Ⅱ式と関西系とおもわれるものが若干含まれている。特に注目される土器に，無文土器（第11図12・13・14）が3点あり，2点は製作時の器型を伺い知ることができる。輪積整型後，内外壁をヘラと刷毛で調整し（第11図14）は，外壁に縦位のヘラ調整痕が認められる。底部には木葉痕底である。口縁部，頸部は横ナデ仕上で，器壁の色調は黄褐色を呈し，胎土，焼成ともに良好で，底から内壁上部にかけて焦げ付きが残り，外壁に煤の付着があり色調を濃くしている。（第11図12）は，前者と同じ器型であるが，調整は荒く，内外壁共凹凸が激しく，ヘラ，刷毛による調整も前者に比べて悪い。器壁の色調は，明るい黄褐色の胴下半部と，上半部は黒褐色で，胎土，焼成ともに良好である。底から内壁上部にかけての焦げ付き，外壁上半部に煤の付着があり上半部の色調をより濃くしている。焦げ付き，煤の付着状態よりみて，共に煮沸器である。（第11図13）は，口縁部から肩部にかけての破片で，内外壁共横ナデ，ヘラ調整仕上で，器壁の色調は黄赤褐色で，胎土，焼成共に良好であり，内外壁に焦げ，煤の付着は認められない。台付土器（第11図8）は，床面直上よりの出土で，器型のわかる唯一のもので，同一個体とみられる口縁部の破片よりみて波状口縁となり，縄文の地文に粘土紐を貼り，その側縁を棒状工具で沈線を引き，その中に鋭いヘラ状工具の先で連続突刺文が付けられており，台脚部は，縦位の楕円型の窓を3箇所開け，窓の間に隆起文を付け，その間をヘラ状工具による綾杉文で埋め，底部は環状となり木葉痕がある。器壁は，上部が赤味を加えた黒褐色で，台脚部は明るい黄赤褐色に焼成されており，胎土に長石が含まれており堅く焼かれた良好な土器である。

石器は，数量も多くバラエテーにとんでいる。打製石斧（第15図1～12）は，48点と多く，1・2・4・7・8・10・11・12・他16点は床面上のものである。定角式石斧（第15図13・14）は，3点あり完型品は13のみで他は破片であり，14は覆土中のもので火を受けている。横刃型石器（第16図15～25・第17図35～38・43・48・50）は，128点あり，（第16図15・16・21・23・24・第17図38・43・48・50）と，図示以外に48点あり，覆土中より71点でている。石鏃（第16図26～28・33）は，28・33と図示以外に2点あり，覆土中より4点出土している。石錐（第16図31・32）は，2点あり31が床面上のものである。スクレイパー（第16図29・30・34）は，22点あり，29・34他9点が床面上で30・他10点は覆土中のものであり，30・はチャート製で他はすべて黒曜石である。ピエス・エスキーユは，31点あり19点が床面上のもので，12点は覆土のものである。（第17図39）は，硬砂岩製で表皮を片面に残し，周囲を円型に打ち欠いた石器である。（第17図40）は，花崗岩の円礫で周辺に打痕が認められる。小円礫（第17図41・42・47）は，円型と楕円及び不整円のものがあり，大半が硬砂岩の自然礫でその数は300個を越える。石錘（第17図44～46）は，石質の違うものが3点あり，44・は床面上のものである。石棒（第17図49）の胴部の破片が1点覆土よりでている。石皿（第18図51・53）は，2点あり51は西壁直下に壁上より伏せた状態で落下しており，壁寄りに45°傾いて下部が床面に接していた。53・は覆土中のものである。（第18図52）は，花崗岩の自然礫で，表面に2ケ所打痕がみられる石棒状のもので床面上に横位に置かれていた。（第18図54）は粘板岩を打ち欠いて平板状にしたもので，南壁近くの床面上に据置かれており，表面の打痕よりみて工作台である。礫器（第18図55～60・62・63）は，21点あり床面近くの出土は14点（55・58・59・62・63）で，他7点は覆土中のものである。両端，側縁に敲打による欠落のあるもの60・62・63，弱い敲打による痘痕状の面を残すもの（57・59），周辺の磨り減ったもの（55・58）がある。凹石（第18図64），磨石は，共に6点あり，5点が床面上の出土である。

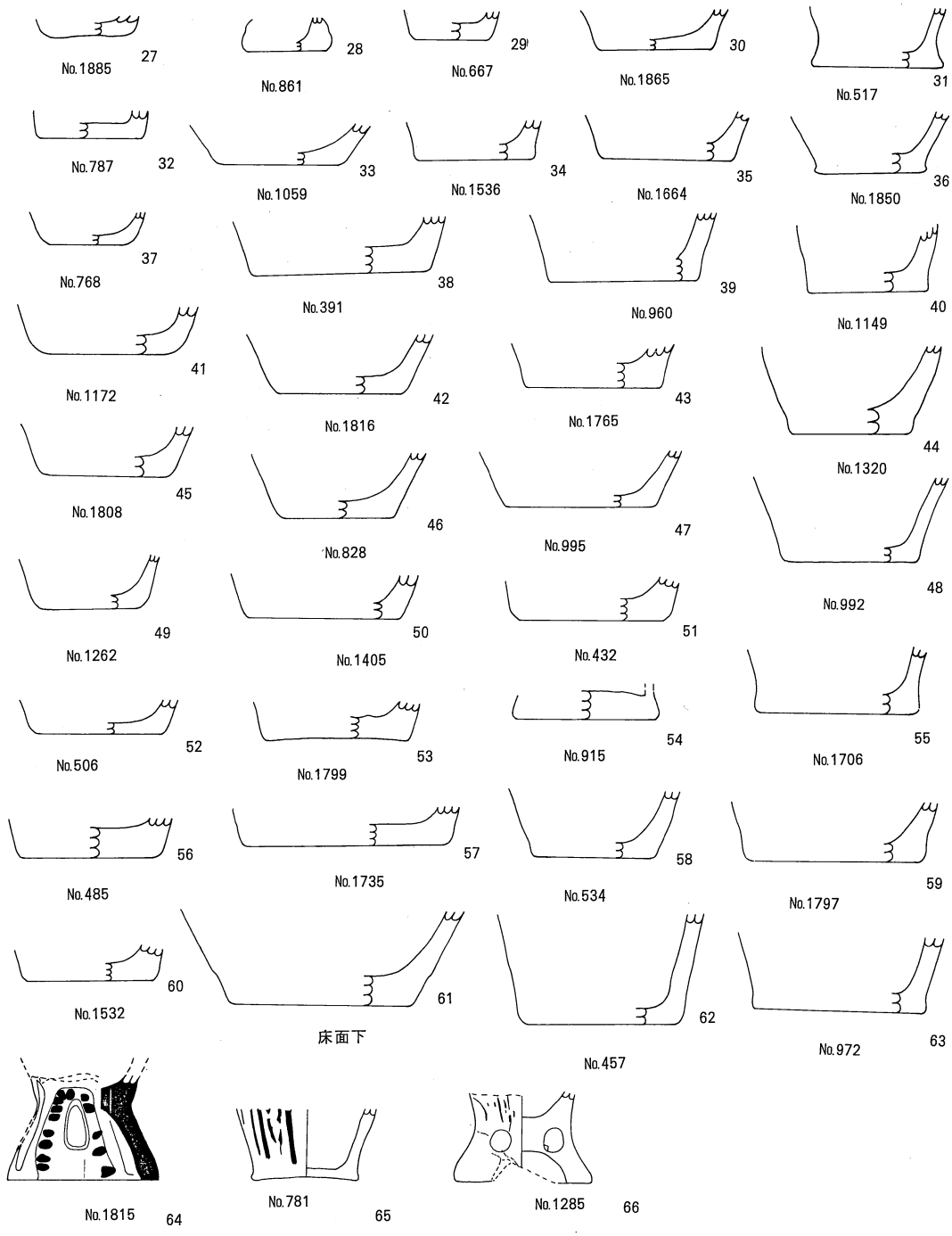
第11図　第１号住居址出土土器実測図（１～14　１：６
15　１：４）



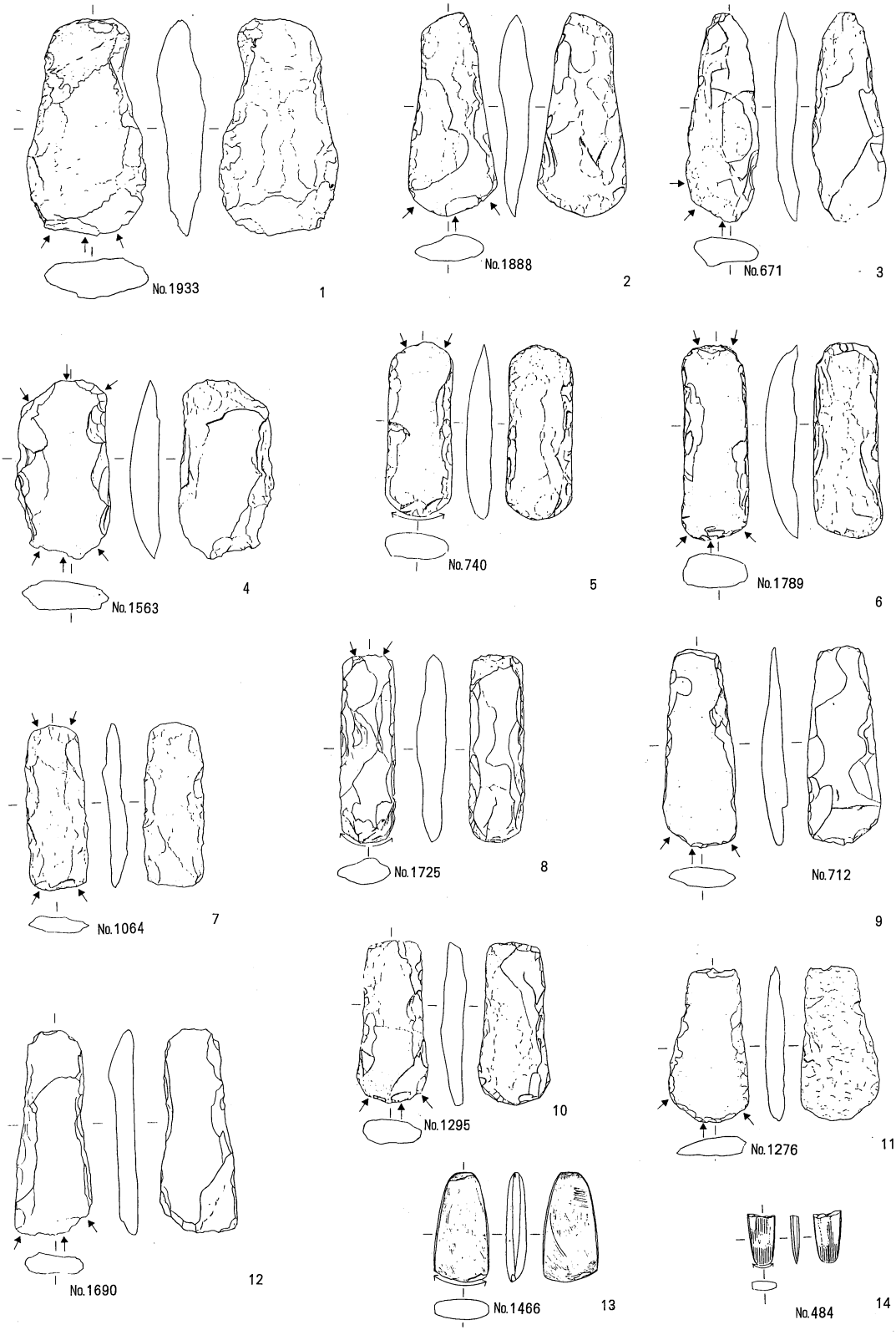
第12図　第１号住居址出土土器（１：３）



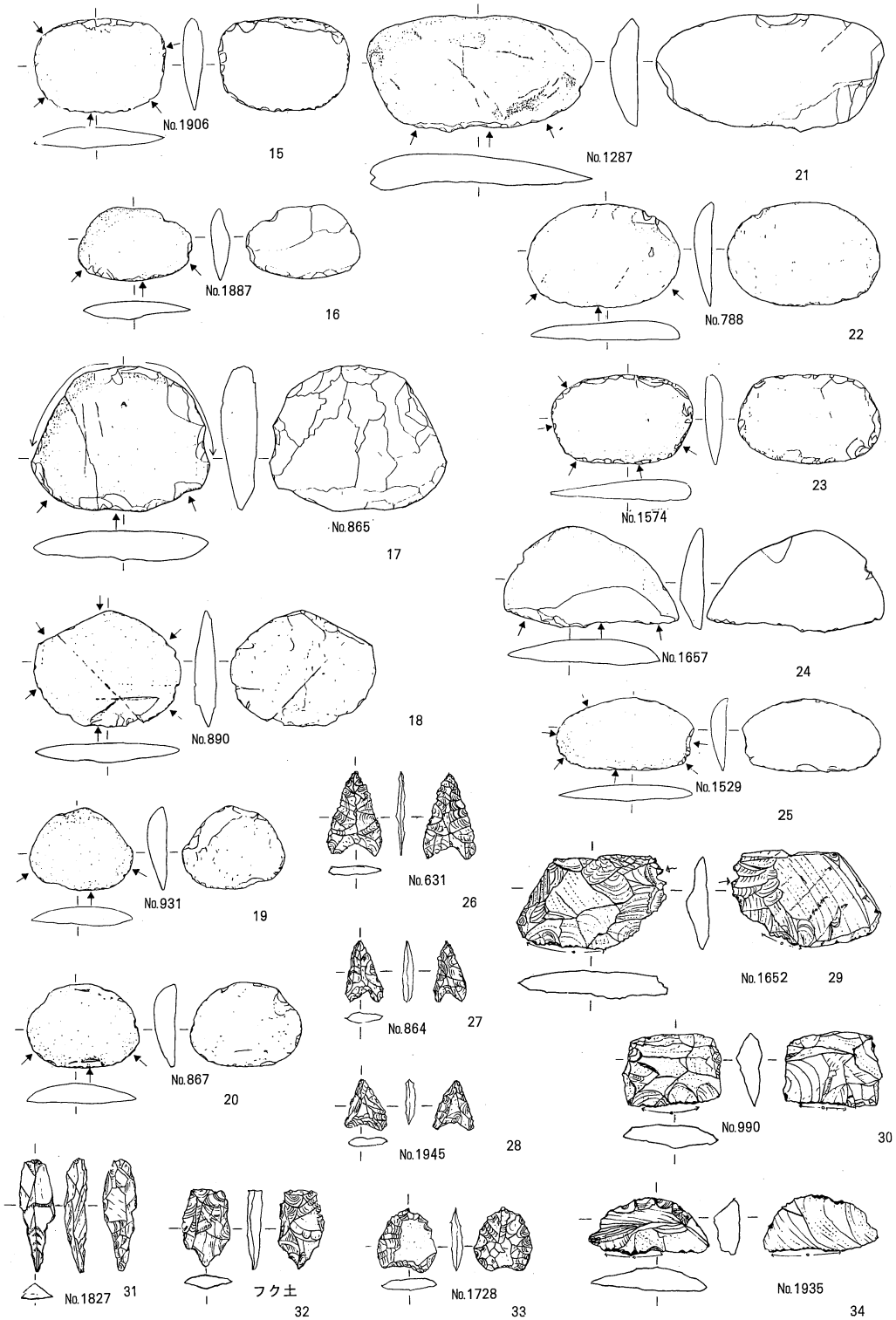
第13図　第１号住居址出土土器底部（１：４）



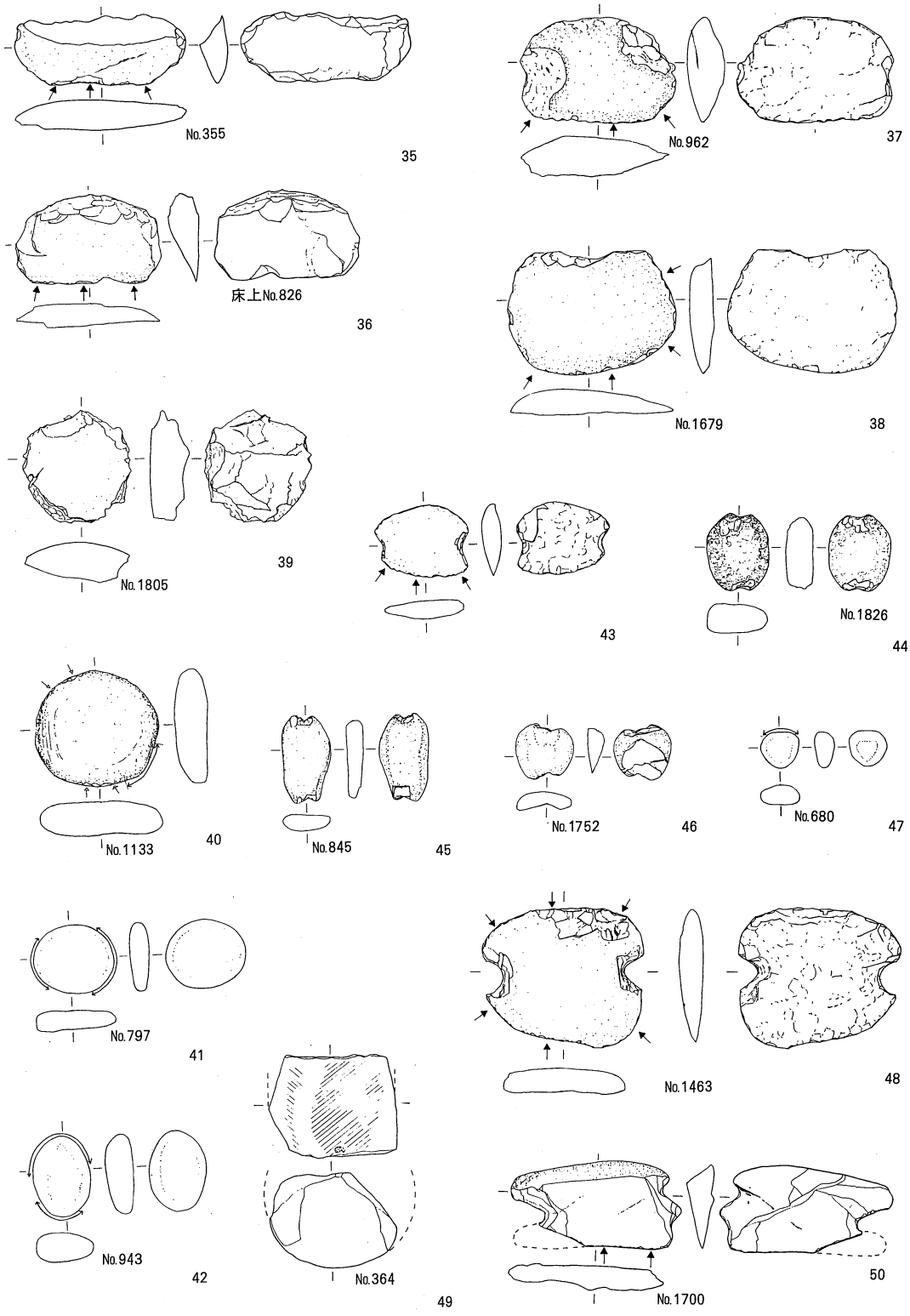
第14図　第１号住居址出土土器底部（１：４）



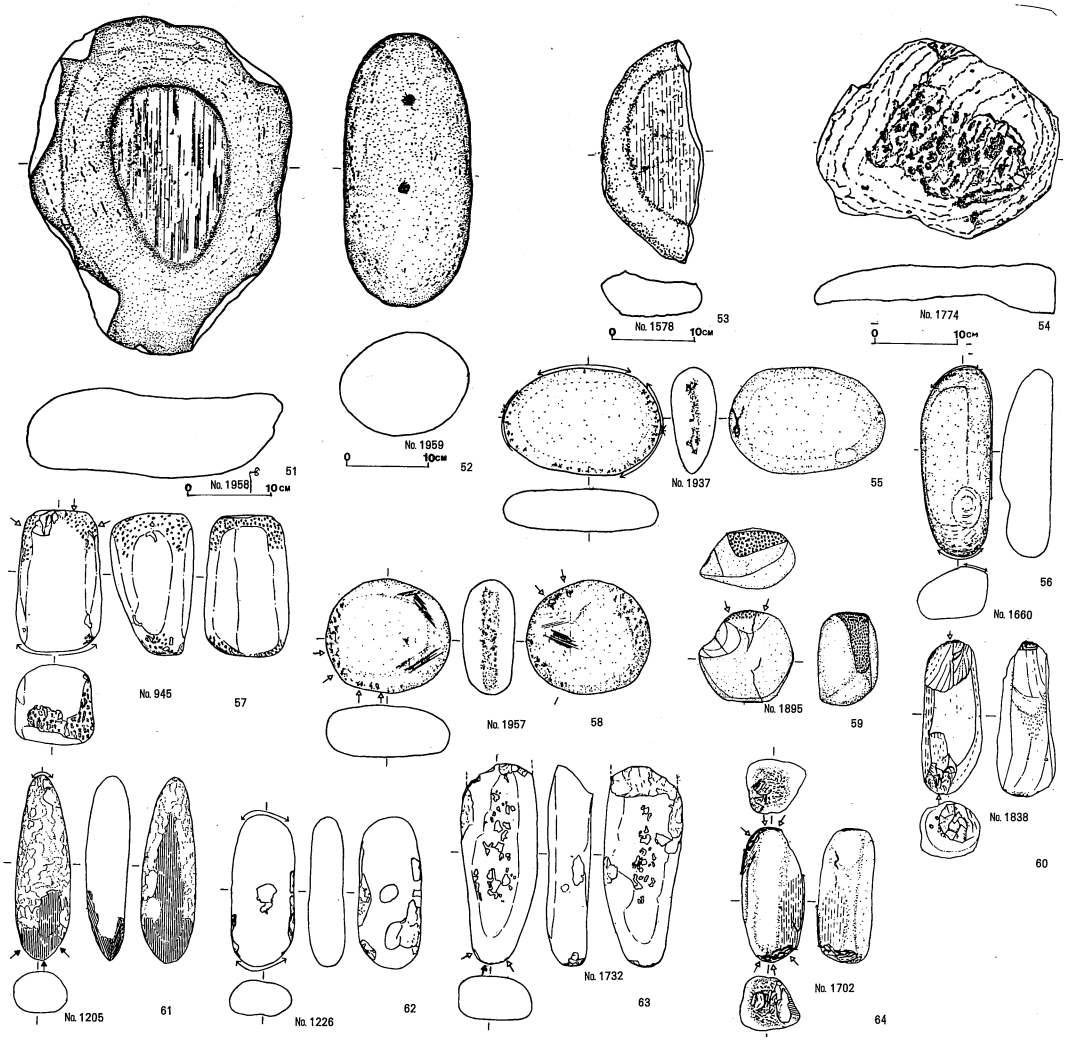
第15図　第１号住居址出土石器実測図（１：２）



第16図　第１号住居址出土石器実測図（１：２）



第17図　第１号住居址出土石器実測図（１：２）



第18図　第１号住居址出土石器実測図（１：３）

横刃型石器のうち約半数が床面近くの出土で，そのなかの３点（第17図43・48・50）は，縄文時代ではあまり例をみないタイプで，弥生時代の石器と見間違がう石器である。43は，6 × 4.3 ㎝の小型のもので，片側に表皮を残し両サイドに抉りを入れ，弧状の刃部をもつ石器で，抉りの摩滅からみて石包丁であろう。48は，前者を大型にしたもので8.7 ×11㎝あり，峯の部分は打ち欠き時の厚い部分を調整のため表皮が6 ㎝，反対側が8.5 ㎝剥ぎとられており，弧状となる刃部の中央部が 4.5 ㎝ばかり内湾しており３㎜を測る。丁寧に作られた石器である。峯と抉りの部分に着柄による摩滅が認められ，刃部に刃こぼれがあり，手鍬を想起させる石器である。50は，背の部分に巾 1.7 ㎝長さ10㎝の表皮を50°の角度に残し，刃部に至る面の一部に打ち欠いた部分を残し，刃部に対して60°の 角度で磨り平にしており，裏面は打ち欠いたままで，両サイドの抉りは，片側に２ケ所，反対に深い抉りが１ケ所入る。刃部が推定４㎝前後欠けている。２箇所の抉りよりみてこのところに紐を掛けて使用したものであり，平の面以外の角の摩滅状況よりみて相当使用されたものである。

表1　第1号住居址土器分類表

	深鉢		台付土器		口縁部		胴部	底部		把手	土偶	土製円板	土製品	計
	完形品	図上復元	図上復元	台のみ	図上復元	他		図上復元	他				土錘	
出土数	2	4	1	13	7	249	1,994	64	34	2	1	11	1	2,383

表2　第1号住居址石器分類表

	打製石斧		定角式石斧		横刃形石斧		磨石		凹石		石錘		乳棒状石器		礫器		石皿	石棒
	出土数	使用痕のあるもの	出土数	使用痕のあるもの	出土数	使用痕のあるもの	出土数	使用痕のあるもの	出土数	使用痕のあるもの	出土数	使用痕のあるもの	出土数	使用痕のあるもの	出土数	使用痕のあるもの		
硬砂岩	37	37			122	110	5	5	2	2			4	4	8	8		
緑泥岩	7	7	3	3	3	3	1	1	1	1	1		9	9	12	12		
粘板岩	4	4			3	2					1		2	2	1	1		
花崗岩									3	3	1						2	
石灰岩													1	1				
安山岩																		1
出土数計	48		3		128		6		6		3		16		21		2	1

表3　第1号住居址黒曜石分類表

	黒曜石	チャート
スクレイパー	21	1
ピエス，エスキーユ	31	
石鏃	8	
石錐	2	
使用痕のある剥片	5	
〃　石刻	5	
使用痕のない剥片	151	
計	222	1

表4　第1号住居址礫・剥片分類表

	大型礫				礫				剥片			
	出土数	使用痕のあるもの	焼痕		出土数	使用痕のあるもの	焼痕		出土数	使用痕のあるもの	焼痕	
			少し	ほぼ全体			少し	ほぼ全体			少し	ほぼ全体
チャート					1		1		1			
粘板岩	1				55	36			54	13	7	1
砂岩	1				22	15		3	21	1	2	6
硬砂岩					220	165	5	17	211	103	23	24
緑色変岩					1		1					
花崗岩	4			1	20	13	1	3	7	1		3
片麻岩					1	1			4			
石灰質青色岩					9	6			1		1	
緑泥岩					48	28	1	1	58	32	4	4
石灰岩					29	12			11	2		1
石英					9	4	1	1	2	1	1	1
計	6	0	0	1	415	280	10	25	370	153	38	40

表5　第1号住居址石器集計表

石器計	235
黒曜石計	224
礫剥片計	791
総計	1,250

表6　打製石斧

No.	遺物No.	出土地点	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	刃部の幅	重さ g	分類	石質	其の他
1	1,933	床	13.6	7.2	2.5	0.9	340	A－I	硬砂岩	
2	1,563	〃	11.2	5.6	1.8	0.9	150	A－II	〃	
3	1,064	フク土	10.4	3.6	1.2	0.6	60	A－III	〃	
4	1,690	床	13.0	4.6	1.1	1.0	140	A－IV	緑泥岩	
5	671	フク土	13.1	4.5	1.7	1.1	100	C－I	硬砂岩	焼けている
6	1,789	床	12.3	4.2	1.9	0.5	140	C－II	〃	
7	1,888	床	12.7	5.5	1.3	0.3	130	B－I	〃	
8	740	フク土	10.9	4.1	1.6	1.0	100	B－II	〃	
9	1,725	床	19.8	3.3	1.4	0.7	110	B－III	緑泥岩	
10	712	フク土	12.4	4.4	1.3	0.5	90	C－III	硬砂岩	
11	1,295	床	10.2	4.3	1.6	0.6	90	B－IV	〃	
12	1,276	〃	9.7	4.9	0.8	0.7	60	C－IV	〃	
13	980	フク土	11.1	4.3	1.4	0.6	90	B－I	〃	
14	924	〃	9.4	5.1	1.4	0.7	90	B－II	緑泥岩	
15	1,309	床	9.9	4.4	1.9	0.7	100	〃	硬砂岩	
16	588	フク土	10.5	5.0	1.9	0.7	120	B－I	〃	
17	1,682	床	9.2	4.5	1.5	1.1	90	〃	〃	
18	1,494	〃	7.9	3.8	1.1	0.7	40	〃	〃	
19	1,136	フク土	8.5	4.8	1.3	9.0	70	B－IV	〃	
20	1,084	〃	8.1	3.9	2.8	0.4	60	B－I	〃	
21	713	フク土	9.6	4.2	1.5	0.4	70	〃	〃	
22	1,870	床	12.0	4.4	2.4	1.1	150	〃	〃	
23	459	〃	8.9	4.5	1.3	1.3	100	C－IV	〃	
24	1,089	〃	12.9	4.0	2.1	0.4	140	B－III	〃	
25	852	床	8.4	3.5	1.4	1.5	60	A－III	硬砂岩	
26	1,549	〃	7.2	2.6	0.9	0.2	25	〃	緑泥岩	
27	275	フク土	19.9	4.5	1.2	0.6	90	C－III	粘板岩	
28	1,876	床	12.8	4.6	1.4	0.9	100	〃	硬砂岩	
29	1,208	フク土	9.3	4.5	1.6	0.5	90	B－I	〃	
30	598	〃	10.8	4.4	0.9	0.7	80	〃	〃	
31	830	〃	7.6	4.0	1.3	0.8	50	C－IV	緑泥岩	
32	1,740	床	13.5	6.7	2.8	1.9	300	A－IV	硬砂岩	
33	704	フク土	13.2	4.7	2.3	欠け	160	B－I	粘板岩	
34	1,220	床	10.4	6.1	2.1	1.1	120	〃	硬砂岩	
35	1,429	〃	11.0	5.5	2.2	1.0	170	〃	緑泥岩	
36	855	フク土	8.6	5.6	1.5	1.1	100	C－III	硬砂岩	
37	1,253	〃	3.4	3.5	1.0	欠け	30	〃	〃	
38	1,944	床	10.0	4.2	1.2	1.2	60	A－I	〃	
39	1,345	〃	7.8	6.6	1.3	0.8	100	〃	〃	
40	790	フク土	8.1	3.8	1.6	0.9	100	B－III	粘板岩	
41	1,377	床	7.0	4.0	1.6	0.4	55	〃	硬砂岩	
42	1,468	〃	6.3	4.3	1.4	1.2	55	〃	〃	
43	1,715	〃	7.4	4.0	1.3	0.9	50	〃	〃	
44	1,277	〃	10.0	3.5	2.5	0.9	100	B－IV	〃	
45	1,171	フク土	9.5	4.5	1.5	1.0	90	〃	〃	
46	838	フク土	10.7	5.0	1.4	0.7	120	〃	〃	
47	1,379	床	12.5	4.3	1.8	0.7	150	B－II	粘板岩	
48	397	フク土	5.6	3.8	0.7	0.5	25	A－III	緑泥岩	

表7　定角式石斧

No.	遺物No.	出土地点	長さ cm	幅cm	厚さ cm	重さ g	使用痕	石質	其の他
1	1,466	床	6.8	3.6	1.1	5.0	先	緑泥岩	焼けている
2	484	フク土	3.2	1.6	1.0	5	〃	〃	
3	1,915	床	3.0	1.5	0.4	2.4	先	緑泥岩	

表8　横刃形石器

No.	遺物No.	出土地点	長さ cm	幅cm	刃幅 cm	厚さ cm	重さ g	石質	使用痕	分類	其の他
1	771	フク土	10.5	5.7	0.2	2.1	140	硬砂岩	あり	D II	
2	268	〃	9.1	6.3	0.3	1.3	100	〃	〃	〃	自然面なし
3	923	〃	10.6	8.2	1.1	1.5	150	〃	〃	〃	
4	664	〃	7.0	5.5	0.1	11.1	50	〃	〃	〃	焼けている
5	932	〃	8.5	4.7	0.1	1.3	55	〃	〃	〃	
6	448	〃	6.7	5.1	0.4	1.2	50	〃	〃	〃	
7	1,125	〃	7.8	4.2	0.1	1.0	45	〃	〃	〃	焼けている
8	1,793	床	7.2	5.2	0.2	0.7	30	〃	〃	〃	
9	1,026	フク土	11.1	6.6	なし	1.0	120	粘板岩	なし	E II	
10	511	〃	8.8	6.5	0.9	1.5	110	硬砂岩	あり	〃	
11	1,692	床	8.7	7.4	0.5	1.6	150	粘板岩	〃	A III	
12	989	フク土	8.9	6.1	0.2	1.5	80	硬砂岩	〃	〃	
13	1,617	〃	10.9	7.4	0.2	1.7	130	〃	〃	〃	
14	870	〃	8.4	4.5	0.3	0.9	40	〃	〃	〃	自然面なし
15	519	〃	8.9	6.7	0.4	1.9	110	〃	〃	〃	
16	1,914	床	6.0	5.4	0.6	0.8	45	〃	〃	〃	横全面に刃部あり
17	1,609	〃	8.3	6.1	0.2	1.4	70	〃	〃	〃	
18	1,312	〃	6.8	4.3	0.7	0.8	20	〃	〃	〃	
19	1,006	フク土	7.5	4.1	0.2	0.7	20	〃	〃	〃	
20	821	〃	6.4	6.2	0.2	1.1	40	〃	〃	〃	
21	826	〃	9.0	5.5	0.5	1.7	100	緑泥岩	〃	B III	
22	1,657	〃	11.3	6.2	2.2	1.6	120	硬砂岩	〃	〃	
23	788	〃	9.7	6.6	0.3	1.0	90	〃	〃	A III	
24	962	〃	9.4	6.7	0.2	2.3	190	緑泥岩	〃	E II	
25	1,287	床	14.3	7.0	0.7	1.8	250	硬砂岩	〃	B II	
26	355	フク土	10.6	4.3	1.9	1.8	90	〃	〃	C I	
27	1,679	〃	10.3	7.2	0.6	1.6	160	〃	〃	A II	
28	890	〃	9.3	7.1	0.8	1.3	100	〃	〃	〃	
29	931	〃	6.2	5.2	0.2	1.4	50	〃	〃	〃	
30	867	〃	7.1	5.3	0.3	1.3	60	〃	〃	〃	
31	1,303	床	7.8	5.6	0.2	1.2	60	〃	〃	B II	
32	865	フク土	11.2	9.4	1.3	2.2	270	〃	〃	A III	
33	1,887	床	7.3	4.8	0.3	1.2	40	〃	〃	〃	
34	1,209	〃	7.0	6.4	0.3	1.7	90	〃	〃	〃	
35	1,898	床	7.9	6.9	0.2	1.6	110	硬砂岩	あり	A III	
36	1,762	フク土	10.3	5.4	0.3	3.5	115	〃	〃	〃	
37	1,663	床	7.8	6.5	2.0	10.1	60	〃	〃	〃	
38	798	フク土	9.2	4.4	0.2	0.7	21	〃	〃	〃	
39	1,686	床	9.8	5.8	0.7	1.3	80	〃	〃	〃	
40	520	フク土	7.1	3.4	0.4	1.4	25	〃	〃	〃	
41	1,134	床	6.5	4.2	0.1	0.9	45	〃	〃	〃	
42	1,933	〃	10.6	6.8	0.3	1.7	160	〃	〃	A II	
43	976	〃	8.5	6.7	0.1	2.5	160	〃	〃	〃	
44	1,192	床	10.0	8.7	1.4	2.8	300	〃	〃	〃	
45	420	フク土	9.9	6.4	0.7	1.5	100	〃	〃	〃	
46	1,008	〃	7.5	6.1	0.2	1.5	70	〃	〃	〃	
47	471	フク土	7.8	6.2	0.2	1.8	100	〃	なし	〃	
48	381	〃	7.9	5.1	0.2	1.5	60	〃	あり	〃	
49	1,060	床	8.4	4.6	0.6	1.1	45	〃	〃	〃	
50	1,095	〃	6.7	6.0	0.9	1.1	50	〃	〃	〃	
51	460	フク土	7.4	4.7	0.2	1.3	40	〃	〃	〃	
52	1,599	床	8.1	4.4	0.3	1.0	40	〃	なし	〃	
53	1,062	〃	5.7	4.3	0.1	0.8	20	〃	〃	〃	
54	286	フク土	5.6	4.9	0.3	0.6	20	〃	あり	〃	
55	1,852	〃	6.8	3.1	0.2	0.8	30	〃	〃	C I	
56	314	〃	5.6	1.9	0.6	0.7	15	〃	〃	〃	
57	758	〃	7.0	5.2	0.8	1.0	40	〃	〃	C III	
58	773	〃	13.0	6.2	0.1	2.0	170	〃	なし	A I	
59	790	〃	10.5	5.9	0.3	1.5	90	〃	あり	〃	
60	188	〃	11.5	7.7	0.1	1.8	170	〃	なし	〃	
61	1,788	床	7.8	6.1	0.3	1.4	70	〃	あり	〃	
62	1,066	〃	9.5	6.6	0.3	1.9	115	〃	〃	〃	
63	500	フク土	9.4	5.3	0.2	1.4	60	〃	〃	〃	
64	1,562	床	10.2	5.8	1.0	1.3	80	〃	〃	〃	
65	693	フク土	9.7	4.9	0.7	1.1	70	〃	〃	〃	
66	1,764	〃	10.3	5.3	0.6	1.4	100	緑泥岩	〃	〃	
67	633	〃	8.5	5.2	0.5	1.3	70	硬砂岩	〃	〃	
68	1,437	床	9.5	6.0	0.4	1.2	75	〃	〃	〃	

No.	遺物No.	出土地点	長さ cm	幅cm	刃幅	厚さ cm	重さ g	石質	使用痕	分類	其の他
69	1,198	床	9.0	4.8	0.5	1.4	70	硬砂岩	あり	A I	
70	1,737	〃	7.0	3.8	0.2	0.9	30	〃	〃	〃	
71	1,336	〃	7.8	3.7	0.6	0.7	20	〃	〃	〃	
72	586	フク土	8.0	4.4	0.1	1.3	50	〃	〃	〃	
73	708	〃	8.8	4.0	0.2	1.7	70	〃	〃	〃	
74	906	〃	8.0	4.6	0.2	1.0	45	〃	〃	〃	
75	849	〃	5.7	3.6		0.8	15	〃	なし	〃	
76	660	〃	6.4	3.5		0.7	15	〃	〃	〃	
77	1,722	〃	6.1	3.7		0.8	20	〃	〃	〃	
78	395	〃	10.7	6.3	0.9	1.7	150	〃	あり	〃	
79	1,315	床	7.9	6.5	0.5	1.5	80	〃	〃	〃	
80	1,571	〃	8.0	5.3	0.5	0.9	50	〃	〃	〃	
81	1,203	〃	7.4	4.6	1.0	1.3	70	〃	〃	〃	
82	1,811	〃	7.7	3.3	0.2	0.9	30	〃	〃	〃	
83	1,508	〃	5.0	4.6	0.9	1.0	25	〃	〃	〃	
84	1,169	〃	7.4	3.5	0.7	0.8	20	〃	〃	〃	
85	1,906	〃	8.3	5.9	0.5	1.2	70	〃	〃	B II	
86	866	フク土	7.7	7.3	0.2	1.5	75	〃	〃	〃	
87	553	〃	10.4	8.0	0.6	2.2	190	〃	〃	〃	
88	1,514	床	9.6	7.0	0.4	1.2	80	〃	〃	〃	
89	1,592	〃	8.6	4.6	0.3	0.9	60	〃	〃	〃	
90	701	フク土	7.5	5.5	0.7	1.0	50	〃	〃	〃	
91	427	〃	8.1	4.5	0.3	1.7	70	〃	〃	〃	
92	1,751	〃	6.9	4.9	0.4	1.8	60	〃	〃	〃	
93	1,523	床	9.5	4.6	0.5	1.2	50	〃	〃	〃	
94	764	フク土	7.8	4.2	0.7	1.0	40	〃	〃	〃	
95	340	〃	6.7	4.7	0.6	1.0	30	〃	〃	〃	
96	564	〃	6.5	3.2	0.5	0.7	15	〃	〃	〃	
97	1,347	床	5.3	4.6	0.9	0.6	20	〃	〃	〃	
98	1,863	〃	10.4	7.2	0.2	1.9	190	〃	〃	〃	
99	1,823	床	9.1	9.0	0.8	3.2	290	硬砂岩	あり	B II	
100	953	フク土	10.0	6.0	0.3	1.5	105	〃	〃	〃	
101	1,166	床	8.4	7.4	0.3	1.4	110	〃	〃	〃	
102	1,522	〃	8.2	6.7	0.2	2.2	140	〃	〃	〃	
103	1,824	〃	6.2	5.5	0.4	0.7	30	〃	〃	〃	
104	1,215	〃	7.3	6.8	0.7	2.2	150	〃	〃	〃	
105	773	フク土	6.4	5.9	0.3	1.0	50	〃	〃	〃	
106	1,907	床	6.6	5.6	1.0	1.2	65	〃	〃	〃	
107	1,834	フク土	8.3	5.4	0.3	1.4	60	〃	〃	〃	
108	1,162	床	5.6	5.5	1.9	1.5	50	〃	〃	〃	
109	1,861	フク土	6.9	5.4	0.2	0.9	55	〃	〃	〃	
110	1,949	床	6.0	4.8	0.3	0.6	45	〃	〃	〃	
111	1,794	〃	6.3	4.9	0.2	0.8	31	〃	〃	〃	
112	755	フク土	5.6	4.5	0.1	0.7	25	〃	〃	〃	
113	464	〃	9.5	4.7	1.2	1.7	70	〃	〃	B III	
114	493	〃	6.4	5.0	0.8	1.2	50	〃	〃	〃	
115	1,067	床	9.0	3.0	0.4	0.8	20	粘板岩	〃	〃	
116	943	フク土	10.1	8.3	0.2	4.9	330	硬砂岩	〃	〃	
117	1,807	床	8.1	6.8	0.3	1.5	100	〃	〃	〃	
118	1,848	フク土	7.8	6.5	0.4	2.4	110	〃	〃	〃	
119	1,800	床	6.8	4.6	0.2	1.0	40	〃	〃	〃	
120	1,925	〃	6.3	4.5	0.1	0.9	30	〃	なし	〃	
121	1,944	〃	7.8	4.9	0.2	1.2	40	〃	あり	〃	
122	902	フク土	7.9	4.0	0.3	1.6	45	〃	〃	〃	
123	1,877	床	5.6	5.4	0.3	2.0	30	〃	〃	〃	
124	799	フク土	5.5	4.6	0.4	1.0	30	〃	〃	〃	
125	1,029	床	5.3	4.1	0.3	1.2	20	〃	〃	〃	
126	1,280	〃	5.8	4.5	1.4	1.2	35	〃	〃	〃	
127	1,463	〃	11.0	8.4	2.8	1.5	175	〃	〃	〃	
128	1,700	〃	11.7	5.3	4.5	1.6	90	〃	〃	〃	

表9　磨　石

No.	出土地点	遺物No.	長さ cm	幅cm	厚さ cm	重さ g	使用痕	石　質	其の他
1	床	1,217	9.9	5.4	3.0	240	平横	硬砂岩	
2	〃	1,435	10.3	5.9	2.6	320	〃	〃	
3	フク土	871	9.4	3.3	2.9	160	平	〃	
4	床	1,598	5.4	4.3	1.3	60	平	緑泥岩	
5	〃	1,922	6.9	6.0	1.4	100	〃	硬砂岩	
6	〃	1,290	5.3	3.8	2.4	60	〃	〃	

表10　凹　石

No.	出土地点	遺物No.	長さ cm	幅cm	厚さ cm	重さ g	使用痕	石　質	其の他
1	床	1,952	11.5	8.7	5.4	650	先	花崗岩	
2	〃	1,451	11.0	8.4	2.6	320	横	〃	
3	フク土	803	8.7	6.9	4.6	370	先	〃	
4	床	1,226	12.1	5.0	2.9	320	横	緑泥岩	
5	〃	1,403	11.0	7.5	4.5	590	先・横	硬砂岩	
6	〃	1,777	10.5	5.8	4.4	370	先	〃	

表11　石　錘

No.	出土地点	遺物No.	長さ cm	幅cm	厚さ cm	重さ g	石　質	其の他
1	床	1,826	4.6	3.9	1.8	50	花崗岩	
2	フク土	845	5.3	3.0	1.0	30	緑泥岩	
3	フク土	1,752	3.6	3.4	1.0	20	粘板岩	焼けている

表12　乳棒状石器

No.	出土地点	遺物No.	長さ cm	幅cm	厚さ cm	重量 g	使用痕	石　質	其の他
1	床	1,205	14.7	4.4	3.3	350	先	緑泥岩	
2	フク土	1,184	12.5	2.6	2.2	130	横・先	〃	
3	〃	815	10.1	3.9	3.0	160	先・横	石灰岩	
4	床	1,670	13.0	4.4	3.3	320	先	粘板岩	
5	〃	1,923	10.3	3.0	1.8	90	平・先	緑泥岩	
6	フク土	547	12.5	3.7	1.9	150	〃	硬砂岩	
7	〃	540	10.9	4.5	3.3	230	先	〃	
8	床	1,480	8.0	3.2	1.4	60	平・先	〃	
9	フク土	642	10.9	4.0	2.4	140	先・横	緑泥岩	
10	床	1,162	8.8	2.9	1.8	60	先	〃	
11	〃	1,282	8.8	2.7	1.3	50	〃	〃	
12	〃	1,383	7.0	2.7	2.2	60	〃	〃	
13	フク土	1,416	7.4	1.9	1.9	50	〃	粘板岩	
14	〃	542	6.9	1.7	1.2	30	〃	硬砂岩	
15	〃	853	6.4	2.7	2.2	60	〃	緑泥岩	
16	床	1,825	13.4	2.7	2.1	150	平・先	〃	

表13　礫　器

No.	出土地点	遺物No.	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	使用痕	石質	分類	其の他
1	フク土	1,660	15.2	5.9	4.0	540	横・先	硬砂岩	B	
2	床	1,937	12.6	8.5	3.4	550	横・先	〃	〃	
3	フク土	1,838	12.3	4.5	3.9	460	先	緑泥岩	〃	
4	床	1,732	16.0	6.2	3.4	510	平・先	〃	〃	
5	〃	1,702	10.8	5.0	4.5	400	先	〃	〃	
6	フク土	945	11.4	6.4	6.2	990	先・横	〃	〃	
7	床	1,694	8.4	8.2	5.1	560	横	〃	〃	
8	〃	1,957	10.0	9.4	4.5	560	横・平	硬砂岩	A	
9	〃	1,805	6.7	6.7	2.5	120	横	〃	〃	
10	フク土	990	14.6	8.7	6.4	1,015	平先横	〃	B	
11	床	1,151	21.2	6.3	5.7	920	先・横	〃	〃	
12	フク土	1,779	15.2	8.1	4.6	610	平先横	硬砂岩	B	
13	床	1,895	8.9	6.7	4.9	440	先	緑泥岩	A	
14	フク土	378	12.0	6.9	5.3	620	平	〃	B	
15	床	1,953	11.5	7.0	6.0	780	平・先	〃	〃	
16	〃	1,464	11.6	8.3	4.9	650	先	硬砂岩	〃	
17	〃	1,319	11.3	5.4	5.4	540	〃	緑泥岩	〃	
18	〃	1,313	10.4	9.1	7.0	960	〃	〃	C	
19	フク土	825	14.3	5.7	4.9	430	〃	粘板岩	B	
20	床	1,412	9.9	8.6	4.3	530	〃	緑泥岩	C	
21	〃	1,139	13.7	7.4	6.4	900	〃	〃	C	

表14　石　皿

No.	出土地点	遺物No.	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ kg	石質
1	フク土	1,774	40.7	30.8	10.0	19.0	花崗岩
2	床	1,957	27.2	11.8	5.2	2.5	花崗岩

表15　石　棒

No.	出土地点	遺物No.	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ kg	石質
1	フク土	364	6.3	6.4	5.8	460	安山岩

表16　スクレイパー

No.	出土地点	遺物No.	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ mg	石質	備考
1	床	1,573	44	22	6	5	黒曜石	
2	〃	1,652	48	8	7	1.2	〃	
3	〃	1,550	34	17	4	3.2	〃	
4	〃	1,935	36	18	7	3.8	〃	
5	〃	1,603	33	16	4	2.2	〃	
6	フク土	1,627	30	15	7	2.8	〃	
7	〃	990	31	30	10	9.0	チャート	
8	〃	1,716	30	19	7	4.2	黒曜石	
9	床	1,329	32	20	6	3.1	〃	
10	フク土	109	45	21	13	7.8	〃	
11	〃	789	25	21	9	5.2	〃	
12	フク土	607	30	15	6	3.0	黒曜石	
13	床	1,712	29	18	8	3.2	〃	
14	フク土	1,646	28	21	0.9	6.8	〃	
15	床	1,542	29	20	8	4.1	〃	
16	フク土	417	32	15	12	4.2	〃	
17	〃	194	27	20	11	2.6	〃	
18	床	1,111	22	13	5	2.1	〃	
19	フク土	833	29	12	4	2.	〃	
20	〃	862	25	15	10	6.6	〃	
21	床	1,819	20	15	4	1.2	〃	
22	〃	1,935	20	11	3	1.0	〃	

表17　ピエスエスキーユ

No.	出土地点	遺物No.	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ mg	石質	備考
1	床	1,819	24	29	11	7.4	黒曜石	
2	フク土	1,841	27	22	4	4.5	〃	
3	床	1,395	25	18	7	4.6	〃	
4	〃	1,871	29	18	10	5.1	〃	
5	〃	1,512	35	24	18	5.2	〃	
6	フク土	1,721	24	21	5	2.6	〃	
7	〃	830	25	14	7	2	〃	
8	床	1,935	31	28	5	2.2	〃	
9	〃	1,267	34	20	7	3.6	〃	
10	〃	987	28	15	7	2.3	〃	
11	フク土	528	19	15	6	0.9	〃	
12	床	1,591	23	20	17	1.8	〃	
13	〃	1,331	21	18	5	1.8	〃	
14	〃	1,928	33	21	6	2.4	〃	
15	〃	1,027	25	20	4	2.1	〃	
16	〃	1,395	27	18	11	4.7	〃	
17	フク土	162	21	20	4	1.9	黒曜石	
18	〃	1,305	26	18	11	4.8	〃	
19	床	1,614	26	21	5	2.4	〃	
20	〃	1,803	21	15	6	2.0	〃	
21	〃	1,949	23	21	4	2.6	〃	
22	〃	1,527	27	26	1	2.8	〃	
23	〃	1,395	34	27	12	7.6	〃	
24	〃	1,549	24	26	10	6.8	〃	
25	〃	1,954	36	31	12	15.7	〃	
26	フク土	上ノA	22	21	5	2.4	〃	
27	〃	上ノB	32	15	7	3.2	〃	
28	〃	上ノC	20	15	7	3.2	〃	
29	〃	上ノD	23	21	6	3.3	〃	
30	〃	上ノE	26	25	11	4.0	〃	
31	〃	上ノF	20	13	6	2.0	〃	

表18　石鏃一覧表

No.	出土地点	遺物No.	長さ cm	幅 cm	重さ mg	厚さ cm	石質	備考
1	床	1,728	1.9	1.9	1.5	0.3	黒曜石	
2	フク土	631	2.7	1.7	1.2	0.3	〃	
3	〃	864	1.9	1.1	0.5	0.3	〃	
4	床	1,945	1.5	1.3	0.4	0. 25	〃	
5	フク土	なし	2.0	1.4	0.7	0.4	黒曜石	欠けている
6	床	1,655	1.0	0.8	0.2	0.2	〃	
7	フク土	1,632	2.0	0.9	0.5	0.3	〃	
8	床	1,698	1.5	1.3	0.45	0.3	〃	

表19　石錐一覧表

No.	出土地点	遺物No.	全体形	錐部の形状	長さ	幅mm	錐部の長さmm	錐部の幅mm	重さ	使用痕の状態	石質
1	床	1,827	縦形	棒状	3.1	1.0	1.2	0.5	2.1	磨耗あり	黒曜石
2	フク土		板形	棒状	2.4	1.4	0.3	0.3	1.7	擦痕あり	〃

表20　使用痕のある剥片、石核

No.	出土地点	遺物No.	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	分類	石質	その他
1	床	1,819	28	19	4	1.7	剥片	黒曜石	
2	フク土	568	20	14	7	2.2	〃	〃	
3	〃	405	16	15	5	1.1	〃	〃	
4	〃	G	23	15	5	1.3	〃	〃	
5	〃	H	10	14	4	1.1	〃	〃	
6	フク土	907	49	23	19	21.1	石核	黒曜石	
7	床	1,324	33	30	16	13.0	〃	〃	
8	フク土	1,756	30	22	24	14.1	〃	〃	
9	床	1,915	24	24	14	11.6	〃	〃	
10	フク土	1,885	17	14	13	3.7	〃	〃	

表21　大型礫

No.	出土地点	遺物No.	長さcm	幅cm	厚さcm	重さkg	使用痕	石質	その他
1	床	1,774	29.4	22.6	5.9	3.4	平	粘板岩	
2	〃	1,959	33.2	15.4	12.6	9.2	〃	花崗岩	
3	フク土	−	24.5	19.5	5.2	5.45	不明	〃	
4	フク土	−	22.3	17.5	7.0	6.0	平	花崗岩	
5	〃	−	20.1	19.5	5.5	4.5	不明	〃	
6	〃	−	14.5	13.2	4.7	1.15	不明	砂岩	

表22　礫

使用痕　先，横，平　　分類　A－円形，B－楕円形，C－不整形

No.	出土地点	遺物No.	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	使用痕	石質	分類	その他
1	フク土	895	8.5	8.	3.2	370	横	石灰岩(礫)	C	
2	〃	963	14.7	7.0	1.1	360	横	硬砂岩	C	
3	〃	1,488	13.5	7.5	3.4	430	横	砂岩	C	
4	〃	861	11.	4.5	3.0	260	先	硬砂岩	C	
5	床	1,859	8.0	8.0	3.3	280	先	石英	C	
6	フク土	348	7.0	4.0	3.4	200	先	〃	C	
7	〃	1,051	9.8	5.0	3.6	105	なし	〃	C	
8	〃	827	8.0	7.2	2.8	240	なし	〃	C	焼けている
9	〃	1,362	8.2	7.4	2.4	170	横	粘板岩	C	
10	〃	1,389	7.5	6.1	4.8	270	先	石英	C	
11	〃	470	17.0	7.5	3.9	750	なし	硬砂岩	C	
12	〃	1,639	9.5	4.0	4.2	190	なし	砂岩	C	
13	〃	897	8.0	6.0	2.5	220	先横	硬砂岩	C	
14	〃	897	8.0	6.0	3.1	210	先	〃	C	
15	〃	893	10	7.0	4.2	400	先	花崗岩	C	
16	床	1,806	12	11.0	3.9	1,050	先	粘板岩	C	
17	フク土	552	6.5	3.0	2.7	70	なし	石英	C	
18	〃	574	16.0	9.0	4.2	650	先	硬砂岩	C	
19	〃	1,298	14.0	8.0	4.5	600	先	〃	C	焼けている
20	〃	494	11.2	3.5	3.8	200	なし	石英(岩)	C	少し〃
21	〃	1,177	10.	5.0	3.5	270	なし	チャート(係)	C	〃
22	〃	915	13.5	4.0	3.4	270	先	硬砂岩	C	焼けている
23	〃	1,365	7.5	5.9	4.6	26	なし	花崗岩	C	
24	〃	77	8.9	6.7	3.3	210	先	硬砂岩	C	焼けている
25	〃	1,455	7.0	4.1	3.4	190	なし	〃	C	
26	床	1,941	9.5	6.0	5.1	350	先	〃	C	
27	フク土	1,140	9.1	7.0	3.5	260	なし	粘板岩	C	
28	床	1,840	6.0	4.4	3.4	99	なし	石灰岩	C	
29	フク土	1,160	7.2	6.0	3.4	210	先	硬砂岩	C	
30	〃	1,561	5.0	4.0	1.8	60	なし	〃	C	
31	〃	1,176	8.6	5.7	5.2	270	先	〃	C	
32	〃	1,311	8.0	4.7	3.7	170	先横	〃	C	上部が僅かに磨ある
33	〃	1,561	10.0	3.0	3.6	210	平	〃	C	
34	〃	930	7.9	6.5	4.0	265	先	〃	C	焼けている
35	〃	486	7.8	5.6	4.5	240	先横	〃	C	
36	〃	1,239	7.9	2.7	3.3	190	なし	砂岩	C	
37	〃	1,459	10.4	4.0	4.1	260	先	硬砂岩	C	先が一部磨てある
38	〃	991	9.8	6.4	2.7	32	先横	緑泥岩	B	
39	〃	1,560	7.0	5.3	2.2	102	なし	粘板岩	B	
40	〃	1,072	11.7	5.6	4.1	340	先	硬砂岩	B	
41	床	1,809	12.6	9.1	4.3	740	なし	粘板岩	B	
42	フク土	1,629	10.9	7.0	3.9	440	なし	花崗岩	B	
43	〃	1,305	10.7	7.9	5.6	550	なし	緑泥岩	C	
44	〃	1,442	7.5	6.7	5.2	440	なし	粘板岩	C	
45	フク土	1,221	12.5	5.2	3.9	410	先	花崗岩	B	
46	〃	1,224	10.6	3.0	2.3	70	なし	粘板岩	C	
47	床	1,924	10.0	9.7	3.3	340	〃	緑泥岩	C	
48	フク土	1,688	9.1	6.1	4.1	315	先	石灰岩(礫)	B	両端に敲打痕
49	〃	891	9.9	3.9	2.8	195	〃	硬砂岩	B	〃
50	〃	1,593	9.2	5.0	2.3	166	なし	粘板岩	C	
51	〃	1,411	9.0	4.6	3.0	180	〃	〃	C	
52	〃	1,393	9.9	5.7	2.0	180	〃	〃	C	
53	〃	1,446	7.2	5.5	3.7	180	〃	硬砂岩	C	焼けている
54	床	1,709	7.5	5.0	3.3	170	先	〃	C	
55	フク土	1,129	8.2	9.0	3.7	210	横先	〃	C	少し焼けている
56	〃	822	7.5	5.5	2.8	165	先	〃	C	
57	フク土	1,147	10.0	8.0	5.4	550	〃	〃	C	三方の先端使用痕あり
58	〃	273	8.2	5.1	3.1	190	なし	石英	C	
59	〃	1,291	9.6	7.1	2.7	200	先横	硬砂岩	C	
60	〃	1,579	17.9	9.5	7.0	1,750	先	石英	B	重量あり敲打器
61	〃	796	9.2	5.4	2.2	160	先横	硬砂岩	B	
62	〃	1,395	7.5	6.2	1.9	150	〃	〃	C	
63	〃	1,415	7.6	6.5	3.1	215	先	緑泥岩	B	
64	〃	1,155	8.0	5.1	4.3	225	〃	粘板岩	C	
65	〃	701	6.5	5.5	3.4	190	〃	硬砂岩	B	
66	〃	705	8.1	4.0	3.4	160	横	〃	B	
67	〃	551	12.5	7.2	4.3	515	先	緑泥片岩	B	
68	〃	1,581	8.6	5.0	2.6	160	〃	砂岩	B	
69	〃	1,586	7.0	5.2	5.1	210	なし	石灰岩	C	
70	〃	1,499	8.2	5.0	3.2	170	先	硬砂岩	B	
71	〃	1,649	8.7	5.2	1.3	101	先横	粘板岩	B	
72	〃	617	7.5	3.5	2.2	100	先	硬砂岩	B	
73	〃	504	5.7	4.0	1.7	60	〃	〃	B	
74	〃	1,427	6.6	3.4	1.5	55	〃	〃	B	
75	〃	1,119	7.2	5.9	1.5	110	先横	〃	B	
76	〃	1,486	6.2	4.2	2.0	70	なし	〃	B	
77	〃	1,623	7.2	4.0	2.3	100	先	〃	B	
78	〃	634	7.3	3.0	2.4	8	横	〃	B	
79	〃	793	6.6	3.5	1.7	60	先横	〃	B	
80	〃	513	7.0	4.0	2.0	90	先	〃	B	
81	〃	1,178	6.6	4.6	2.7	100	先横	〃	B	
82	〃	1,232	6.6	3.5	1.6	60	なし	〃	B	
83	〃	1,111	6.1	4.0	1.9	60	先	〃	B	
84	〃	802	6.0	3.9	1.5	50	横	〃	B	
85	〃	939	6.3	4.8	2.2	100	先	石灰岩	B	
86	〃	822	5.5	3.4	1.7	45	なし	硬砂岩	B	
87	〃	786	5.8	4.4	1.9	60	先	〃	B	
88	ベルト	1,914	5.6	4.3	2.2	70	〃	粘板岩	B	

No.	出土地点	遺物No.	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	使用痕	石質	分類	其の他
89	フク土	314	5.8	3.9	1.7	50	先 横	硬砂岩	B	
90	〃	1,429	5.7	4.2	1.9	60	な し	〃	B	
91	床	1,753	6.4	3.4	1.9	60	先	〃	B	
92	フク土	710	6.9	4.5	2.0	100	〃	〃	B	
93	〃	542	6.0	3.8	2.7	80	〃	粘板岩	B	
94	床	1,867	5.9	2.9	2.3	60	な し	緑泥岩	B	
95	フク土	1,396	6.1	3.7	2.0	70	先	硬砂岩	B	両端使用痕
96	〃	542	5.1	3.5	1.7	50	〃	〃	B	
97	〃	668	4.4	3.4	1.2	25	な し	石灰岩	B	
98	床	1,849	5.4	2.9	1.7	40	〃	硬砂岩	B	
99	フク土	771	5.8	3.8	2.1	60	先	粘板岩	B	
100	床 面	1,934	5.7	3.8	2.0	50	〃	硬砂岩	B	
101	フク土	909	4.6	4.1	0.8	20	〃	粘板岩	B	
102	〃	856	4.9	3.2	1.4	30	〃	硬砂岩	B	
103	〃	1,668	4.6	3.2	1.7	40	〃	緑泥岩	B	
104	〃	1,335	5.5	4.2	1.2	40	先 横	硬砂岩	B	
105	〃	705	5.7	3.4	1.7	50	先	〃	B	
106	〃	1,479	4.3	3.2	0.9	20	横	緑泥岩	B	
107	〃	518	4.9	3.9	1.6	50	先 横	硬砂岩	B	
108	床	1,849	4.9	2.8	1.3	20	横	緑泥岩	B	
109	フク土	745	4.5	2.6	1.5	20	先	石灰岩	B	
110	〃	793	5.5	3.9	1.5	40	〃	硬砂岩	B	
111	〃	1,184	3.9	2.9	0.9	10	な し	粘板岩	B	
112	〃	1,755	4.9	3.8	1.0	30	先 横	硬砂岩	B	
113	床	1,834	6.0	5.8	2.1	100	先 横	硬砂岩	A	横全周使用痕
114	フク土	1,388	5.6	4.4	3.2	110	先	〃	A	
115	床	1,864	5.1	4.5	1.6	50	先 横	〃	A	
116	フク土	1,551	4.9	4.6	2.2	70	平 横	〃	A	
117	〃	822	5.9	5.1	1.4	60	先	〃	A	
118	〃	1,605	4.9	4.2	2.1	60	〃	〃	A	
119	〃	943	7.7	5.2	2.4	100	先 横	〃	A	
120	〃	1,373	3.9	3.8	1.5	30	横	〃	A	
121	〃	933	4.6	4.1	1.1	30	〃	粘板岩	A	
122	〃	705	4.9	4.5	1.7	40	先	硬砂岩	A	横全周に使用痕
123	〃	1,602	4.7	3.8	1.2	30	先 横	〃	A	
124	〃	928	4.5	3.7	1.5	40	〃	〃	A	焼けている
125	〃	1,347	4.5	3.5	1.0	20	先	〃	A	
126	〃	1,157	4.1	4.1	1.4	30	横	粘板岩	A	
127	〃	1,825	4.3	3.5	2.2	50	先	硬砂岩	A	
128	〃	1,216	4.0	3.7	1.8	40	〃	〃	A	
129	床	1,849	5.2	4.3	1.2	40	〃	〃	A	
130	〃	1,767	3.6	3.4	1.5	15	な し	〃	A	
131	フク土	749	3.6	3.4	1.4	20	先	〃	A	
132	〃	1,002	3.6	3.5	1.5	25	〃	〃	A	焼けている
133	〃	514	3.8	3.5	1.6	40	な し	〃	A	
134	〃	786	3.8	3.5	1.2	20	先 横	〃	A	
135	〃	550	6.9	6.2	1.0	50	先	粘板岩	A	
136	〃	799	3.7	3.5	1.0	15	先 横	硬砂岩	A	
137	床	1,825	3.5	3.4	2.2	30	先	石灰岩	A	
138	フク土	1,327	3.4	3.2	0.8	10	横	硬砂岩	A	焼けている
138	床	1,755	3.9	3.5	1.0	20	な し	緑泥岩	A	
140	フク土	1,469	3.1	3.0	1.0	10	〃	硬砂岩	A	
141	床	1,771	5.0	3.5	2.1	60	先	石灰岩質青色岩	B	
142	フク土	621	5.5	3.0	1.5	30	〃	硬砂岩	B	
143	〃	1,612	5.2	3.0	1.5	40	〃	〃	B	
144	〃	1,341	4.1	3.2	0.9	20	〃	〃	B	
145	〃	771	4.7	3.1	1.3	30	〃	〃	B	
146	〃	389	4.9	2.4	1.2	20	〃	〃	B	
147	〃	809	4.4	3.0	1.4	30	横	〃	B	
148	〃	558	5.0	2.8	1.6	30	な し	〃	B	
149	床	1,871	4.7	3.2	1.4	30	先	〃	B	
150	フク土	1,429	3.9	2.8	1.2	20	横	緑泥岩	B	
151	〃	284	3.4	2.5	0.7	10	な し	石灰岩	B	
152	〃	1,120	3.8	1.8	0.8	5	平 先	砂 岩	B	焼けている
153	〃	804	4.4	3.3	1.2	30	先	硬砂岩	B	
154	〃	705	3.5	3.1	1.2	20	〃	粘板岩	B	
155	〃	705	4.2	3.2	1.8	35	〃	硬砂岩	B	
156	〃	701	4.1	3.4	1.2	20	〃	粘板岩	B	
157	〃	764	4.4	2.4	1.7	25	〃	硬砂岩	B	少し焼けている
158	床	1,825	3.5	2.6	1.2	10	横	〃	B	

No.	出土地点	遺物No.	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	使用痕	石質	分類	其の他
159	フク土	809	4.8	3.2	1.3	30	横	硬砂岩	B	
160	〃	1,022	4.3	2.8	1.2	15	先	〃	B	
161	〃	786	3.8	2.7	1.2	20	〃	粘板岩	B	
162	〃	542	4.3	2.3	1.0	10	な し	硬砂岩	B	
163	〃	646	4.4	3.0	1.5	30	横	〃	B	
164	〃	382	3.9	2.5	1.0	20	先	石灰岩	B	
165	〃	324	4.0	2.7	1.1	20	〃	硬砂岩	B	
166	床	1,771	4.7	2.7	1.0	20	〃	〃	B	
167	フク土	284	3.7	3.0	1.2	25	〃	粘板岩	B	
168	〃	771	4.4	2.8	0.8	15	横	硬砂岩	B	
169	〃	904	4.1	2.8	1.4	20	横	硬砂岩	B	少し焼けている
170	〃	1,645	3.1	3.1	1.0	15	先	粘板岩	B	
171	〃	764	4.0	1.6	1.1	15	〃	硬砂岩	B	
172	〃	680	3.5	2.9	1.1	20	〃	〃	B	
173	〃	414	3.0	2.3	1.9	10	〃	砂 岩	B	
174	床	1,901	2.3	2.1	0.4	5	横	粘板岩	A	
175	フク土	929	6.6	4.4	1.6	50	な し	〃〃	C	
176	〃	1,384	8.4	3.8	1.9	100	横	緑泥岩	C	
177	〃	1,616	4.8	3.8	1.6	40	な し	硬砂岩	C	
178	床	1,825	7.3	5.2	2.6	150	先 横	〃	B	
179	フク土	1,371	5.0	4.6	1.5	60	な し	粘板岩	C	
180	〃	293	5.9	5.4	2.2	110	〃	石灰岩	C	
181	〃	1,478	7.7	4.5	3.9	170	先	硬砂岩	C	
182	〃	1,345	6.5	4.5	2.8	150	〃	緑泥岩	C	
183	床	1,753	6.4	4.1	2.0	70	平 横	石灰質青色岩	C	
184	フク土	289	7.1	5.8	2.6	140	横	硬砂岩	C	
185	〃	827	4.7	4.3	1.5	50	先	石灰質青色岩	C	
186	床	1,747	6.7	4.5	1.7	60	〃	硬砂岩	C	
187	〃	1,755	7.1	5.0	1.8	80	〃	粘板岩	C	
188	フク土	822	5.8	3.8	1.4	40	〃	〃	C	
189	〃	738	7.6	3.0	1.7	60	〃	硬砂岩	C	
190	〃	1,469	3.9	2.5	1.6	30	〃	石灰岩	C	磨ってある
191	〃	1,296	6.7	5.0	1.6	90	先 横	硬砂岩	C	
192	床	1,710	7.3	6.0	1.4	80	先	粘板岩	C	
193	フク土	1,516	7.7	2.9	2.1	65	〃	緑泥岩	C	
194	〃	822	6.4	5.8	2.7	120	横	硬砂岩	C	
195	床	1,833	5.4	4.9	1.4	60	先	粘板岩	C	
196	フク土	909	6.1	4.0	2.1	65	〃	硬砂岩	C	焼けている
197	床	1,867	4.9	3.4	1.9	55	な し	石灰岩	C	
198	フク土	1,208	5.8	4.6	1.4	50	先	砂 岩	C	
199	〃	1,071	6.5	4.1	1.8	55	な し	花崗岩	C	
200	床	1,833	5.2	4.4	1.9	50	横	硬砂岩	C	
201	フク土	1,433	5.1	3.0	2.5	60	な し	緑泥岩	C	
202	〃	1,387	4.3	4.0	1.0	30	〃	石灰岩	C	
203	〃	1,487	5.6	4.1	1.3	40	先	硬砂岩	C	焼けている
204	〃	701	4.6	3.9	2.2	50	〃	花崗岩	C	
205	〃	314	5.8	3.3	1.6	40	〃	硬砂岩	C	
206	〃	1,122	5.1	3.5	1.1	25	〃	石灰岩	C	
207	〃	1,268	4.8	4.2	1.9	55	な し	〃	C	
208	〃	1,156	5.3	3.9	1.9	40	先	硬砂岩	C	
209	〃	1,447	5.0	4.0	2.2	50	な し	〃	C	
210	〃	822	5.4	3.7	1.7	40	〃	石灰質青色岩	C	
211	床	1,867	4.5	3.4	1.3	30	先	砂 岩	C	
212	フク土	705	4.7	3.5	2.1	40	な し	粘板岩	C	
213	〃	1,650	4.5	3.6	1.2	35	〃	〃	C	
214	〃	389	4.9	2.8	1.7	40	先	花崗岩	C	
215	〃	1,144	5.4	3.5	1.2	35	先	石灰岩	C	
216	〃	822	4.9	3.9	1.6	30	な し	硬砂岩	C	
217	床	1,834	4.5	2.4	1.8	35	先	緑泥岩	C	
218	フク土	440	5.3	2.7	0.7	20	な し	〃	C	
219	床	1,771	3.6	3.3	1.9	30	〃	硬砂岩	C	
220	フク土	705	4.5	2.9	1.9	30	先	緑泥岩	C	
221	〃	553	4.8	2.2	1.5	15	な し	硬砂岩	C	
222	床	1,871	4.7	1.9	1.3	20	先	石灰青色岩	C	
223	〃	1,871	4.6	3.0	1.0	25	な し	粘板岩	C	
224	〃	1,871	4.5	3.1	1.2	20	〃	砂 岩	C	
225	〃	1,871	4.0	2.5	1.3	20	〃	石灰岩	C	
226	フク土	410	4.0	2.3	1.0	15	〃	緑泥岩	C	
227	〃	1,121	3.7	3.1	1.9	30	〃	硬砂岩	C	
228	〃	1,216	3.6	3.4	1.5	30	〃	〃	C	

No.	出土地点	遺物No.	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	使用痕	石質	分類	其の他
229	フク土	897	3.4	2.6	1.1	15	先	石灰岩	C	
230	〃	1,512	4.0	2.4	0.9	20	横	緑泥変岩	C	
231	〃	764	3.8	2.9	1.2	15	なし	緑泥岩	C	
232	〃	1,469	4.6	1.4	0.6	5	〃	粘板岩	C	
233	〃	705	2.9	2.1	1.6	10	〃	硬砂岩	C	
234	〃	1,380	3.8	2.2	1.0	15	〃	石灰岩	C	
235	〃	280	3.0	2.0	0.6	5	先	砂岩	C	
236	〃	542	7.9	4.3	1.9	90	〃	硬砂岩	B	焼けている
237	〃	1,153	4.7	4.0	2.1	60	〃	粘板岩	C	
238	〃	1,475	4.9	3.4	1.9	50	なし	緑泥岩	C	
239	〃	1,193	4.6	3.3	1.5	30	先	砂岩	C	
240	〃	1,687	5.9	4.8	2.0	80	〃	緑泥岩	C	
241	〃	851	4.8	3.5	1.2	30	〃	砂岩	C	
242	〃	1,537	5.3	3.5	1.4	40	〃	硬砂岩	C	
243	〃	1,669	6.0	3.2	2.0	50	〃	緑泥岩	C	
244	〃	1,538	3.5	4.5	1.5	35	横	石灰岩	C	
245	床	1,864	7.1	4.9	2.1	110	先	緑泥岩	C	
246	フク土	270	7.6	5.7	1.8	110	平横	硬砂岩	C	全周使用痕あり
247	〃	797	5.9	5.1	1.5	60	横	〃	A	
248	〃	927	5.1	4.9	0.7	30	先平	〃	A	焼けている
249	〃	1,411	6.6	4.9	1.9	90	平先	〃	B	
250	床	1,825	5.9	4.8	1.6	60	先横	〃	B	
251	フク土	1,643	6.6	4.6	1.6	50	〃	砂岩	C	
252	〃	1,528	4.9	3.6	1.8	40	先	硬砂岩	B	
253	〃	1,421	5.8	3.3	0.9	40	〃	緑泥岩	B	
254	〃	1,650	3.7	3.2	1.1	20	先横	〃	A	
255	〃	1,626	5.5	3.5	1.0	30	横	硬砂岩	B	
256	〃	1,150	4.3	3.7	1.4	30	横	〃	C	全周使用痕あり
257	〃	A−1	4.1	3.1	1.0	15	先	〃	B	
258	〃	A−2	4.2	2.6	1.3	15	なし	〃	B	
259	〃	A−3	4.2	3.3	1.1	20	横	砂岩	B	
260	〃	A−4	3.4	2.1	1.3	10	〃	硬砂岩	B	
261	〃	A−5	4.4	3.1	2.0	40	なし	〃	B	
262	〃	A−6	2.4	1.8	1.2	5	〃	石灰岩	B	
263	〃	A−7	4.0	2.8	0.9	15	〃	硬砂岩	B	
264	〃	A−8	4.7	3.9	1.2	40	先	〃	B	
265	〃	A−9	5.0	4.3	1.5	50	〃	〃	B	
266	〃	A−10	4.8	2.4	1.2	20	なし	〃	B	
267	〃	A−11	5.3	3.0	1.2	30	先平	〃	B	
268	〃	A−12	4.2	3.6	1.2	30	先	〃	C	
269	〃	A−13	5.4	3.0	1.9	50	なし	〃	C	
270	〃	A−14	3.8	2.7	0.9	15	〃	〃	C	
271	〃	A−15	3.4	1.5	1.0	10	先	〃	B	
272	〃	A−16	5.0	3.5	1.2	30	平	〃	B	
273	〃	A−17	4.3	2.8	1.0	20	なし	緑泥岩	B	
274	〃	A−18	6.2	3.0	2.1	60	先	〃	B	
275	〃	A−19	4.1	2.6	1.1	20	なし	硬砂岩	B	
276	〃	A−20	3.2	2.3	1.1	20	〃	〃	B	
277	〃	A−21	4.2	3.1	1.2	35	〃	〃	B	
278	〃	A−22	4.1	3.0	0.8	15	先	〃	B	
279	〃	A−23	3.1	2.1	0.9	10	なし	粘板岩	B	
280	〃	A−24	3.7	2.2	1.2	20	〃	硬砂岩	B	
281	〃	A−25	3.3	2.6	1.0	15	〃	〃	B	
282	〃	A−26	3.8	2.5	1.0	15	〃	粘板岩	B	
283	〃	A−27	4.4	3.3	1.0	25	横	硬砂岩	B	
284	〃	A−28	4.5	3.6	1.2	35	先	〃	C	
285	〃	A−29	3.2	2.6	1.1	15	なし	〃	C	
286	〃	A−30	3.7	2.7	1.1	25	〃	〃	B	
287	〃	A−31	5.1	2.6	1.3	30	先	石灰岩	B	
288	〃	A−32	3.5	2.5	0.9	15	〃	硬砂岩	B	
289	〃	A−33	欠番							
290	〃	A−34	4.4	1.8	1.1	15	先	硬砂岩	B	
291	〃	A−35	7.3	2.2	1.0	25	横	粘板岩	C	
292	〃	A−36	4.6	3.1	1.3	30	〃	硬砂岩	B	
293	〃	A−37	5.0	2.4	1.7	30	なし	〃	B	
294	〃	A−38	3.6	2.5	1.0	15	〃	〃	B	
295	〃	A−39	4.7	2.3	1.1	20	〃	砂岩	B	
296	〃	A−40	4.3	1.9	1.0	15	〃	硬砂岩	B	焼けている
297	〃	A−41	3.8	3.0	1.5	25	横	石灰質青色岩	B	
298	〃	A−42	3.8	2.5	0.8	10	なし	緑泥岩	C	

No.	出土番号	遺物No.	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	使用痕	石質	分類	其の他
299	フク土	A−43	3.9	2.0	0.8	15	なし	緑泥岩	C	
300	〃	A−44	4.1	2.4	1.1	10	〃	石灰質青色岩	C	
301	〃	A−45	4.0	1.8	1.0	10	〃	硬砂岩	B	
302	〃	A−46	2.9	1.9	0.8	5	〃	砂岩	B	
303	〃	A−47	2.8	2.1	1.0	10	〃	硬砂岩	C	
304	〃	A−48	3.6	2.1	1.0	10	〃	〃	B	焼けている
305	〃	A−49	4.6	2.6	1.6	30	〃	〃	B	
306	〃	A−50	3.9	3.3	1.2	30	〃	〃	B	焼けている
307	〃	A−51	4.8	4.0	1.1	35	先	〃	B	
308	〃	A−52	4.7	4.2	1.6	50	横	粘板岩	C	
309	〃	A−53	7.5	7.5	2.1	50	先	緑泥岩	B	焼けている
310	〃	A−54	7.5	7.5	3.2	210	〃	硬砂岩	B	
311	炉址	A−55	5.2	3.0	1.8	40	〃	〃	B	
312		A−56	欠番							
313	フク土	A−57	3.6	3.1	1.8	30	なし	硬砂岩	B	
314	〃	A−58	4.4	3.8	1.2	40	先	〃	B	
315	〃	A−59	3.5	3.0	1.1	15	なし	〃	B	
316	〃	A−60	3.5	3.4	1.4	30	横	〃	A	
317	〃	A−61	4.2	3.7	1.3	30	なし	緑泥岩	B	
318	〃	A−62	2.6	2.1	0.8	5	〃	硬砂岩	B	
319	〃	A−63	3.7	3.1	1.2	30	〃	緑泥岩	B	
320	〃	A−64	2.1	1.8	1.0	5	〃	〃	B	
321	〃	A−65	3.5	2.8	1.4	25	〃	粘板岩	B	
322	〃	A−66	6.0	2.2	0.8	20	先横	緑泥岩	B	全面磨ってある
323	〃	A−67	4.6	3.0	0.7	20	〃	硬砂岩	B	
324	〃	A−68	3.4	2.9	0.8	15	横	〃	C	
325	〃	A−69	4.6	2.5	0.8	15	〃	砂岩	B	焼けている
326	〃	A−70	3.7	3.6	1.2	25	先	粘板岩	A	
327	〃	A−71	4.6	3.5	0.8	20	横	石灰質青色岩	B	
328	〃	A−72	3.7	3.2	1.2	20	〃	硬砂岩	C	
329	〃	A−73	3.4	3.2	0.8	10	先	砂岩	C	焼けている
330	〃	A−74	4.2	3.9	1.4	25	〃	硬砂岩	C	欠けている
331	〃	A−75	4.3	3.3	1.2	30	〃	〃	B	
332	〃	A−76	4.0	2.8	1.5	20	〃	粘板岩	C	
333	〃	A−77	3.9	3.3	1.2	30	〃	硬砂岩	C	
334	〃	A−78	3.6	2.2	0.8	10	〃	緑泥岩	B	
335	〃	A−79	4.4	3.7	1.2	35	〃	硬砂岩	C	
336	〃	A−80	6.4	4.2	3.1	140	〃	〃	C	
337	フク土	A−81	5.6	4.0	2.5	85	先	硬砂岩	B	
338	〃	A−82	5.0	4.0	1.3	40	〃	〃	C	
339	〃	A−83	4.3	3.1	1.5	35	なし	〃	C	
340	〃	A−84	4.4	3.4	1.5	35	先	〃	C	
341	〃	A−85	4.7	3.9	1.5	35	横	〃	B	
342	〃	A−86	5.5	3.8	2.2	60	〃	〃	C	
343	〃	A−87	3.9	3.0	1.9	30	なし	〃	B	
344	〃	A−88	4.8	3.9	1.1	35	先	粘板岩	C	
345	〃	A−89	4.0	3.2	1.5	35	〃	硬砂岩	C	
346	〃	A−90	4.3	2.8	1.6	25	〃	粘板岩	C	
347	〃	A−91	3.5	3.0	1.0	20	なし	砂岩	C	
348	〃	A−92	5.0	4.2	1.5	40	横	粘板岩	C	
349	〃	A−93	4.2	3.0	1.1	20	〃	砂岩	C	
350	〃	A−94	3.6	2.6	1.0	15	先	硬砂岩	C	
351	〃	A−95	4.1	3.3	1.2	25	なし	石灰質青色岩	C	
352	〃	A−96	3.5	2.7	1.5	25	〃	石灰岩	C	
353	〃	A−97	3.5	2.6	1.2	20	〃	〃	B	
354	〃	A−98	2.9	2.5	1.8	20	〃	〃	A	
355	〃	A−99	4.1	2.2	1.6	25	〃	硬砂岩	C	
356	〃	A−100	3.8	2.8	1.1	20	〃	砂岩	C	
357	〃	A−101	3.8	2.8	0.8	10	横	粘板岩	C	
358	〃	A−102	3.4	2.2	1.0	10	なし	〃	C	
359	〃	A−103	3.2	2.4	1.4	15	〃	石灰岩	C	
360	〃	A−104	3.5	2.6	0.8	10	〃	〃	C	
361	〃	A−105	2.5	2.3	1.2	10	〃	〃	C	
362	〃	A−106	3.2	2.6	1.0	10	横	硬砂岩	C	
363	〃	A−107	3.4	2.2	0.8	10	なし	〃	C	
364	〃	A−108	2.8	2.0	0.6	5	先	粘板岩	C	
365	〃	A−109	2.8	1.9	1.3	10	なし	緑泥岩	C	
366	〃	A−110	2.7	2.1	1.2	10	〃	硬砂岩	C	
367	〃	A−111	2.5	2.0	1.8	10	〃	緑泥岩	C	
368	〃	A−112	2.4	1.8	0.9	55	〃	〃	C	

No.	出土地点	遺物No.	長さ cm	幅cm	厚さ cm	重さ g	使用痕	石質	分類	其の他
369	フク土	A−113	2.0	1.4	0.8	5	なし	硬砂岩	C	
370	〃	A−114	3.2	1.9	0.7	10	〃	緑泥岩	C	
371	〃	A−115	2.1	1.8	0.9	10	〃	〃	C	
372	〃	A−116	2.4	1.6	0.9	5	〃	硬砂岩	C	
373	〃	A−117	1.8	1.2	0.5	3	〃	〃	C	
374	〃	A−118	4.5	3.4	1.0	30	先	〃	B	
375	〃	A−119	3.4	2.5	1.1	15	なし	〃	C	
376	〃	A−120	欠番							
377	炉址	A−121	3.9	3.6	1.0	20	先	粘板岩	C	周囲全周使用痕
378	〃	A−122	7.2	5.4	2.0	120	横	緑泥岩	B	
379	フク土	A−123	5.7	3.4	2.0	60	先	〃	C	
380	床	A−124	13.6	4.0	3.4	320	平横	硬砂岩	C	
381	〃	1,937	8.5	5.9	5.3	440	先	緑泥岩	C	
382	フク土	1,707	15.0	7.8	3.3	510	先横	〃	C	
383	〃	1,636	11.2	8.9	5.8	910	平先横	花崗岩	B	
384	〃	444	12.6	8.1	5.2	600	横先	〃	B	
385	〃	1,587	16.2	6.4	5.0	740	平横	粘板岩	B	
386	〃	1,399	14.2	4.5	3.8	310	先横	緑泥岩	C	
387	床	1,822	11.6	8.6	5.3	700	なし	花崗岩	B	
388	〃	1,761	17.6	13.2	6.9	2,300	〃	片麻岩	C	
389	〃	1,873	14.2	9.9	5.4	1,080	〃	花崗岩	C	少し焼けている
390	〃	1,843	12.9	9.3	6.2	1,000	先横平	〃	C	
391	フク土	1,691	9.7	6.2	3.0	310	先	〃	B	
392	床	1,769	8.0	7.5	5.5	530	先	〃	A	
393	フク土	1,425	12.2	9.5	5.5	800	横	〃	B	
394	床	1,941	10.0	6.2	4.6	410	先	花崗岩	B	焼けている
395	フク土	1,341	10.7	4.9	3.4	250	なし	〃	C	〃
396	〃	1,133	7.8	7.0	3.2	250	〃	〃	A	〃
397	〃	1,496	8.2	5.7	3.7	280	先平	〃	B	
398	〃	1,207	6.0	5.7	5.9	280	平	〃	A	
399	〃	1,214	10.2	7.3	6.0	670	平横	硬砂岩	C	
400	フク土	1,701	20.2	11.0	4.1	1,300	先横	緑泥岩	B	少し焼けている
401	〃	1,214	10.6	7.2	5.9	670	横平	硬砂岩	C	
402	〃	1,493	10.8	6.7	3.8	440	平横	〃	B	焼けている
403	〃	771	7.5	7.2	3.4	210	横先平	〃	B	
404	床	1,881	10.2	4.2	4.1	250	〃	〃	B	
405	フク土	1,361	8.2	5.2	3.5	170	平横	〃	C	
406	〃	1,400	7.8	4.4	2.8	100	先横	〃	C	
407	〃	590	6.8	4.4	1.4	50	〃	粘板岩	B	
408	床	1,881	7.6	5.1	2.9	120	先	〃	C	
409	フク土	797	4.9	4.2	1.1	40	横	硬砂岩	A	
410	〃	680	2.1	2.1	1.2	5以下	〃	〃	A	
411	〃	943	4.8	3.5	1.8	40	〃	〃	B	
412	〃	751	9.3	5.5	2.1	170	先	粘板岩	B	
413	〃	1,653	10.4	6.4	2.4	250	先横	硬砂岩	B	
414	〃	892	9.1	7.8	3.1	320	横	〃	B	
415	〃	325	13.0	7.1	2.9	350	平	砂岩	C	
416	〃	935	8.8	4.2	3.3	150	横	緑色変岩	C	
417	床	1,703	11.0	7.0	3.4	360	平横	硬砂岩	C	少し焼けている
418	フク土	1,438	11.1	7.5	3.2	410	〃	〃	C	

表23 剥片

A $\frac{2}{3}$以上自然面のあるもの　B $\frac{2}{3}$以下のもの

No.	出土地点	遺物No.	長さ cm	幅cm	厚さ cm	重さ g	使用痕	石質	分類	其の他
1	フク土	1,583	5.6	4.1	1.6	50	横	硬砂岩	A	
2	〃	521	6.0	5.5	1.4	60	先横	〃	B	
3	〃	958	9.8	5.9	1.7	115	横	〃	B	
4	〃	1,608	17.0	13.9	1.6	660	先	〃	A	
5	床	1,840	6.2	5.8	1.0	400	〃	〃	B	
6	フク土	1,259	7.8	4.0	1.0	50	〃	〃	B	
7	〃	85	8.2	4.9	2.2	110	〃	〃	A	
8	〃	1,672	8.7	5.9	3.1	160	〃	〃	A	
9	〃	1,592	7.1	4.7	1.6	60	〃	〃	A	
10	〃	291	5.5	4.5	0.9	25	周囲	〃	A	焼けている
11	〃	994	5.5	3.2	1.1	30	先	〃	B	
12	〃	566	5.4	4.7	1.8	30	〃	〃	B	
13	〃	1,310	7.7	4.8	2.5	80	〃	〃	A	
14	〃	304	7.3	3.2	1.4	20	横	〃	B	
15	〃	1,146	5.9	4.6	1.4	60	先	〃	A	
16	〃	499	4.5	3.8	1.3	200	横	〃	B	
17	床	1,760	6.4	4.5	1.3	30	〃	〃	B	少し焼けている
18	フク土	1,531	6.0	4.8	1.3	40	先横	〃	A	
19	〃	715	7.0	3.6	0.7	20	横	〃	A	焼けている
20	床	1,948	6.4	4.5	1.3	40	先	〃	A	
21	フク土	302	4.3	3.8	1.2	30	横	〃	B	少し焼けている
22	〃	1,435	6.2	4.4	1.2	25	〃	〃	B	〃
23	床	1,785	7.2	3.9	1.8	45	〃	〃	A	
24	〃	1,811	4.5	3.2	1.8	30	〃	〃	B	
25	フク土	1,542	5.0	4.6	1.4	45	〃	〃	A	
26	〃	869	5.5	3.5	0.7	20	〃	〃	A	
27	床	1,710	5.5	4.5	0.8	25	〃	〃	A	
28	フク土	1,325	5.9	3.6	1.8	40	先	〃	B	焼けている
29	フ〃	1,193	5.5	3.7	1.8	40	横	〃	A	少し 〃
30	〃	705	5.9	3.0	1.3	25	先横	〃	A	〃
31	〃	1,517	5.4	3.3	0.8	15	横	〃	A	
32	〃	1,071	4.4	3.5	1.3	250	先	〃	B	
33	床	1,830	5.1	3.3	0.9	15	横	〃	B	
34	フク土	447	6.6	5.8	1.6	650	先横	〃	A	少し焼けている
35	床	1,879	9.4	7.6	2.3	210	先	〃	A	
36	フク土	1,539	7.2	4.6	2.1	60	なし	〃	B	少し焼けている
37	〃	393	5.1	4.9	0.7	30	〃	〃	B	
38	〃	425	5.2	4.6	1.3	300	〃	〃	B	
39	〃	734	7.3	5.6	2.0	55	先	〃	B	
40	〃	888	7.8	6.4	1.8	80	〃	〃	A	
41	フク土	317	6.7	4.4	1.0	40	なし	硬砂岩	A	
42	〃	1,048	9.5	7.8	1.3	153	横	〃	A	
43	〃	1,836	7.2	5.6	1.8	70	〃	〃	A	
44	〃	1,045	9.2	8.0	2.3	210	先	〃	A	
45	〃	1,534	10.4	7.9	2.8	240	〃	〃	A	
46	〃	1,137	9.5	4.9	3.3	160	〃	〃	A	
47	〃	360	10.6	4.2	3.5	180	なし	〃	A	
48	床	1,914	12.8	7.9	7.6	460	横	〃	A	
49	〃	1,786	11.8	4.5	2.8	140	なし	〃	A	
50	フク土	422	10.1	5.4	2.2	110	横	〃	A	
51	〃	777	9.2	7.1	3.4	220	〃	〃	A	
52	〃	882	7.6	5.6	1.3	60	なし	〃	B	
53	床	1,807	10.3	3.1	3.0	110	横	〃	A	
54	フク土	912	7.4	5.0	1.4	60	先	〃	A	
55	〃	1,413	8.4	3.2	3.0	130	先	〃	A	
56	〃	1,497	8.3	5.2	3.1	120	なし	〃	A	
57	〃	490	8.2	5.8	2.0	120	先	〃	A	
58	〃	747	10.8	3.2	1.2	45	なし	〃	A	
59	〃	1,502	6.5	4.7	1.2	40	〃	〃	A	
60	〃	986	6.0	3.6	1.1	20	横	〃	B	
61	床	1,737	7.5	3.6	1.2	40	先	〃	A	
62	フク土	1,707	6.0	5.8	1.4	50	なし	〃	A	
63	〃	274	7.2	4.6	1.7	60	先	〃	A	
64	〃	1,223	5.5	4.4	0.9	20	〃	〃	A	
65	床	1,767	6.0	5.8	1.6	50	なし	〃	A	
66	フク土	1,137	6.3	4.2	2.7	60	〃	〃	A	
67	〃	365	6.3	4.4	1.3	40	横	〃	A	
68	床	1,852	6.8	4.2	1.1	40	なし	〃	A	
69	フク土	1,582	7.1	2.2	1.0	20	〃	〃	A	
70	〃	799	4.5	4.3	1.0	25	〃	〃	A	
71	〃	1,622	7.4	3.1	1.8	50	先	〃	A	
72	〃	1,604	5.9	3.2	0.8	10	なし	〃	B	
73	〃	926	6.5	4.8	1.8	50	先横	〃	B	
74	〃	796	4.4	3.8	1.7	40	横	〃	B	
75	〃	1,542	6.6	4.0	1.7	50	なし	〃	A	
76	〃	265	5.9	3.9	1.1	25	〃	〃	B	
77	床	1,736	6.7	4.0	2.0	60	横	〃	A	
78	フク土	636	4.5	3.6	1.4	30	先	〃	A	
79	〃	1,228	5.2	3.5	1.6	36	なし	〃	A	
80	〃	842	6.1	2.7	0.5	10	横先	〃	B	

No.	出土地点	遺物No.	長さ cm	幅cm	厚さ cm	重さ g	使用痕	石質	分類	その他
81	フク土	857	7.2	3.4	0.9	25	なし	硬砂岩	B	
82	〃	481	4.8	3.6	0.7	10	横	〃	A	
83	〃	412	5.6	3.7	0.9	35	〃	〃	A	焼けている
84	〃	618	5.4	4.2	1.0	35	なし	〃	A	
85	〃	927	6.2	2.9	0.8	15	〃	〃	A	
86	〃	281	5.4	3.2	0.8	15	〃	〃	A	
87	〃	1,079	5.5	2.6	0.9	15	〃	〃	A	
88	〃	626	5.2	2.4	0.9	15	〃	〃	A	僅かに焼けている
89	〃	1,017	7.2	4.9	0.8	20	横	〃	B	
90	〃	1,501	6.2	2.8	0.6	10	なし	〃	A	
91	〃	1,517	4.2	3.2	0.7	15	〃	〃	B	少し焼けている
92	〃	368	4.8	2.6	0.6	5	横	〃	A	〃
93	〃	1,489	4.6	3.2	1.7	25	なし	〃	B	
94	〃	414	6.1	4.5	0.8	20	〃	〃	A	
95	〃	801	5.6	4.2	0.7	20	〃	〃	B	
96	〃	1,188	5.5	4.6	0.9	25	〃	〃	A	
97	床	1,730	6.1	2.7	1.2	20	横	〃	B	
98	〃	1,830	5.2	3.1	0.9	15	〃	〃	B	少し焼けている
99	フク土	918	4.5	3.3	1.1	20	なし	〃	A	
100	〃	1,297	4.8	3.4	0.8	20	横	〃	A	
101	〃	1,391	5.1	2.9	0.8	10	先	〃	B	
102	〃	331	2.9	2.5	0.4	5	なし	〃	A	
103	〃	1,517	5.4	2.8	0.9	15	横	〃	A	
104	〃	1,112	4.7	2.6	0.9	15	なし	〃	B	
105	〃	717	3.9	2.3	0.9	15	〃	〃	A	
106	〃	764	5.2	3.0	0.9	15	横	〃	B	少し焼けている
107	〃	1,517	4.5	3.3	0.6	10	〃	〃	A	
108	〃	719	3.9	2.9	0.9	10	なし	緑泥岩	A	
109	〃	1,079	3.5	2.5	0.6	5	横	硬砂岩	A	
110	〃	618	4.0	2.2	0.7	10	なし	〃	B	
111	〃	1,617	3.3	1.9	0.7	5	〃	〃	B	
112	〃	890	4.8	2.5	0.6	15	〃	〃	B	
113	〃	303	3.5	1.9	0.9	5	〃	粘板岩	A	
114	〃	691	3.6	2.4	0.7	5	〃	〃	B	
115	〃	434	2.9	2.0	0.5	5	〃	硬砂岩	B	
116	床	1,711	5.8	4.3	1.2	40	〃	粘板岩	B	焼けている
117	フク土	1,015	10.2	2.9	2.9	110	〃	緑泥岩	A	〃
118	〃	1,185	8.6	5.8	1.4	70	〃	粘板岩	A	少し〃
119	〃	735	7.6	2.9	1.8	60	〃	〃	A	
120	〃	1,121	4.5	3.0	1.9	45	〃	〃	A	
121	床	1,782	5.4	3.0	1.6	40	〃	〃	B	
122	フク土	646	7.6	3.3	1.9	55	〃	〃	B	少し焼けている
123	〃	1,080	6.0	3.9	1.9	65	〃	〃	A	
124	〃	1,288	4.6	5.1	2.3	65	〃	硬砂岩	A	焼けている
125	〃	1,628	4.8	3.1	1.1	30	〃	〃	A	
126	床	1,734	4.9	3.2	0.9	20	先	粘板岩	A	
127	フク土	735	4.5	3.2	3.5	50	なし	石灰岩	B	
128	〃	1,509	4.0	2.8	1.4	20	〃	〃	A	
129	〃	827	5.1	3.6	1.4	30	〃	粘板岩	B	
130	〃	886	4.2	3.9	1.1	35	〃	砂岩	A	
131	〃	775	5.6	2.7	1.0	35	〃	粘板岩	B	
132	〃	1,322	6.2	2.9	1.4	30	〃	〃	〃	
133	〃	988	6.4	2.0	1.4	25	〃	〃	〃	
134	〃	1,505	4.1	3.9	1.6	40	〃	石灰岩	〃	
135	〃	1,286	7.1	5.1	3.2	140	〃	硬砂岩	〃	焼けている
136	〃	1,204	8.3	6.4	1.9	100	横	花崗岩	〃	〃
137	床	1,775	8.4	4.1	2.6	120	なし	硬砂岩	〃	
138	フク土	1,231	6.4	6.0	2.7	140	〃	砂岩	〃	焼けている
139	床	1,781	6.2	3.4	2.0	60	先	硬砂岩	A	
140	フク土	764	6.5	4.7	0.9	40	なし	〃	B	焼けている
141	フ〃	1,132	8.1	1.9	2.0	70	〃	砂岩	B	〃
142	〃	209	4.9	3.3	2.5	60	〃	花崗岩	B	
143	〃	455	4.6	4.2	2.9	70	〃	砂岩	B	
144	〃	1,678	7.2	2.9	0.9	30	〃	〃	A	焼けている
145	床	1,902	5.6	4.3	1.0	30	先	硬砂岩	A	〃
146	フク土	1,170	4.2	3.9	1.5	250	なし	砂岩	B	
147	〃	735	5.2	2.9	1.1	350	〃	硬砂岩	B	焼けている
148	〃	492	7.3	5.5	1.4	60	横	〃	B	〃
149	床	1,802	5.5	4.6	1.6	45	先	〃	A	〃
150	フク土	256	7.3	4.2	1.1	45	なし	砂岩	B	〃

No.	出土地点	遺物No.	長さ cm	幅cm	厚さ cm	重さ g	使用痕	石質	分類	その他
151	床	1,953	6.9	2.7	1.6	45	なし	硬砂岩	A	
152	〃	1,123	6.0	3.5	1.6	25	〃	〃	A	
153	〃	1,159	5.3	3.9	3.1	50	〃	粘板岩	A	
154	〃	1,143	6.2	3.2	1.0	25	〃	砂岩	B	
155	〃	735	4.9	2.6	1.1	25	横	硬砂岩	A	焼けている
156	〃	735	4.7	3.7	2.1	25	なし	〃	A	少し〃
157	〃	544	3.8	3.5	1.5	25	〃	緑泥岩	B	焼けている
158	〃	1,546	4.3	3.5	1.4	25	横	硬砂岩	A	
159	〃	1,512	5.5	4.2	0.7	25	なし	〃	A	焼けている
160	〃	1,434	5.0	2.4	2.5	30	横	〃	A	
161	〃	1,559	4.3	3.4	1.7	30	なし	〃	A	焼けている
162	〃	1,337	4.3	3.2	0.6	25	先	〃	A	〃
163	〃	1,341	7.3	2.6	2.3	60	なし	花崗岩	B	
164	〃	811	5.0	4.2	0.9	25	〃	粘板岩	B	
165	〃	523	4.8	2.9	2.1	25	〃	硬砂岩	A	焼けている
166	〃	1,533	3.2	3.1	2.0	30	〃	〃	B	〃
167	〃	825	4.3	2.9	0.8	20	〃	粘板岩	B	
168	〃	825	4.6	3.5	1.1	20	〃	硬砂岩	A	
169	フク土	830	5.4	3.9	0.7	25	〃	粘板岩	B	少し焼けている
170	〃	1,188	6.9	3.1	0.9	25	〃	硬砂岩	B	〃
171	〃	1,031	6.8	3.2	0.6	30	横	〃	B	〃
172	〃	887	5.2	4.1	1.0	30	〃	粘板岩	B	〃
173	床	1,825	4.6	4.2	1.9	50	なし	砂岩	B	
174	フク土	98	5.4	3.2	1.3	25	〃	〃	A	焼けている
175	〃	611	3.6	3.2	0.9	25	〃	〃	B	
176	〃	1,191	5.1	2.5	1.6	30	〃	花崗岩	B	焼けている
177	〃	1,871	4.0	3.6	2.1	30	〃	〃	B	〃
178	〃	735	6.7	3.3	3.4	100	横	石英	A	少し〃
179	〃	1,230	6.5	1.8	0.8	20	〃	砂岩	A	
180	〃	1,584	3.3	1.9	2.0	25	なし	硬砂岩	A	
181	〃	1,620	4.3	3.6	1.8	25	〃	〃	B	焼けている
182	〃	498	5.0	3.1	1.0	25	〃	〃	A	
183	〃	552	3.5	3.2	1.4	25	〃	〃	A	焼けている
184	〃	1,863	4.6	3.0	1.5	30	横	〃	A	〃
185	〃	768	4.0	3.4	1.2	25	なし	石英	B	〃
186	〃	553	4.1	3.1	0.9	20	〃	砂岩	B	
187	〃	1,316	3.7	3.1	0.9	20	〃	〃	B	
188	床	1,843	5.0	3.1	1.0	20	〃	硬砂岩	B	
189	フク土	453	3.5	3.0	1.1	20	〃	砂岩	A	
190	床	1,841	4.0	3.0	1.1	10	〃	粘板岩	A	
191	フク土	1,563	4.5	2.7	2.0	20	〃	〃	A	
192	〃	1,382	3.5	2.7	1.5	25	〃	硬砂岩	A	焼けている
193	〃	1,141	4.2	3.3	1.0	15	〃	粘板岩	B	
194	〃	1,229	4.9	4.0	0.6	15	〃	〃	B	
195	〃	385	3.0	2.6	1.5	15	先	硬砂岩	A	少し焼けている
196	〃	1,481	4.2	2.2	1.5	15	なし	〃	A	
197	〃	279	3.8	2.1	1.2	15	〃	〃	B	
198	〃	1,332	3.7	1.8	1.0	10	〃	砂岩	B	
199	〃	1,757	3.2	2.6	1.2	15	〃	硬砂岩	B	
200	〃	1,326	3.8	2.5	0.9	10	〃	〃	B	少し焼けている
201	〃	324	3.5	2.1	0.9	10	先	〃	A	
202	〃	1,362	3.6	2.0	0.4	5	なし	粘板岩	A	
203	〃	1,362	3.8	1.7	0.8	5	横	硬砂岩	A	
204	〃	1,541	2.3	1.9	1.1	5	なし	花崗岩	B	
205	〃	482	3.0	2.2	1.2	10	〃	石灰岩	B	焼けている
206	〃	1,478	2.5	2.3	1.0	10	〃	砂岩	A	〃
207	〃	708	3.4	2.2	1.0	10	〃	粘板岩	B	
208	〃	705	3.6	2.4	1.0	5	先	硬砂岩	A	
209	〃	1,341	2.6	2.1	1.8	5	なし	花崗岩	B	
210	〃	1,567	4.3	2.5	1.9	20	〃	石灰岩	B	
211	〃	809	3.0	2.8	1.1	10	〃	粘板岩	B	
212	〃	750	3.2	2.5	0.7	5	〃	〃	B	少し焼けている
213	〃	491	3.2	2.8	0.7	5	〃	砂岩	A	〃
214	〃	1,901	3.5	1.0	0.5	5	〃	粘板岩	B	
215	〃	1,314	6.9	5.1	2.4	95	〃	砂岩	B	少し焼けている
216	〃	735	5.6	5.4	3.5	140	〃	石灰岩	B	
217	〃	1,527	4.0	2.4	1.9	20	〃	粘板岩	A	
218	〃	1,572	8.5	3.3	1.5	60	横	緑泥岩	A	
219	〃	109	8.8	5.6	2.6	215	両横	〃	A	少し焼けている
220	〃	1,452	8.9	5.7	4.7	290	なし	石灰質青色岩	A	

No.	出土地点	遺物No.	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	使用痕	石質	分類	其の他
221	フク土	539	7.5	5.4	1.4	100	なし	緑泥岩	A	
222	〃	1,549	7.2	3.4	2.4	70	先	〃	A	
223	〃	658	7.5	3.5	1.0	45	横	〃	A	
224	床	1,903	7.3	4.3	1.0	40	〃	硬砂岩	A	
225	フク土	570	6.2	4.8	2.5	90	先 横	緑泥岩	B	
226	〃	862	10.6	6.0	0.9	80	先	粘板岩	A	
227	〃	92	6.4	4.1	4.0	150	なし	片麻岩	A	
228	〃	779	7.0	5.4	3.9	240	横	緑泥岩	A	すってある
229	〃	754	7.3	5.3	2.1	105	平 横	〃	A	
230	〃	380	7.7	2.8	1.3	8	横	硬砂岩	B	
231	〃	1,232	5.3	4.2	1.2	25	なし	〃	A	
232	〃	1,685	4.7	3.9	1.9	70	先	緑泥岩	A	
233	床	1,900	6.7	4.4	0.9	400	なし	硬砂岩	B	
234	フク土	1,397	5.4	4.0	1.3	50	〃	〃	A	
235	〃	516	6.0	3.2	1.0	30	〃	片麻岩	A	
236	〃	294	5.8	3.4	0.6	15	横	緑泥岩	B	
237	〃	735	6.2	5.8	0.8	40	〃	〃	A	
238	〃	407	4.5	3.2	0.5	10	〃	硬砂岩	B	
239	〃	1,648	4.7	2.9	0.9	15	〃	緑泥岩	A	
240	床	1,919	4.9	2.2	0.9	10	なし	石灰岩	B	
241	フク土	873	6.6	3.7	0.8	15	〃	粘板岩	A	
242	床	1,892	5.0	2.8	0.7	20	横	緑泥岩	A	
243	フク土	1,386	5.8	1.5	1.0	10	先	〃	B	
244	〃	1,191	5.4	5.2	0.8	20	なし	〃	B	
245	床	1,734	6.2	3.0	0.9	20	〃	〃	B	
246	フク土	1,183	5.8	4.5	2.0	50	〃	片麻岩	B	
247	〃	1,338	4.4	3.5	2.1	30	〃	〃	A	
248	床	1,771	5.9	4.6	1.4	50	〃	粘板岩	A	
249	フク土	1,486	5.0	4.2	1.7	40	〃	〃	A	
250	床	1,949	6.7	3.9	1.5	30	〃	緑泥岩	B	
251	フク土	1,271	4.2	3.1	0.8	15	先	〃	A	
252	〃	522	5.4	3.6	0.7	25	なし	〃	B	
253	〃	1,809	6.9	4.3	1.1	40	先	緑泥岩	B	
254	〃	757	4.4	3.2	1.0	10	横	硬砂岩	A	
255	床	1,737	4.9	2.2	0.4	5	なし	緑泥岩	B	
256	フク土	942	5.5	4.6	1.5	40	〃	硬砂岩	A	
257	床	1,830	5.4	2.5	0.8	15	〃	緑泥岩	B	
258	フク土	1,245	4.7	4.0	1.5	30	先	硬砂岩	A	
259	〃	717	3.9	2.9	0.8	10	〃	緑泥岩	B	
260	〃	1,471	5.0	2.5	0.4	5	なし	粘板岩	B	
261	〃	1,471	6.3	0.7	0.4	10	〃	硬砂岩	B	
262	〃	613	4.9	3.8	0.4	10	〃	緑泥岩	B	少し焼けている
263	〃	920	4.6	3.9	1.1	25	〃	硬砂岩	A	
264	〃	473	4.6	3.4	0.9	20	〃	粘板岩	B	
265	〃	890	5.0	3.2	1.1	25	先	緑泥岩	B	
266	〃	1,641	4.3	3.6	1.7	25	横	粘板岩	A	
267	〃	1,327	4.4	3.2	0.6	15	先 横	緑泥岩	A	
268	〃	793	3.4	2.6	1.2	20	先	粘板岩	A	
269	〃	647	4.6	2.0	0.9	25	〃	緑泥岩	A	
270	〃	322	5.1	2.4	0.4	5	なし	粘板岩	B	
271	〃	1,892	3.6	2.9	0.4	5	〃	〃	B	
272	〃	647	3.3	1.1	0.3	5	横	緑泥岩	A	
273	床	1,906	3.0	2.3	0.5	5	なし	硬砂岩	A	
274	フク土	363	4.6	1.5	0.5	5	〃	緑泥岩	B	
275	〃	386	3.6	2.5	0.3	5	〃	粘板岩	A	
276	床	1,892	1.8	0.9	0.2	5以下	〃	緑泥岩	B	
277	フク土	660	2.5	2.0	0.3	5	〃	〃	B	
278	床	1,745	3.6	1.4	0.4	5	横	〃	B	
279	フク土	750	2.3	1.5	0.4	5	なし	粘板岩	B	
280	床	1,776	2.6	1.3	0.4	5	〃	緑泥岩	B	
281	フク土	A−125	4.7	2.0	1.8	20	〃	硬砂岩	A	
282	〃	A−126	5.4	3.9	1.4	30	〃	〃	A	
283	〃	A−127	3.3	1.9	0.4	5	〃	〃	B	
284	〃	A−128	7.7	4.6	3.8	60	〃	〃	A	
285	〃	A−129	7.6	4.3	2.9	80	横	緑泥岩	A	
286	〃	A−130	3.5	3.0	0.4	5	なし	硬砂岩	A	
287	〃	A−131	4.8	2.6	0.6	5	〃	緑泥岩	B	
288	〃	A−132	3.4	2.9	1.1	10	〃	硬砂岩	A	
289	〃	A−133	2.3	2.0	0.4	5	〃	〃	B	
290	〃	A−134	5.4	2.2	1.3	15	〃	〃	B	少し焼けている

No.	出土番号	遺物No.	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	使用痕	石質	分類	其の他
291	フク土	A−135	4.1	2.6	0.5	5以下	なし	緑泥岩	B	
292	〃	A−136	3.4	3.7	1.1	20	〃	硬砂岩	B	少し焼けている
293	〃	A−137	4.4	1.7	1.0	10	先	緑泥岩	B	〃
294	〃	A−138	5.3	2.7	0.9	10	なし	硬砂岩	B	
295	〃	A−139	4.0	1.5	0.4	5以下	先	石灰岩	A	
296	〃	A−140	4.6	3.6	0.4	5	なし	緑泥岩	B	
297	〃	A−141	3.9	2.8	0.7	20	〃	砂岩	A	
298	〃	A−142	3.4	3.1	0.4	5以下	横	硬砂岩	B	
299	〃	A−143	3.9	2.8	1.7	20	なし	緑泥岩	A	
300	〃	A−144	3.2	2.1	0.6	5以下	〃	硬砂岩	A	
301	〃	A−145	3.5	2.5	0.5	〃	〃	粘板岩	A	
302	〃	A−146	4.0	2.5	0.6	10	〃	緑泥岩	A	
303	〃	A−147	3.9	2.6	0.4	5以下	〃	〃	A	
304	〃	A−148	4.3	3.1	1.3	25	〃	粘板岩	B	少し焼けている
305	〃	A−149	3.8	3.2	0.5	10	先	〃	B	
306	〃	A−150	3.9	2.6	0.9	10	〃	硬砂岩	B	
307	〃	A−151	4.6	3.5	1.0	15	なし	石灰岩	B	
308	〃	A−152	4.9	3.6	1.0	15	横	硬砂岩	A	
309	〃	A−153	3.2	1.9	0.6	5以下	なし	〃	B	
310	〃	A−154	3.9	2.8	1.1	10	横	〃	A	
311	〃	A−155	4.7	1.8	1.5	10	なし	〃	B	
312	〃	A−156	3.2	2.1	0.7	5以下	〃	〃	A	
313	〃	A−157	2.5	2.2	0.4	〃	先	粘板岩	A	
314	〃	A−158	3.1	2.7	0.6	〃	〃	硬砂岩	B	
315	〃	A−159	2.7	2.2	0.3	〃	なし	〃	B	
316	〃	A−160	3.9	1.5	0.4	〃	〃	緑泥岩	B	
317	〃	A−161	3.3	1.7	0.6	〃	横	硬砂岩	B	
318	〃	A−162	5.0	3.2	1.0	20	先	緑泥岩	A	
319	〃	A−163	4.3	1.7	0.8	5以下	なし	硬砂岩	B	
320	〃	A−164	3.0	2.5	0.7	〃	横	〃	B	少し焼けている
321	〃	A−165	5.0	4.1	0.9	30	先 横	粘板岩	B	
322	〃	A−166	3.7	3.0	1.1	15	横	〃	B	
323	〃	A−167	3.3	3.5	0.6	5以下	〃	硬砂岩	A	
324	〃	A−168	3.7	2.4	0.6	〃	横 先	〃	B	
325	〃	A−169	2.6	2.1	1.6	10	なし	粘板岩	B	
326	〃	A−170	2.1	1.7	0.7	5以下	〃	硬砂岩	B	
327	〃	A−171	2.9	1.9	0.6	〃	〃	〃	B	
328	〃	A−172	2.5	1.7	0.5	〃	〃	〃	B	
329	〃	A−173	2.4	2.6	0.5	〃	〃	〃	B	
330	〃	A−174	3.1	2.2	0.5	〃	〃	〃	A	
331	〃	A−175	3.0	2.8	0.6	〃	〃	〃	A	
332	〃	A−176	2.9	2.4	0.4	〃	〃	粘板岩	B	
333	〃	A−177	3.1	1.8	0.4	〃	〃	硬砂岩	A	
334	〃	A−178	2.5	1.8	0.4	〃	〃	〃	A	
335	〃	A−179	2.2	1.5	0.5	〃	〃	〃	A	
336	〃	A−180	1.9	1.8	0.3	〃	〃	〃	A	
337	〃	A−181	2.3	1.9	0.8	〃	〃	〃	A	
338	〃	A−182	2.0	1.4	0.5	〃	〃	〃	B	
339	〃	A−183	3.3	3.2	0.6	10	〃	緑泥岩	A	少し焼けている
340	〃	A−184	4.6	3.0	0.8	15	先	硬砂岩	B	
341	〃	A−185	4.1	3.9	1.0	15	なし	〃	B	少し焼けている
342	〃	A−186	2.2	1.3	0.2	5以下	〃	〃	A	
343	〃	A−187	2.6	1.7	0.3	〃	〃	〃	B	
344	〃	A−188	2.6	2.0	0.4	〃	〃	〃	A	
345	〃	A−189	5.8	6.3	2.0	100	〃	〃	A	
346	〃	A−190	2.8	2.4	0.7	5以下	〃	砂岩	B	
347	〃	A−191	2.8	1.3	0.5	〃	横	粘板岩	A	
348	〃	A−192	5.1	2.0	0.7	10	なし	緑泥岩	B	
349	〃	A−193	2.9	2.6	1.5	20	〃	硬砂岩	A	
350	〃	A−194	3.5	2.3	1.9	25	〃	赤色チャート	AA	
351	〃	A−195	4.4	2.4	3.0	50	〃	硬砂岩	A	
352	〃	A−196	3.3	2.2	0.4	5以下	横	粘板岩	A	
353	〃	A−197	2.6	1.8	0.8	〃	なし	硬砂岩	B	
354	〃	A−198	3.3	2.0	0.6	〃	〃	緑泥岩	B	
355	〃	A−199	4.8	2.9	1.1	25	先	〃	A	
356	〃	A−200	4.6	4.2	1.1	35	〃	石灰岩	A	
357	〃	A−201	8.9	4.0	4.4	100	なし	〃	A	
358	〃	986	8.0	6.1	2.5	200	先 横	緑泥岩	A	
359	〃	1,598	9.0	3.2	1.2	50	横	〃	B	
360	〃	940	9.3	5.5	1.3	80	横 先	〃	B	焼けている

No.	出土地点	遺物No.	長さ cm	幅cm	厚さ cm	重さ g	使用痕	石質	分類	其の他
361	床	1,931	13.1	3.6	1.2	60	先	緑泥岩	B	少し焼けている
362	フク土	83	5.7	3.3	1.0	30	先 横	〃	A	
363	〃	1,477	8.0	3.2	0.5	10	〃	〃	B	
364	床	1,949	5.9	4.7	0.7	30	〃	〃	B	
365	フク土	635	6.1	1.9	1.0	15	なし	〃	A	焼けている
366	フク土	1,197	8.9	3.7	1.5	55	なし	粘板岩	A	
367	〃	1,340	5.5	0.9	0.6	5以下	先	〃	A	
368	〃	A−202	7.9	5.7	2.2	140	横	硬砂岩	B	
369	〃	A−203	5.6	4.9	1.3	50	横 先	〃	B	焼けている
370	〃	A−204	10.9	3.6	1.4	70	先	粘板岩	A	

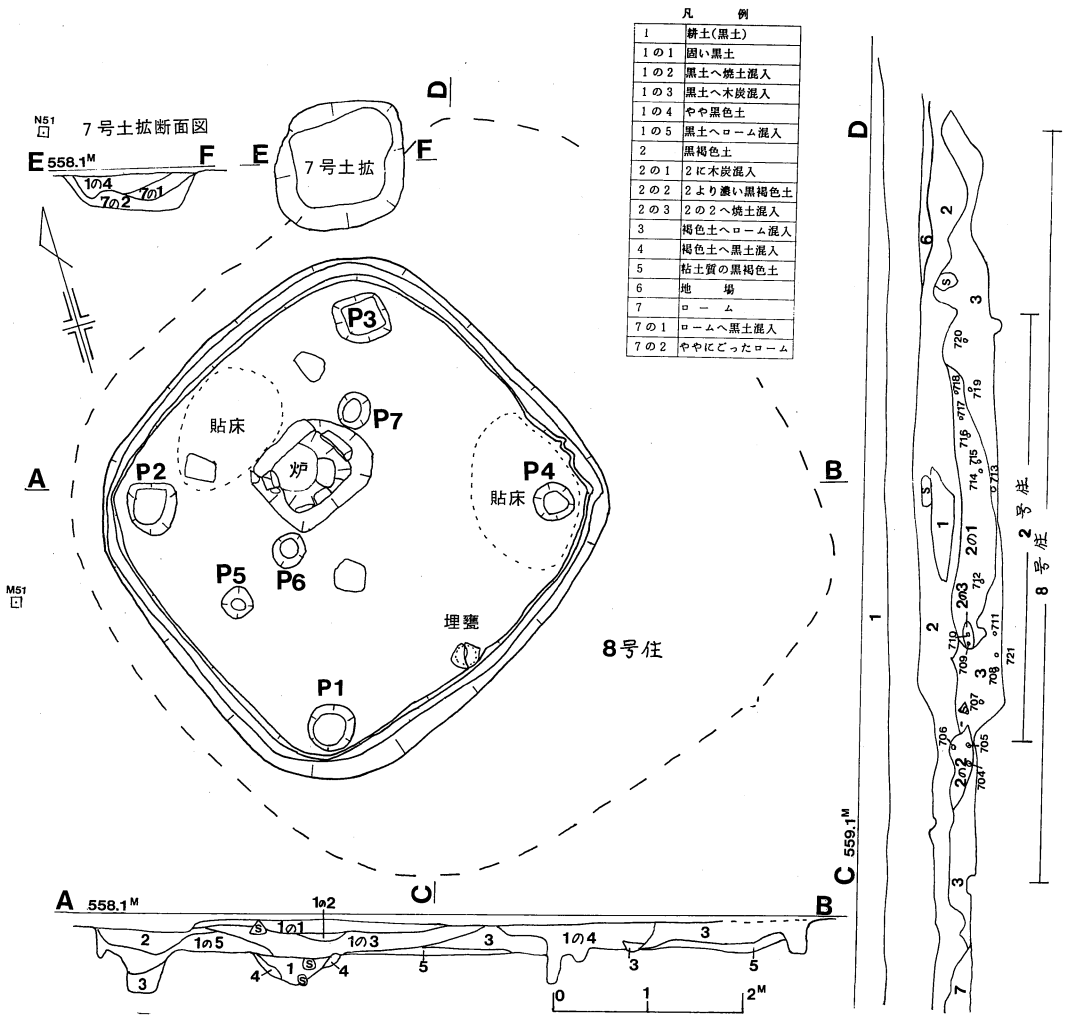
第1号住居址の出土遺物を観察していえることは，各地の縄文時代中期後葉の住居址から出土した遺物と少し違うといえる。

土器をみると，日常使われる多くの土器に，その時期特有の紋様が付けられていることは周知のことである。本址より出土した3点の無文土器は，中期後葉とはいえ数少ないものである。そのうちの1点は，外壁を水ごしによる精製粘土で化粧塗をし，整形はヘラで丁寧に仕上げられておりその部分をみると，黄褐色に焼成されている後の弥生期以降の土器の肌をおもわせる。このような土器の無文化現象は，次の時代への展開であり，農耕文化が考えられる世界的現象である，この無文土器のもつ意義はおおきい。

遺存した石器の量も多く，剥片も500余点あるが剥片で接着するものはなく（ある程度やってみた），本址での石器製作が考えられる。特に横刃形石器の量は他の石器に比べて非常に多く，その種類も多くそれぞれの機能を具備しており，材料に硬砂岩が多く使われている，大半の石器が自然面を片側に残していることは伊那谷地方の弥生時代の石器との共通点にみられる形態のものである。両サイドに抉りを入れた小型のものは，弥生時代にも同じ石器があり石包丁であろう。石器説明のなかで手鍬とした石器も，手に持ってみるとよく手に馴染む，下伊那郡豊丘村の林里遺跡（弥生前期）出土の石器の中にこれと同じ型のものが1点あるが重量が560gあり，頭部が厚く重く作られており刃部がするどい石器で報文では工具であろうとしている。本址出土のものは約3分の1弱で175gと軽く手鍬か石包丁と思われる。

本址の東に位置する第2号住居址出土の31cmを測る大型石器，遺跡の東端に検出された溝状遺構より出土した44cmの特大石器，両方共刃部周辺がすれて角が丸くなっており土ずれがみられる，この大型石器は，大きな柄をつけて鋤として使われたものであろう。

土器の無文化，石器の機能よりみて原始農耕の色彩を強く感じさせる遺物である。　（木下）



第19図　第２号住居址実測図

第２号住居址

遺　構（第19図）

本址は，Ｌ－49・50，Ｍ－49・50グリット内に検出された。８号住居址に西寄りですっぽり複合していた，調査区の中央を南北に通る幅２ｍの農道がこの上にある為，プランの確認に困難であったが幸にして村の関係者のご厚意により，道路を除去していただき完掘する事が出来た。

平面プランは，南壁及び東壁が８号住居址の覆土内にあり撹乱され不確実であったが，柱穴及び周溝の位置から推測して4.8ｍ前後の隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位は，Ｎ－23°－Ｗを示す，壁高は35～10㎝で東壁が低く，壁は全体にほぼ垂直に立上っている。周溝はほとんど全周しており，幅は，25～８㎝，深さ，10～22㎝を測る。床面は，炉の周辺が最も良好であったが，その他は大小の凹凸が目立って軟弱気味でやゝ南に傾斜し，埋甕の周辺が最も低くなっており，附近には，直

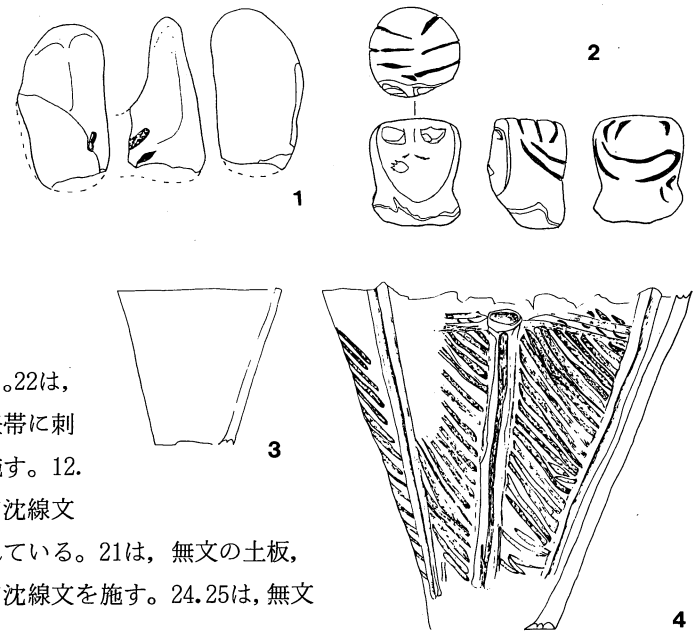
径５㎝前後で深さ10㎝程の棒を突きさした様な不明の穴が20個程不規則に散在した。炉の北側及び東側壁中央附近には約８㎝前後の貼床されたタタキが確認された，前者は８号住居址の柱穴の上に当り，後者は，８号住居址の炉の埋立の跡を示したものである。主柱穴は，４個正方形に配列し，P_1～P_4である。P_1は，50×48－57.5㎝，P_2は，60×53－43㎝，P_3は，60×52－51㎝，P_4は，53×48－44.5㎝の規模で，不整形の四角っぽい形で，比較的垂直にローム層に掘り込み底は平らで固くなっていた。P_5は，32×32－24㎝でP_2とP_3の中間にあって補助的な柱穴と思われる。P_6は，32×36－５㎝，P_7は，32×38－５㎝で共に浅い凹み状で固く，甕等を据え置く為のものの様で柱穴とは思われない。

炉は，竪穴式石囲い炉で住居址の中央や，北寄りに位置し，113×97－46㎝の規模で，炉石は北側のみに残存し，80×16㎝高さ45㎝の三角状の花崗岩が据えられ，赤く焼け表面はぼろぼろの状態であり，他は抜き取られ，10㎝前後の礫が中段に４ケ程残っていた。炉内には，木炭まじりの黒土が充満し，焼土は底部に僅か検出された。埋甕は南側中央の周溝の際に正位埋設され，口縁部及び底部が欠けて出土，蓋石は，床面より南側が約10㎝程浮き上って傾斜し，真中で二つに折れていた，不整形の丸形の平らな花崗岩の自然石で，32×32㎝厚さ5.5㎝，重さ2.8㎏を測る。（小木曽）

遺物

土器（第20，21図）

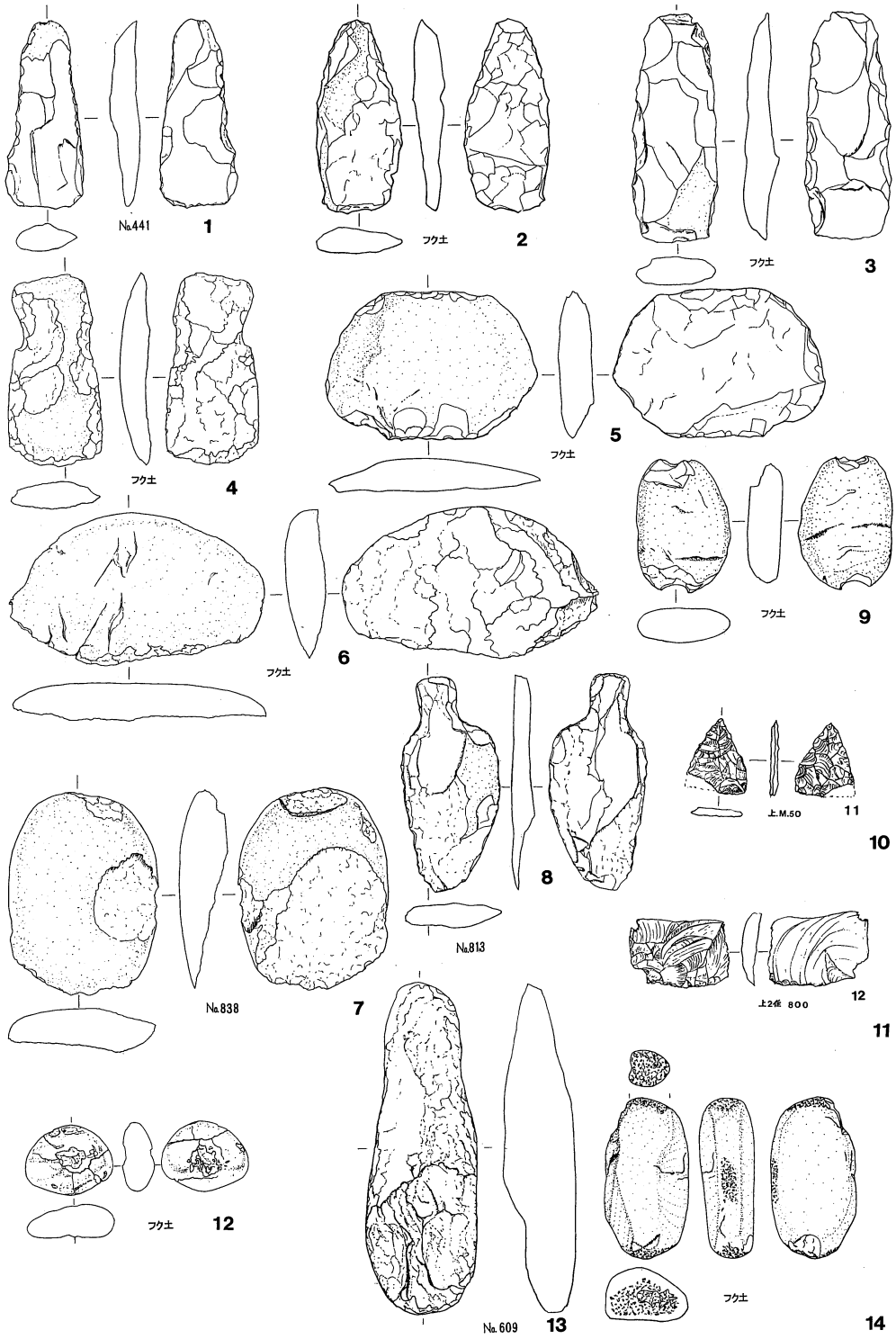
本址の遺物の出土状態は，覆土を床面上10㎝の所で二分し，上部及び下部とした場合，上部に９割までが出土し，下部になるにつれ僅少で，平面で見ると，南側半分に遺物が集中する傾向を示した。出土した土器片は総数1,494点，内底部片43点であった。第20図の１は，土偶の足部，２は，土偶の顔面で粗雑な造りでよく観察しないと土偶と判別し難い。３は，無文の小形深鉢，４は，口縁が欠けた埋甕で，粘土紐を二線縦に平行に貼りつけ６分割し，地文に箆描沈線文を配す，上部には耳状に似た小突起を施し，頸部の隆帯の上下に刺突文を配す。第21号の拓影1.3.4.5.6.7.8.10.11.16.19.22は，口縁部で1.4.7.10は，波状口縁である。口縁が無文或は有文，楕円区画帯に沈線文或は刺突文，渦巻隆線文，斜縄文等で構成されている。22は，無文，2.9.13.20は，箆描沈線文，隆帯に刺突文，渦巻隆線文，綾杉文などを施す。12.14.15.17.18は，斜縄文を主体に箆描沈線文渦巻沈線文，綾杉文などで構成されている。21は，無文の土板，23は，高台付小形の壷の底部で箆描沈線文を施す。24.25は，無文の底部である。



第20図　第２号住居址土器実測図
（１，２　１：1.5
３，４　１：６）

本址は，８号住居址との複合に加えて撹拌もあり，両住居址の

第21図　第２号住居址出土土器拓影図（１：３）

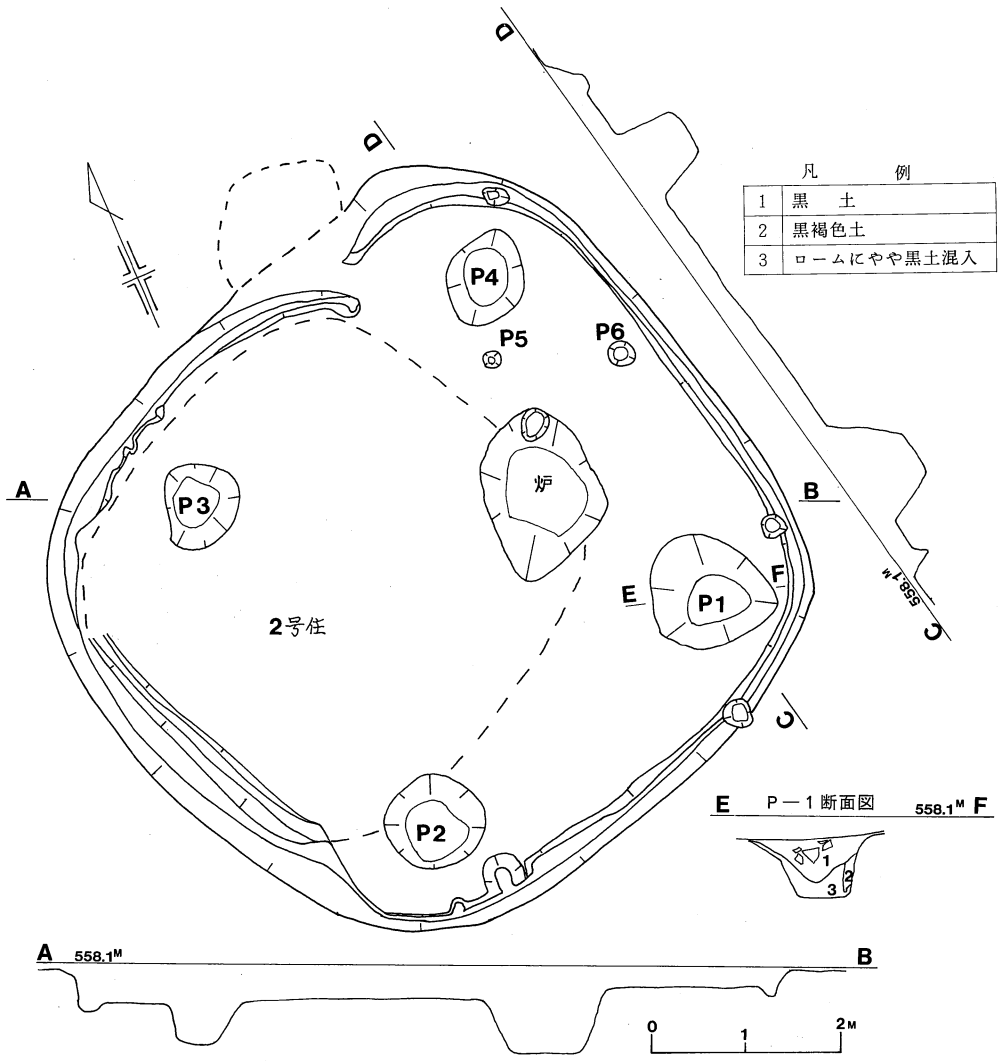


第22図　第２号住居址出土土器実測図（１～９　１：３
10～11　１：1.5
12～14　１：６）

遺物の入り乱れがあるので，時期決定は埋甕に代表される曽利Ⅱ式終りからⅢ式に比定されよう。

石器（第22図）

本址から出土した石器は，石棒1，（長さ32㎝花崗岩）大形打製石斧１，打製石斧34，横刃形石器51，石鏃２，石錘２，スクレイパー16，乳棒状石斧６，石皿１，スリ石２，礫器９，敲打器12，黒曜石の剥片71，計209点，その他のもの155点を加えると363点に及ぶ。第22図の１～４は，打製石斧で形態分類表（第17図）により１は，Ⅰ－Ａ，２は，Ⅱ－Ａ，３は，Ⅲ－Ａ，４は，Ⅳ－Ａである。５～７は，横刃形石器で，形態分類表（第18図）で，５は，Ⅰ－Ａ，６は，Ⅱ－Ａ，７は，Ⅱ－Ｄに属する。８は，石匙，９は，石錘，10は，石鏃，11は，スクレイパー，12は，凹石，13は，大形打製石斧長さ32㎝，14は，敲打器。



第23図　第８号住居址実測図

第８号住居址

遺　構（第23図）

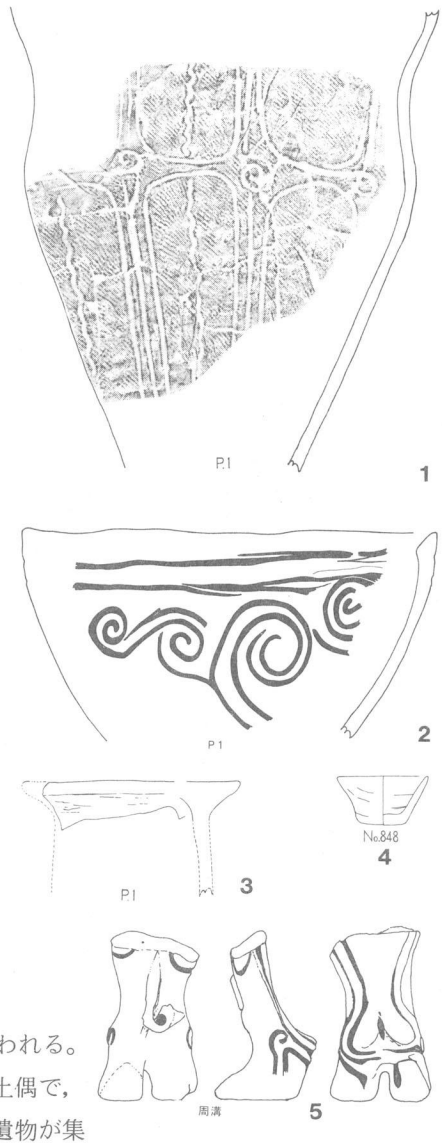
本址は，２号住居址と同様Ｌ－49・50，Ｍ－49・50グリット内に検出された。２号住居址が本址内に構築された為に，残存する覆土も撹乱され，或は埋土されていた。

平面プランは，東西7.2ｍ，南北7.0ｍの規模をもつほぼ隅丸方形を呈す。主柱穴は，$P_1P_2P_3P_4$で正方形に配列し，P_1は，140×120－56cm，P_2は，108×100－53cm，P_3は，90×85－55cm，P_4は，84×100－48cm，を計測する。何れも大形の柱穴で不整形，特にP_1，P_4には，多量の土器片が埋められていたが，恐らく２号住居址構築の際８号住居址のものを片付けるべく埋られたものと考えられる。P_1の周辺にもタタキ状の埋土の中に多くの土器片が検出された。P_5は，20×20－25，P_6は，28×28－20で補助的柱穴と思われる。主軸方位は，Ｅ－17°－Ｎを示す。壁高は35～10cmを測りほぼ垂直に立上っているが，出入口と思われる南西のコーナー附近が僅かなだらかな傾斜になっている。周溝は，南西コーナー及び北壁の東北寄りコーナー附近が一部切れている外は殆ど全周しており，幅は25～８cm，深さ35～10cmを測る。床面は，平担で，良好なタタキになっていたが，２号住居址の方が平均低く，比高差は10～15cm前後である。炉は，住居址の中央や，東寄りに位置し，150×120－56.5 cmの大形の規模をもつ竪穴式石囲い炉と思われるが炉石は抜き取られてなく，炉石の跡と思われる中段が残存した。覆土は黒土で，底には多量の焼土が検出された。（小木曽）

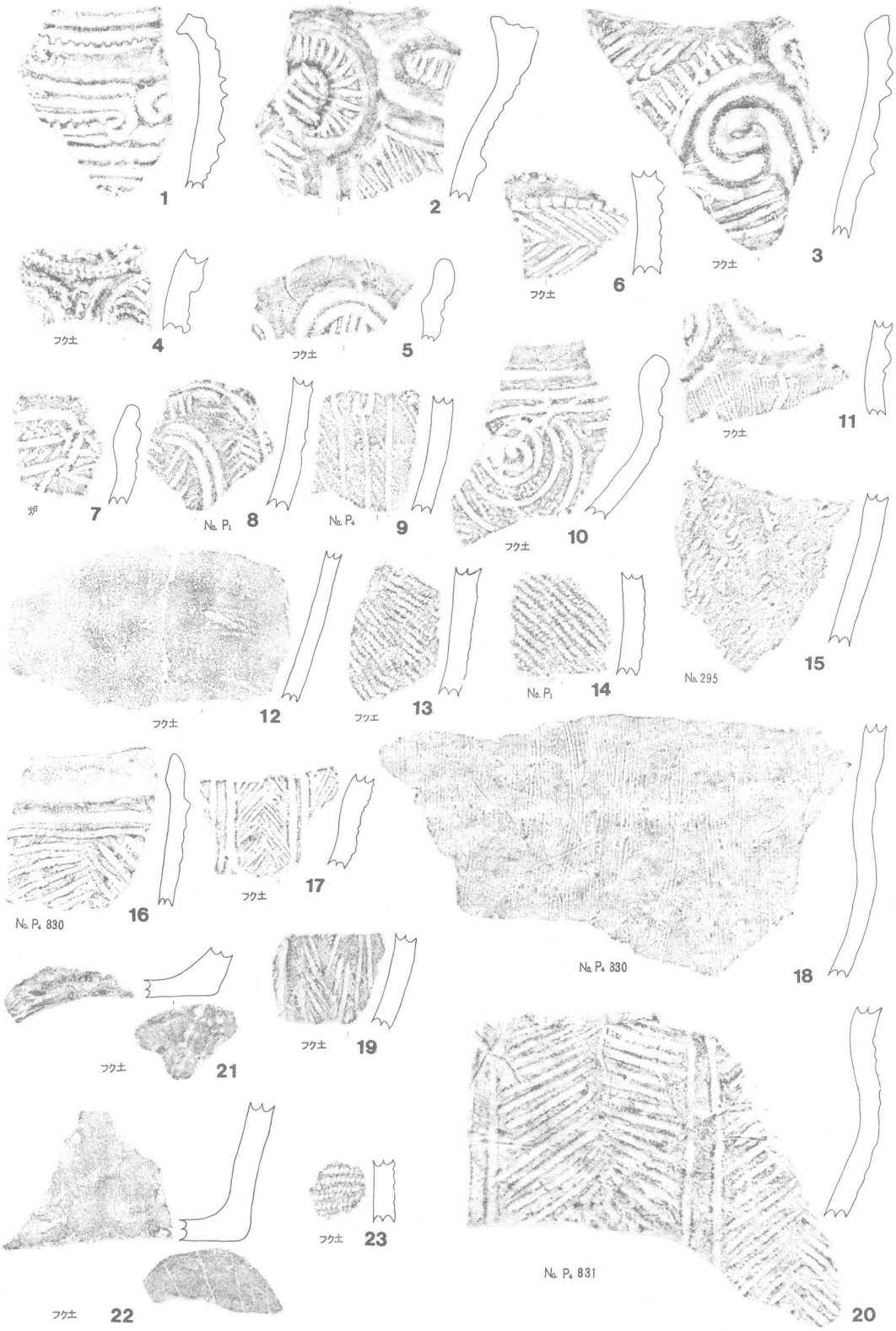
遺　物

土器（第24，25図）

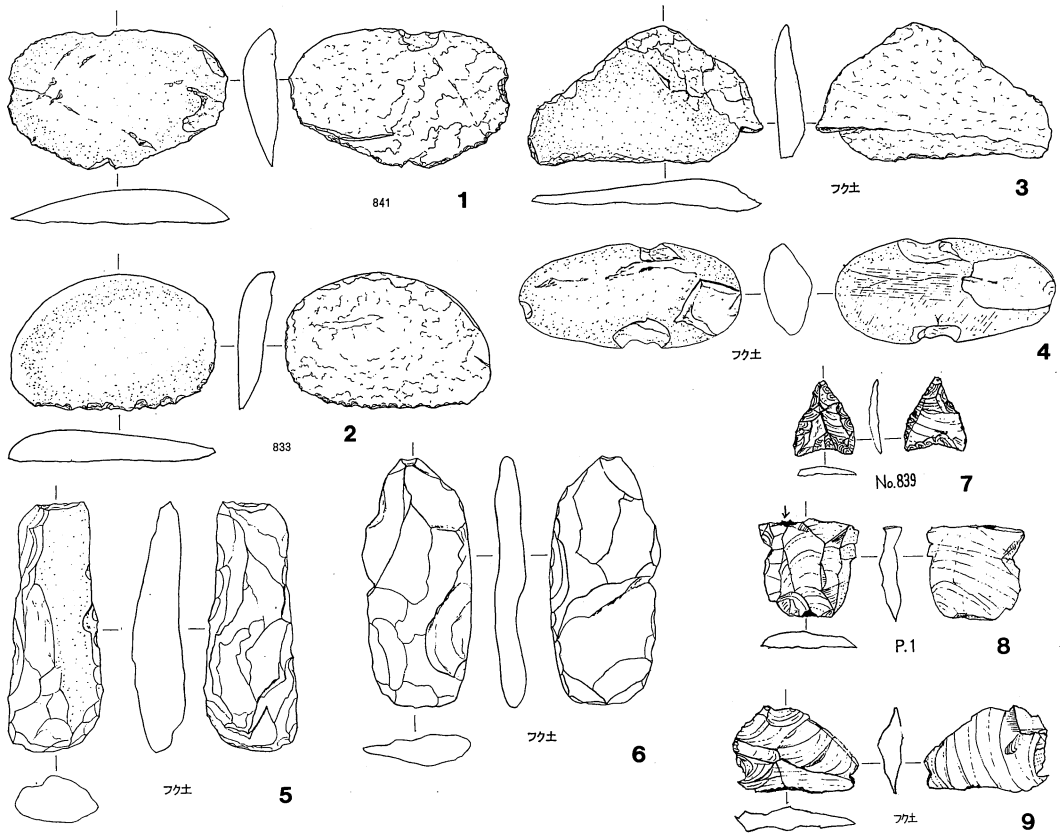
本址から出土した遺物は，深甕１，浅鉢１，器台１，ミニチュア土器１，土偶１，その他，土器片212点，内底部６点で，２号住居址との複合の為，遺物は僅少であり，又撹乱によって２号住居址からの飛び込み，本址からの飛び出しも必ずあることを考慮しなければならない。第24図の１は，深甕で，破片が大部分P_1に埋められていたもので斜縄文を地文として渦巻状の文様を心にＨ状沈線区画帯を施し，中に蛇行懸垂文を配す。２は，同じくP_1より出土，頸部に二本の沈線と胴部に唐草文，３は同じくP_1出土の器台，４は，ミニチュア土器に類する碗と思われる。粗製で無文，５は，東側周溝より出土した下半身の粗製の土偶で，摩耗している。本文で述べてきた様にP_1及び その周辺に遺物が集中して検出された事は本址の時代決定の上で重要な役割をもつもの



第24図 第８号住居址土器実測図（1：6）



第25図　第８号住居址出土土器拓影図（１：３）

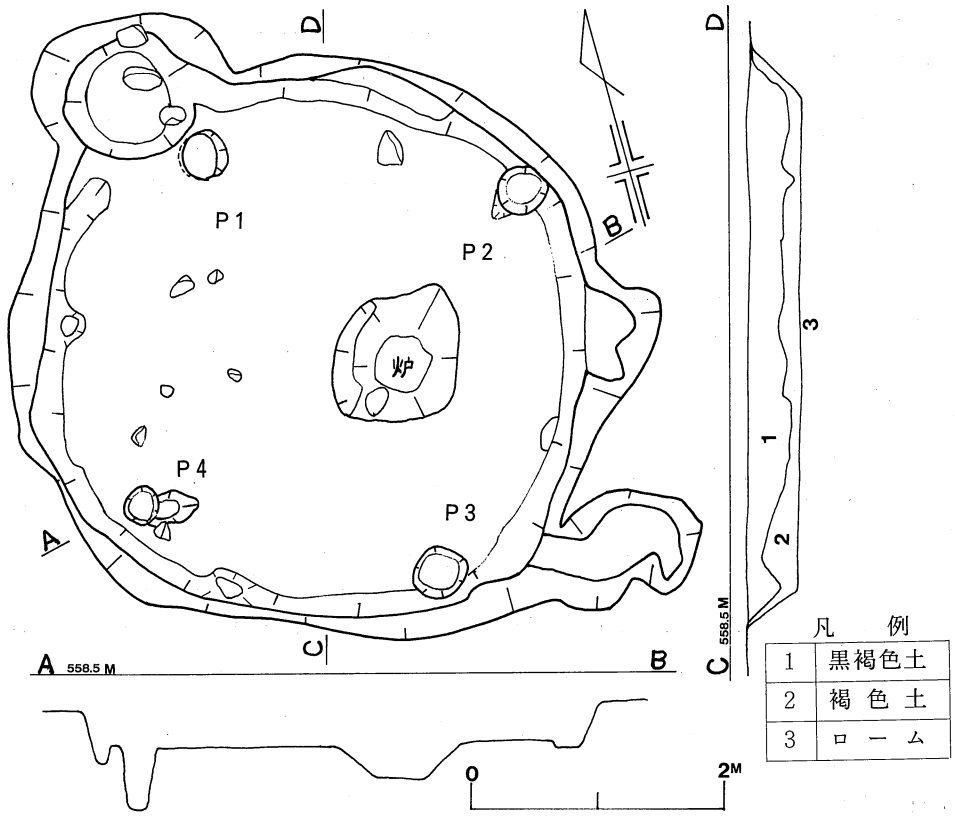


第26図　第８号住居址石器実測図（1～6　1：3
7～9　1：1.5）

で上記の１及び２の遺物の関係から，唐草文系Ⅱ式，曽利Ⅱ式期に平行されよう。第25号の１は，口縁に交互刺突文，隆線区画と刺突文を施す。２は，波状口縁に沈線，楕円区画，渦巻状区画文のに沈線を施す。３は，波状口縁で渦巻文に沈線，４は，隆起文に刺突文，5.7.8は，箆描沈線区画帯に沈線又は刺突文を配す。６は，隆帯に刺突紋を両側に施し綾杉文を配す，9.10は，縄文を地文とし，沈線を施すが９は沈線が浅く加曽利Ｅ系の要素をもち，10は，沈線が深い渦巻文で口縁には三本の沈線が入り縄文中期のものとしては古い要素をもつものと思われる。　13.14.15は，縄文，　11.18は，　櫛状施文具による沈線文，12は，無文，17.19.20は，沈線文に綾杉文を配す。21.22は，底部で，網代底及び木の葉底である。23は，土板で縄文が施されている。

石器（第26図）

本址の石器の出土は僅少で，石鏃１，石錘１，スクレイパー１，黒曜石の剥片３，打製石斧４，横刃形石器10，その多の剥片11，敲打器１，礫器等38点，計71点で，第26図の１～３は，横刃形石器，形態分類（第18図）によると，１は，Ⅰ－Ａ，２は，Ⅱ－Ａ，３は，Ⅲ－Ａに属する。４は，石錘，5.6は，打製石斧で形態分類（第17図）によると，５は，Ⅰ－Ｃ，６は，Ⅱ－Ａに属する。７は，石鏃，８は，ピエスエスキーユ，９は，スクレイパー。



第27図　第3号住居址実測図

3号住居址（第27図）

遺構　本住居址は台地東縁の中央に位置するグリットL45内に検出された円形竪穴住居址でローム層に掘込んである。其の規模は東西4.80㎝南北4.60㎝を測る，軸方向はE－10°Sである。壁は垂直に近く，東が高く僅かであるが西が低い。周溝は北の一部を除き全周している巾20㎝深さ平均して10㎝である。床面は平でよくたたいて固く仕上てある。柱穴は壁の近くに等間隔に4個所検出された，P_1は円形で径30㎝深さ40㎝P_2は楕円形で径35㎝×28㎝深さ62㎝，P_3円形で径30㎝深さ40㎝，P_4は円形径30㎝深さ55㎝である。炉址は中央より奥の東寄りに検出された方形の石囲い炉であるが縁石は抜きとられて中央が床面より20㎝程凹んでいる。炉址の附近は焼土で赤く変色して固い。北の隅に食料の貯蔵穴と思はれる円形の大穴があり其の径は100㎝深さ98㎝　のもので縁部に自然石が1個台石の如く据えてある。東寄壁外に不整形の浅い穴，100㎝×60㎝深さ25㎝，70㎝×40㎝深さ19㎝　2個所

表24　第３号住

土器分類表

	出土数
口縁部	72
胴部	644
底部	25
台付土器(脚のみ	5
吊手	1
土器片円版	7
大穴	31
計	785

表25　第３住石器分類表

器種 / 石質	石鏃	石匙	石錐	スクレイパー	ピエス・エスキーユ		打製石斧	横刃型石器	小形打製石斧	磨製石斧	乳棒状石斧	凹石・磨石	皿	礫器	剥片	石錘	その他	計
黒曜石	2		2	10	2												79	95
チャート																		
粘板岩											2			7	4	1		14
砂岩								2						10				12
硬砂岩							10	22						30	23			85
緑色変岩							2	2			4			26				34
花崗岩														6	2			8
緑泥岩		1													15			16
片麻岩																		
其の他							1	1						6				8
計	2	1	2	10	2		13	27			6			85	44	1	79	272

検出された。(根津)

遺物　土器は破片ではあるが量的にはかなり多く覆土と床面の出土，総数は791点の内貯蔵穴内より31片，土拡内より６片で，主として深鉢であるが細部に分類すれば，口縁部72片．胴部644片，底部25片，台付土器（脚のみ）５片，吊手１片，円版（小形のもの）７片である。

表26　打製石斧形態別個体数

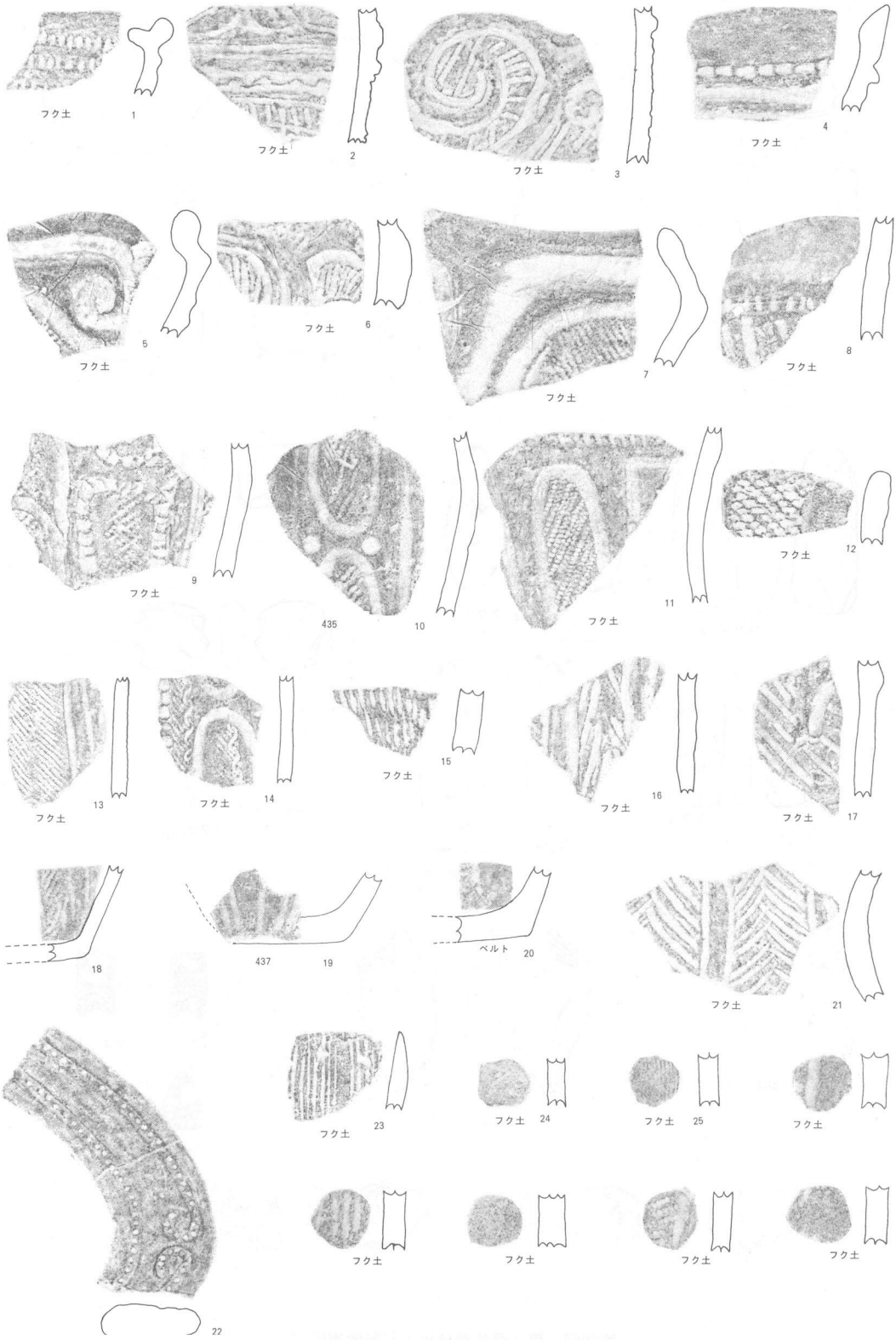
	A	B	C	計
Ⅰ	1	1	2	4
Ⅱ		2		2
Ⅲ	1	2		3
Ⅳ		2	2	4
計	2	7	4	13

表27　横刃形石器形態別個体数

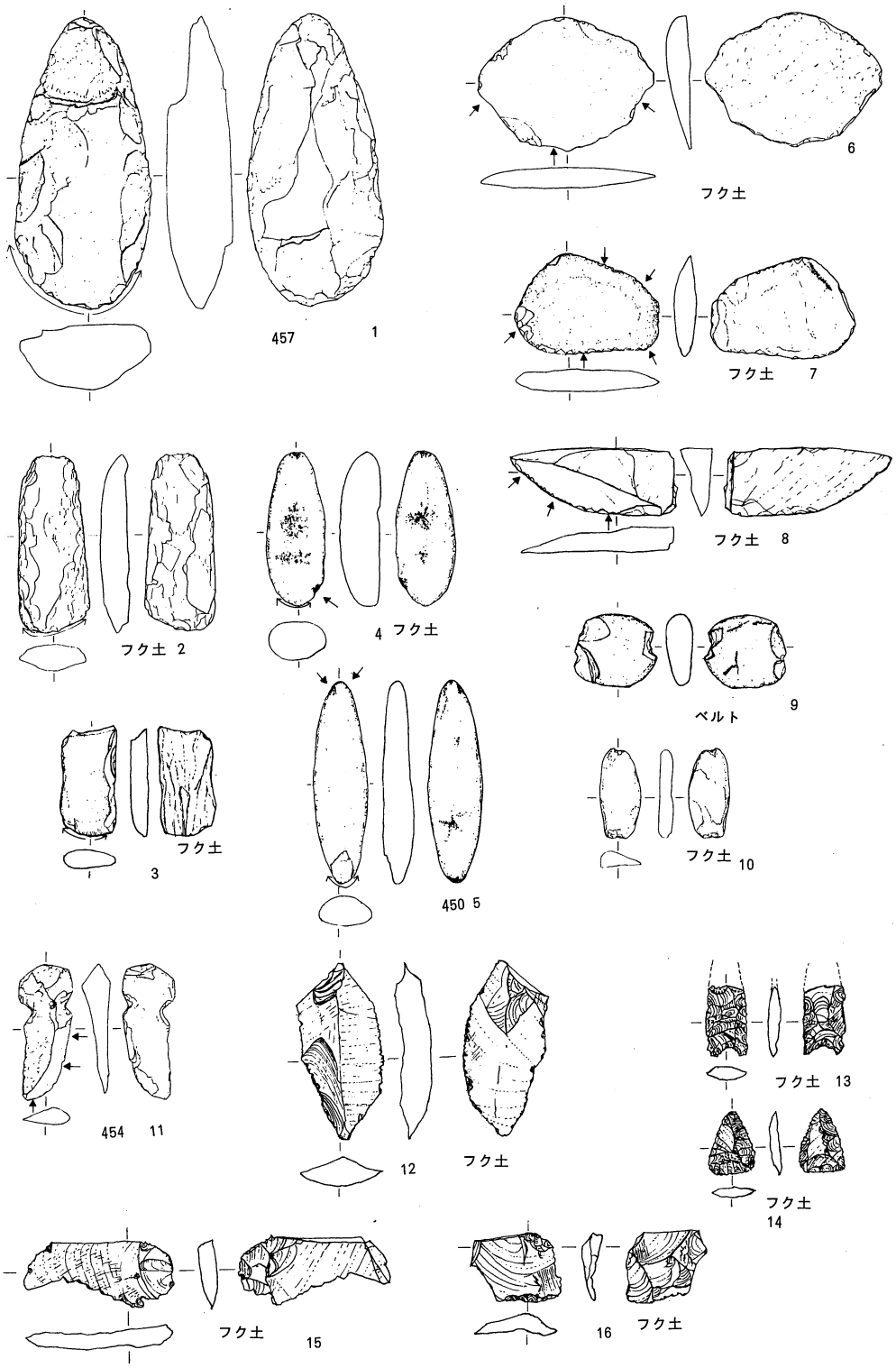
	A	B	C	D	E	計
Ⅰ	7	2				9
Ⅱ	5	4		2		11
Ⅲ	3	4				7
Ⅳ						
計	15	10		2		27

土器の文様は破片のために全体的には不明であるが部分的に知る事が出来る，口縁より頸部に至り無文で其の下に２，３列竹管状の器具により帯状に刺突文を連続に施したものと，同じ様に口縁より頸部に無文で太目の沈線と刺突文を交互に横に３本程施したものあり，口縁部の下に斜行縄文を地裸に施してそれを削りとる様に太い沈線で唐草文様を配したものあり，頸部より下に細目の斜行縄文をつけてそれを囲む様中目の沈線をば楕円と長方形の区画文を交互に竝べて他の部分は摺り消したものあり，胴部に斜行縄文を施して縦に結節文をつけて太い沈線により楕円形の区画文をかきなほ太目の刺突文を施したものあり，胴部に中目の沈線文を縦に２本等間隔に画き其の中を山形状の綾杉文を施したものあり，地はだに細目の斜行縄文をつけ太目の沈線と太い刺突文で縦に長方形と楕円の区画文をつけてあるものがあり。これらの土器片は曽利のⅡ，Ⅲの要素が強い。

石器は床面，覆土より出土したもので使用痕ある剥片も含む，272点である，打石斧は13点で，A，B，C，の３形態に分類した。石質は硬砂岩10，緑泥岩２，其の他１である。横刃形石器は27点でこ



第28図　第３号住居址出土土器拓影（１：３）

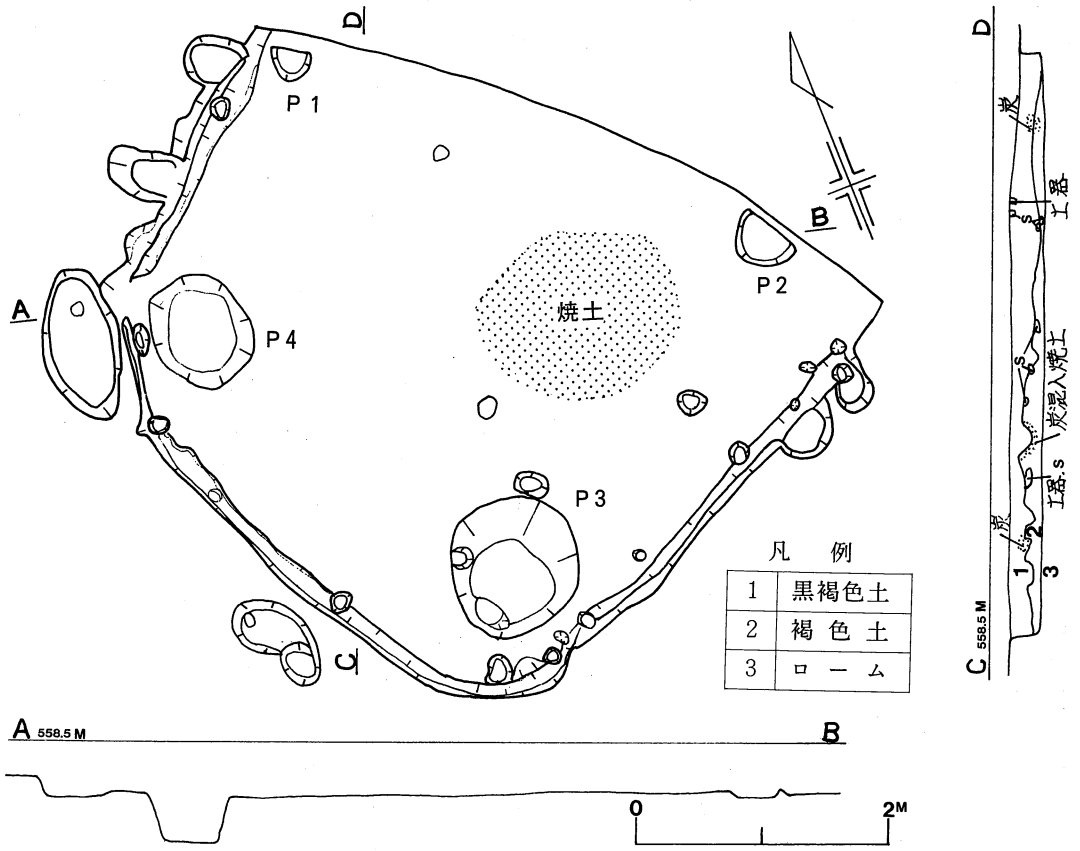


第29図　第３号住居址出土石器実測図（１：２）

表28　黒曜石分類表

No.	出土地点	遺物No.	長さcm	幅　cm	厚さcm	重さg	使用痕	分　　類
1	3住フク土	32	2.0	1.2	0.3	5	あり	石　　鏃
2	〃	−	2.2	1.0	1.2	6	〃	〃
3	〃	−	5.3	2.6	1.0	10	〃	スクレイパー
4	〃	−	4.5	1.9	0.5	7	〃	〃
5	〃	−	3.4	2.1	0.4	6	〃	〃
6	〃	−	2.5	2.0	0.5	7	〃	〃
7	〃	−	2.2	1.5	0.2	5	〃	〃
8	〃	−	3.3	1.7	0.4	9	〃	〃
9	〃	−	2.5	2.1	0.4	5	〃	〃
10	〃	−	2.1	2.0	0.5	6	〃	〃
11	〃	452	2.0	1.3	0.4	5	〃	〃
12	〃	−	2.1	1.4	0.5	6	〃	〃
13	〃	−	2.8	1.6	0.7	5	〃	ピエス・エスキーユ
14	〃	−	2.9	2.2	0.4	6	〃	〃

れもA，B，C，Dの4形態に分類を行なった。石質は砂岩2，硬砂岩22，緑泥岩2，其の他1である。乳棒，状石器6点，石質は粘板岩2，緑泥岩4である。礫器は85点，石質は粘板岩7，砂岩10，硬砂岩30，緑泥片岩26，花崗岩6，其の他6である。剥行（使用痕あるもののみ）44，粘板岩4，硬砂岩23，花崗岩2，緑泥岩2，其の他6である，其の他の剥片（黒曜石）使用痕のないもの79である。



第30図　第4号住居址実測図

第４号住居址（第30図）

本住居址は遺跡の東縁の北側に発見されたもので，南には竪穴群と３号住居址が転在している。プラ ンは，隅丸方形で南北約440㎝東西520㎝を測りローム層へ掘込んだ竪穴の住居址である。北側の一部は盛土のために，発掘は行なわれなかった。軸方向はＮ－20Ｗである。壁は垂直に近く良好である。壁高は南23㎝，北側で35㎝である。周溝は壁の直下に幅10㎝深さ10㎝で全周している。周溝内に平均径10㎝深さ30㎝前後の小穴が80㎝～120㎝の間隔をおいて13箇所検出された。床面は小さい凹凸はあるがよく叩いて固く仕上てある。柱穴は４箇所あるも西と南は大きいP_1は径30㎝深さ21㎝P_2は径40㎝深さ10㎝P_3径100㎝深さ40㎝P_4径90㎝深さ43㎝を測る。炉は石囲炉であったが縁石は抜き取られて40㎝大のものが２個炉底に残存している，大きさは東西150㎝南北140㎝深さ31㎝ で中心が摺鉢状になっている。

西の隅の壁外に長さ120㎝幅60㎝深さ20㎝楕円形の貯蔵穴と思はれる穴が検出され内部には少量の炭化物と頭大の礫が１個出土した。東北の隅近くにピット２箇所，西北にピット２箇所いずれも壁外に検出されるも用途は不明である。

遺物　土器，覆土と床面を合せれば量的にはかなり多い，実測土器は深鉢が３個で，其の１は４箇所の把手を有する開いた波状口縁で頸部は胴部より僅かにくびれているが据へるとかなり安定感のあるもので，器高24㎝，口縁の幅22㎝胴幅11㎝で口縁を上より見ると隅丸方形である。文様は把手には縦に５本の沈線を口縁まで画き，口縁より頸部まで横に渦巻文を連続して８個画き，頸部より下は細目の沈線を以って斜行に走らせ其の上を中目の沈線で２段に楕円形に区画してある。底部には木葉文様がある。其の２，口縁が僅かに開いた円筒形土器で薄手のものである。器高19㎝，口縁の幅は12㎝，胴幅９㎝である。文様は口縁より頸部にかけて沈線による横楕円を連続して帯状に９個等間隔に施している。其の３は口縁竝に頸部の欠けたものである。器高は推測するに27，８，㎝有するもので胴幅は17㎝で薄手である。文様は地裸に細かい斜行縄文をつけ其の上に太目の浅い沈線を縦に２本づつ底部に至るまで画き其の中心部に細かい結節縄文を縦に施してある。

表29　第４号住土器分類表

（単位：個）

		出土数
深　鉢	完形品	3
器　　台		1
口　縁　部		201
胴　　部		1,762
底　　部		63
把　　手		10
土偶（胴部のみ）		1
土器片円版		2
計		2,043

完形品の他に多くは深鉢の土器と思はれる。口縁部201個，胴部1762個，底部63個，把手10個，土版２個，胴部のみであるが土隅が出土した。この土隅は胸部より尻の下，脚の付根までの長さは７㎝で，出尻の先まで５㎝あり胴部の厚みは２㎝である。背から胴の側面から尻にかけて細い深い沈線２本が力強く画いてある。尻の割目を背中まで太目に誇張して画いてある，前面腹部はへそを同じ沈線で写実的に画いてある。土器片の代表的文様は，口縁部が内湾し僅か上部が無文で其の下に太い押引文を帯状に施して大きめの沈線により渦巻きを画き其の中を縦横に沈線を連らせたものあり，口縁部より太目の沈線を２本帯状に画き，同じ沈線をもって楕円を横に区画して其の中へ蛇行沈線と綾杉文を施したものあり，地裸に斜行縄文を画き太い沈線で長方形に区画しそれを横に連続したものあり。地裸は綾杉文を縦に速らせ其の上を大い沈線により唐草文を横に，蛇行文を縦に胴部の下まで画いたもの，口縁部は僅か無文で太い沈線で中心にＳ形を画き両脇は楕円形に区画した中

表－30　第4号住　石器分類表

	石鏃	石匙	スクレイパー	石核	ピエス・エスキーユ	打製石斧	横刃形石器	乳棒状石斧	凹石・磨石	石皿	礫器	剥片	フレーク	その他	計
黒曜石	1	1	15	3	4								57		81
粘板岩						7	3				5	18			33
砂岩											3	1			4
硬砂岩						21	32		3		16	46			118
花崗岩											9	6			15
片麻岩											1				1
緑泥岩						6	6	1		2	15	18			48
その他												34			34
計	1	1	15	3	4	34	41	1	3	2	49	123	57	0	334

表－31　第4号住　打製石斧形態別個体数表

	A	B	C	計
Ⅰ	0	3	2	5
Ⅱ	2	0	0	2
Ⅲ	4	9	3	16
Ⅳ	2	8	1	11
計	8	20	6	34

表－32　横刃型石器形態別個体数

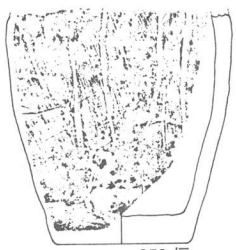
	A	B	C	D	E	計
Ⅰ	3	9	1	0	0	13
Ⅱ	4	9	0	2	0	15
Ⅲ	4	7	1	0	0	12
Ⅳ	1	0	0	0	0	1
計	12	25	2	2	0	41

へ斜めに沈線をつけたもの，地裸に斜行縄文を施して太沈線を帯状に何本を走らせて楕円と長方形に区画したものがある。多くは沈線文が主体で地文として縄文，綾杉文が多い，時期は曽利のⅡ，Ⅲの要素が強い。(根津)

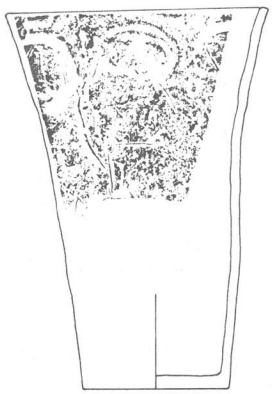
石器　石器は総数334個出土し，其の内床面より出たもの121個，一部は炉の附近に集中していた打制石斧，34個，石質は硬砂岩，粘板岩，緑泥岩等である。横刃形石器は47個，石質は硬砂岩，粘板岩，緑泥岩等，乳棒状石器1個，緑泥岩，凹石3個，硬砂岩，敲打器2個，緑泥岩，礫器は自然石の一部に使用痕あるもののみ107個，硬砂岩，粘板岩，緑泥岩，其の他，黒曜石制品は，石鏃1個，石匙1個，スクレイパー15個，石核3個，フレーク57個，ピエスエスキーユ4個，打石斧はA，B，C，ⅠⅡⅢⅣ等に分類し横刃形石器も，A，B，C，D，ⅠⅡⅢに分類を行った。

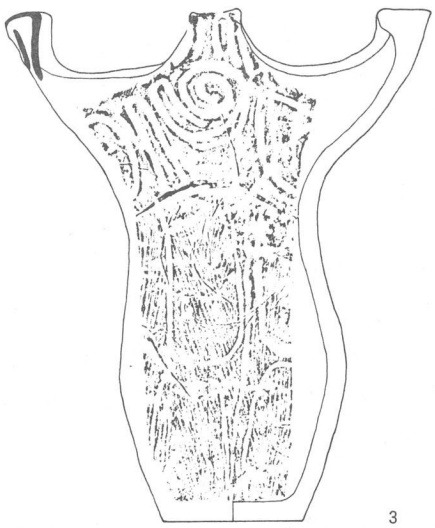
表33　黒曜石分類表

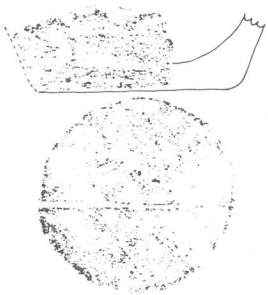
No.	出土地点	遺物No.	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	使用痕	分類
1	4住フク土	538	2.2	1.6	0.4	1.5	あり	石鏃
2	〃	548	2.2	1.6	0.5	1.5	〃	石匙
3	〃	47	5.0	2.7	0.7	7.3	〃	スクレイパー
4	〃	—	4.0	2.8	0.6	9.0	〃	〃
5	〃	275	5.3	1.5	0.5	3.5	〃	〃
6	〃	237	3.8	2.8	0.5	3.5	〃	〃
7	〃	360	3.9	1.6	0.5	2.6	〃	〃
8	〃	—	2.9	1.9	0.4	2.1	〃	〃
9	〃	538	2.7	2.2	1.0	6.0	〃	〃
10	〃	—	3.0	1.7	0.7	2.7	〃	〃
11	〃	—	3.9	2.6	0.6	6.6	〃	〃
12	〃	—	2.8	1.5	0.7	3.8	〃	〃
13	〃	—	2.3	2.1	0.6	2.2	〃	〃
14	〃	—	1.8	1.2	0.4	1.2	〃	〃
15	〃	—	2.3	1.6	0.6	2.5	〃	〃
16	〃	—	3.0	1.2	0.3	1.2	〃	〃
17	〃	—	2.3	1.8	0.3	1.3	〃	〃
18	〃	—	2.8	2.2	0.9	6.8	〃	ピエス・エスキーユ
19	〃	—	2.7	1.6	0.6	2.8	〃	〃
20	〃	—	2.4	2.4	0.7	2.7	〃	〃
21	〃	—	1.2	1.3	0.3	0.5	〃	〃



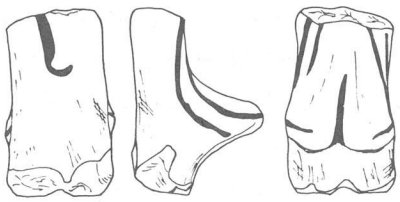
1


炉　No.392　2


No.397　3

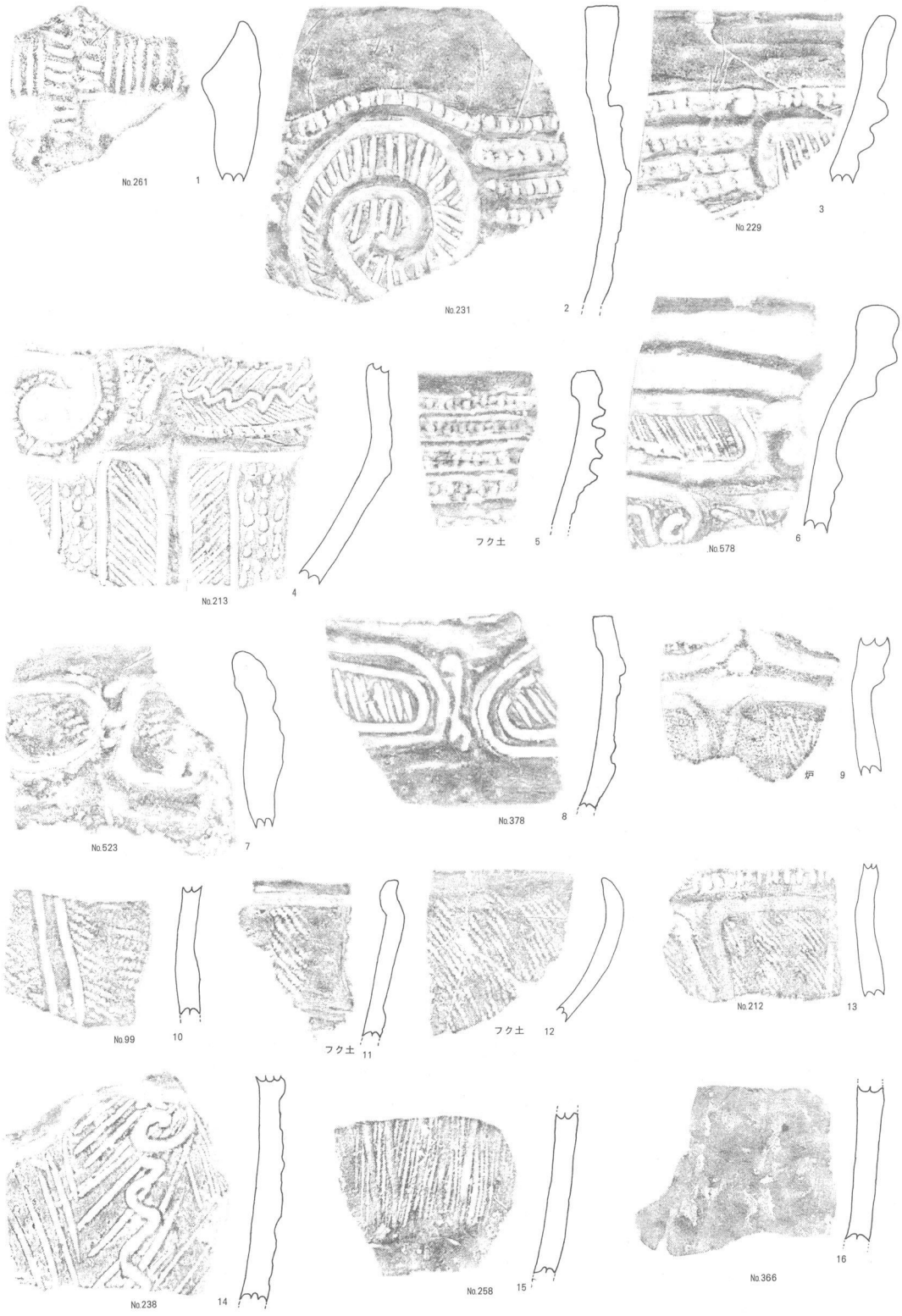


4

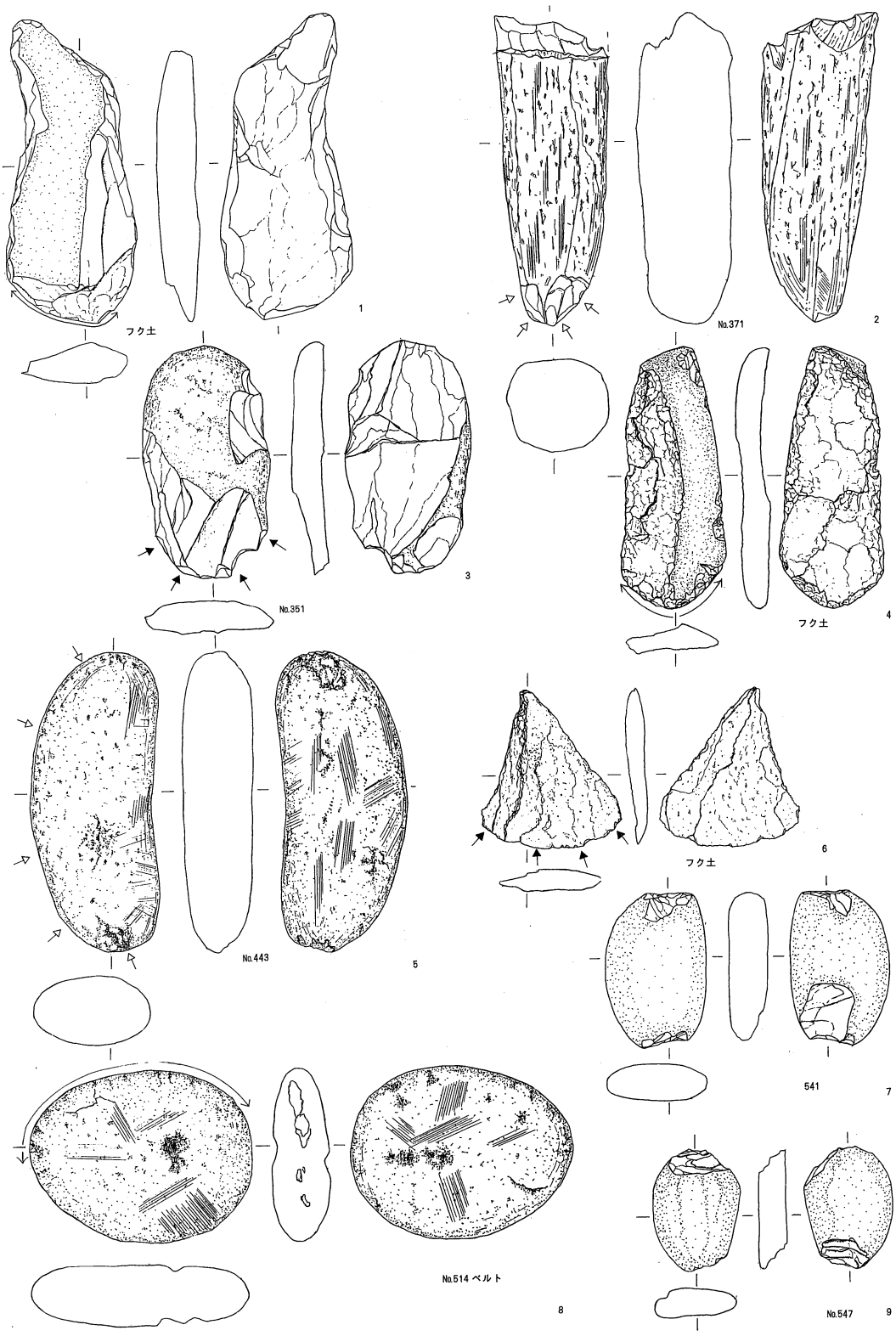

No.446　5

No.529　6

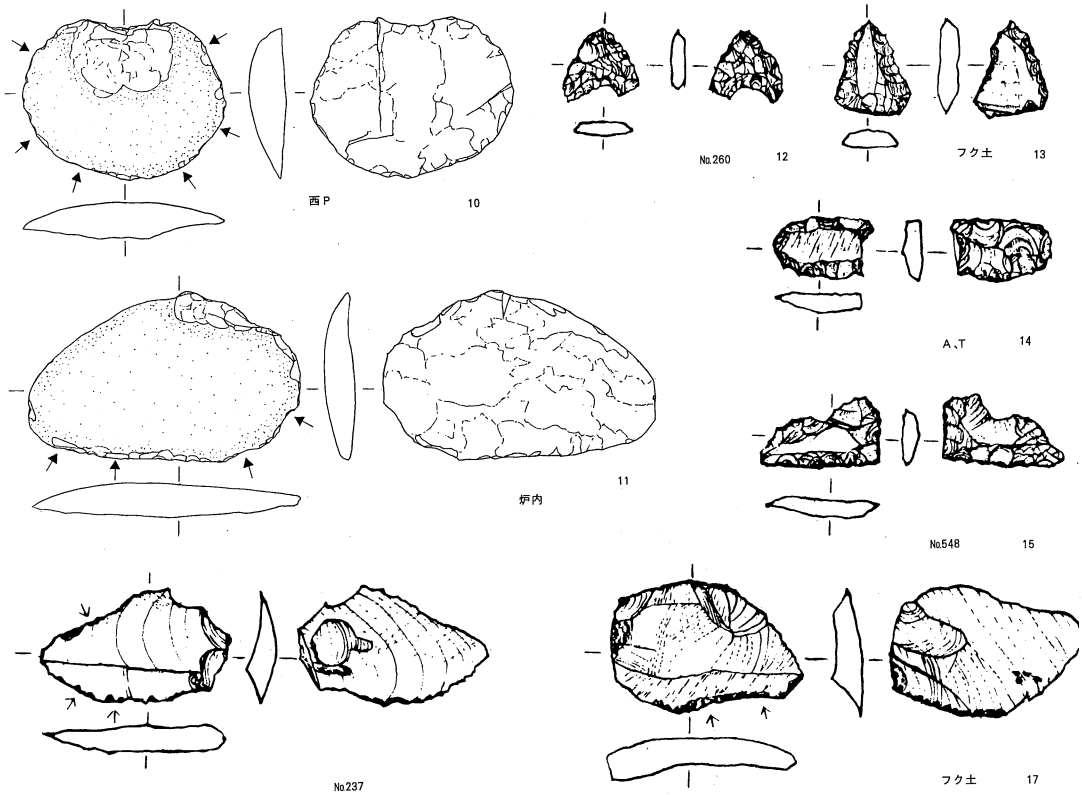
第31図　第4号住居址土器実測図(1～4　1：4
5　1：3
6　1：2)



第32図　第４号住居址土器拓影（１：３）



第33図　第４号住居址石器実測図（１：３）

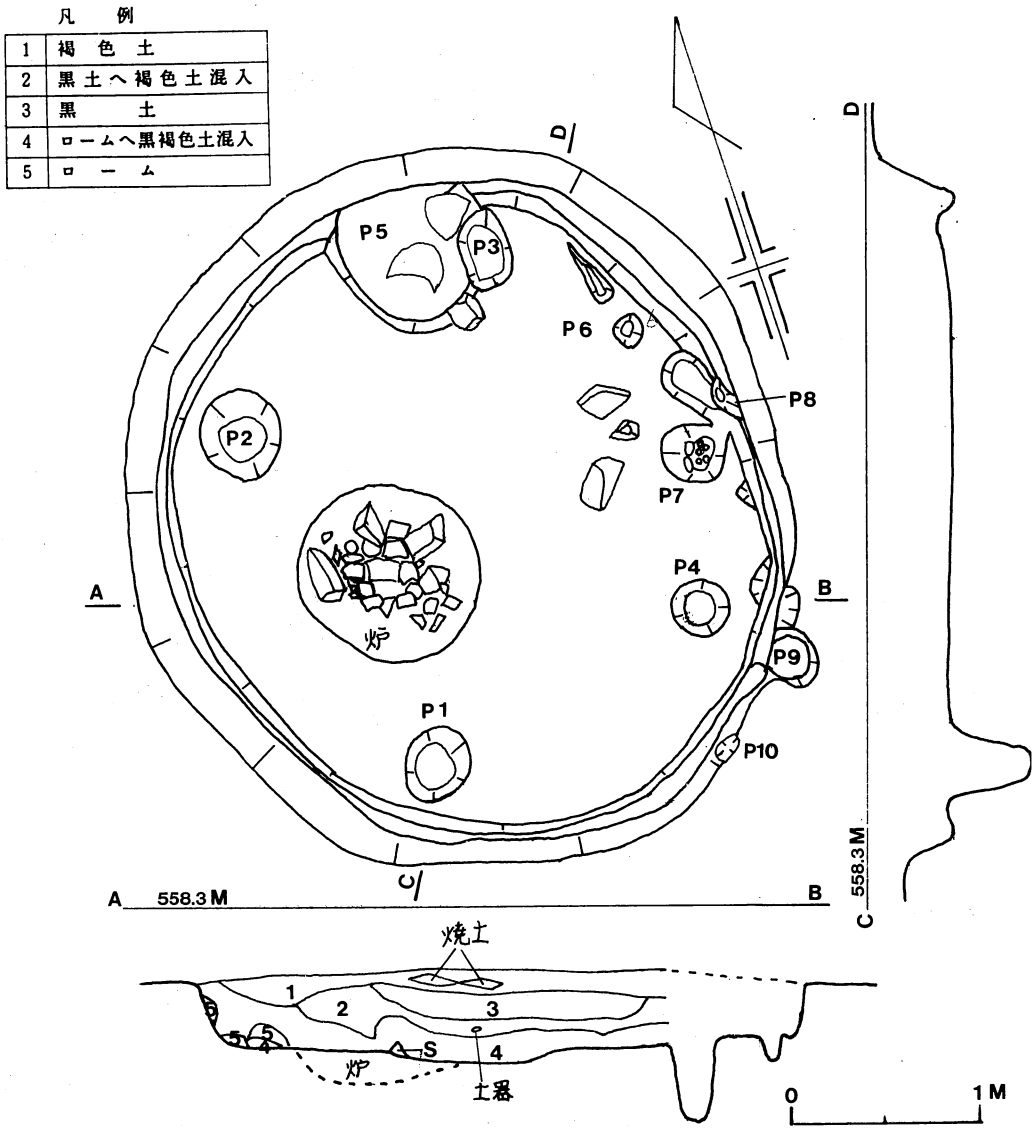


第34図　第４号住居址石器実測図（ 0～11　1 ： 3
12～17　1 ： 1.5）

第５号住居址

遺構（第35図）

本址は，Ｋ－50・51，Ｌ－50・51グリット内に検出された。道路が東側に僅かかかっていたが，幸にも之を除去でき完掘する事ができた。道路上から遺構までは約60㎝，床面までは 1.1 ｍを測る。平面プランは，長径 3.9 ｍ，短径 3.4 ｍを測る楕円形を呈す。主軸方位はＷ－12°－Ｓを示す。壁高は45～ 32.5 ㎝を測り，ほぼ垂直に立上っている。主柱穴は，Ｐ１Ｐ２Ｐ３Ｐ４ で，Ｐ１は44×40－ 37.5㎝，Ｐ２は，42×26－25㎝，Ｐ３は，32×30－ 36.5 ㎝，Ｐ４は，38×34－44㎝を計測する。Ｐ５は，85×80－18㎝で底はほぼ平らで固いタタキになっている。ピット内の二個の石は同一個体で，又その外側にある四角の石は炉の中の四角の石と接合し，炉石に使用したものと思われる。Ｐ６は，18×16－ 12.5 ㎝，Ｐ７は，42×30－21㎝，Ｐ８は，20×10－ 16.5 ㎝，Ｐ９は，30×28－ 25.5 ㎝，Ｐ１０は，16×15－20㎝で何れも住居に関係ある柱穴と思われる。Ｐ７には卵大からこぶし大位の礫が７個敷いてあった。床面は，良好なタタきになっていて固く，東側がやゝ低い傾斜になっていた。周溝は，幅25～ 6 ㎝，深さ10㎝前後を測る。炉は，中央やや西寄りに位置し，規模は，98×90－31㎝を測る。炉石は大部分抜き取られて３個程残存，その内の１個緑色岩が半分に折れて炉の真中に埋ってあった。炉の底には30片の土器片が敷きつめられ，No. 1 とNo.17の土器片が表になっていた外は全部裏返しになって張ってあった。（第39図）土器片はすべて大形の甕の廃品を使用したものと見え，真中中央に一番大きな破片24×20㎝



第35図　第5号住居址実測図

を用い，その他は10㎝前後のもので6～7種類の土器の破片が使用されている。(小木曽)

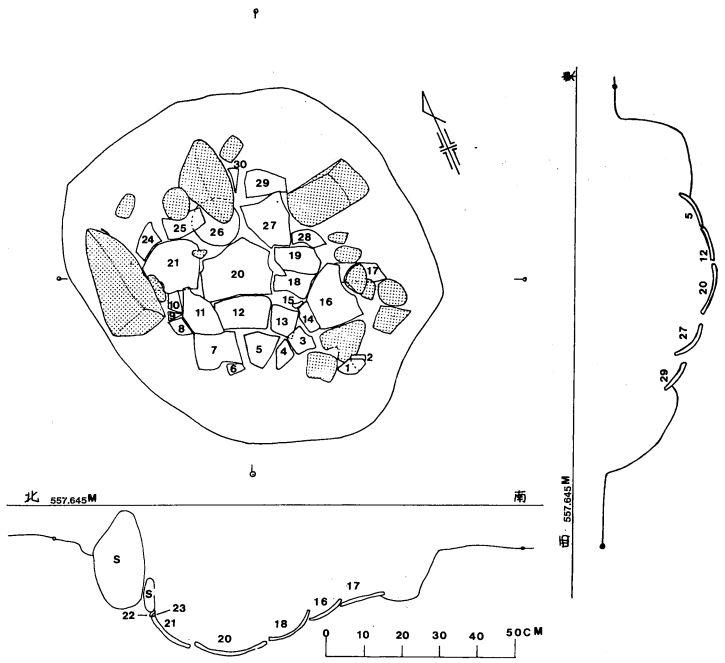
遺物

土器　(第37図，第38図，第39図)

本址から出土した土器片の総数は，425点，内底部12，復元された土器6，図第37の1は深鉢形土器で口縁部に無文帯，胴部は隆帯区画文に箆描沈線文を配す，2は，1と同様深鉢で，下部に沈線と綾杉文を施す。3は，浅鉢形土器で縦に沈線を施す。焼成は良好である。4は，甕形土器の粗製品，縦に平行沈線を施す。5は，甕形把手付土器，波状口縁で把手は渦巻沈線に刺突文を加え下部は渦巻状

変形区画帯に斜縄文を配す，焼成は不良である。6は，口縁部把手，渦巻様の沈線に刺突文を配す。7は，底部で底は木の葉文，8.9.10は，台付土器の底部で唐草文，無文，沈線文になっている。11は，つり手土器のつり手で楕円区画帯に刺突文を施す。

図第38の1は，竹管文を施す勝坂糸土器，2.11は縄文を主体にし，14は，深い沈線文様を施し，何れも中期中葉に位置づけられるもので飛び込みと考へられる。3は，楕円区画文に箆描沈線文で区画帯の間に組紐文様を施す，4.16は，隆線区画帯に沈線，5.15は，渦巻文に沈線，7.8.9.10.17.19は，縄文を地文に懸垂文又は蛇行懸垂文を施す。18は，口縁無文帯の下に組紐隆帯区画を施し，刺突文，沈線を配す。20は，変形渦巻文に縄文を施す。21は，口縁から細長い楕円区画を施し中に斜縄文，22，23は，沈線に綾杉文を地文とする。又その他覆土中には加曽利B式のすり消縄文など若干の飛び込みも見られた。第39図は，炉の底に張った土器で，1は，19で口縁が無文帯，2は28で隆帯区画文に沈線，14.15.18.28.30が同一個体，3は，無紋帯の波状口縁で渦巻文に沈線を施す，直径45㎝位の大甕で12.20が接合，4は17で楕円区帯に刺突文，沈線文の下に縄文を地文として蛇行懸垂文を配す，6.29が同一個体，5は7で斜縄文に蛇行懸垂文1.3.4.5.13.22が属する。6は24で斜縄文平行及び蛇行懸垂文を組合す16が属する。7は25で，わらび文に綾杉文，8は，2.8.9.10.11.21.23.27及び覆土中のもの二片口縁部が接合する無文の浅鉢，26は底部で無文，直径12㎝。

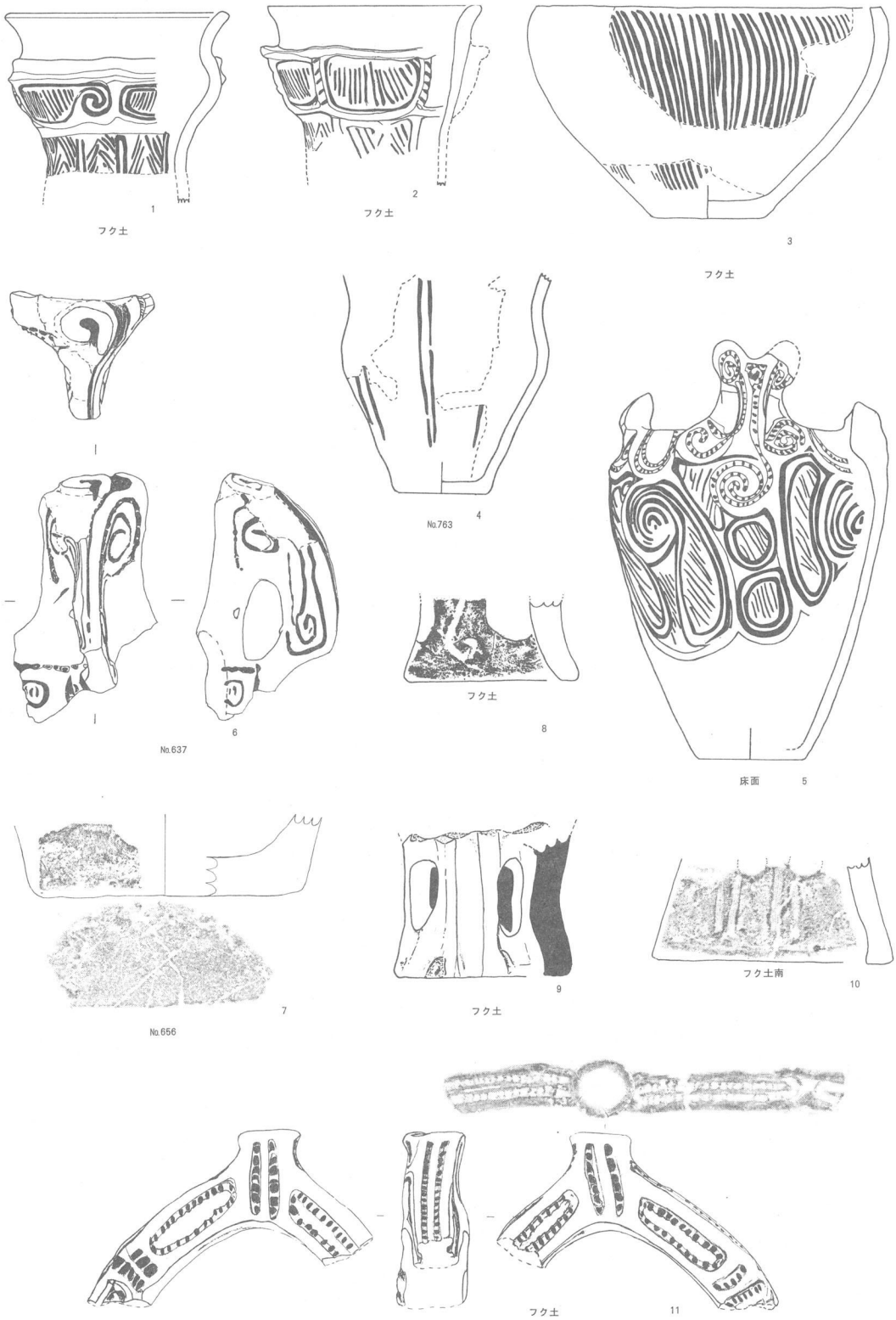


第36図　第5号住居址炉実測図

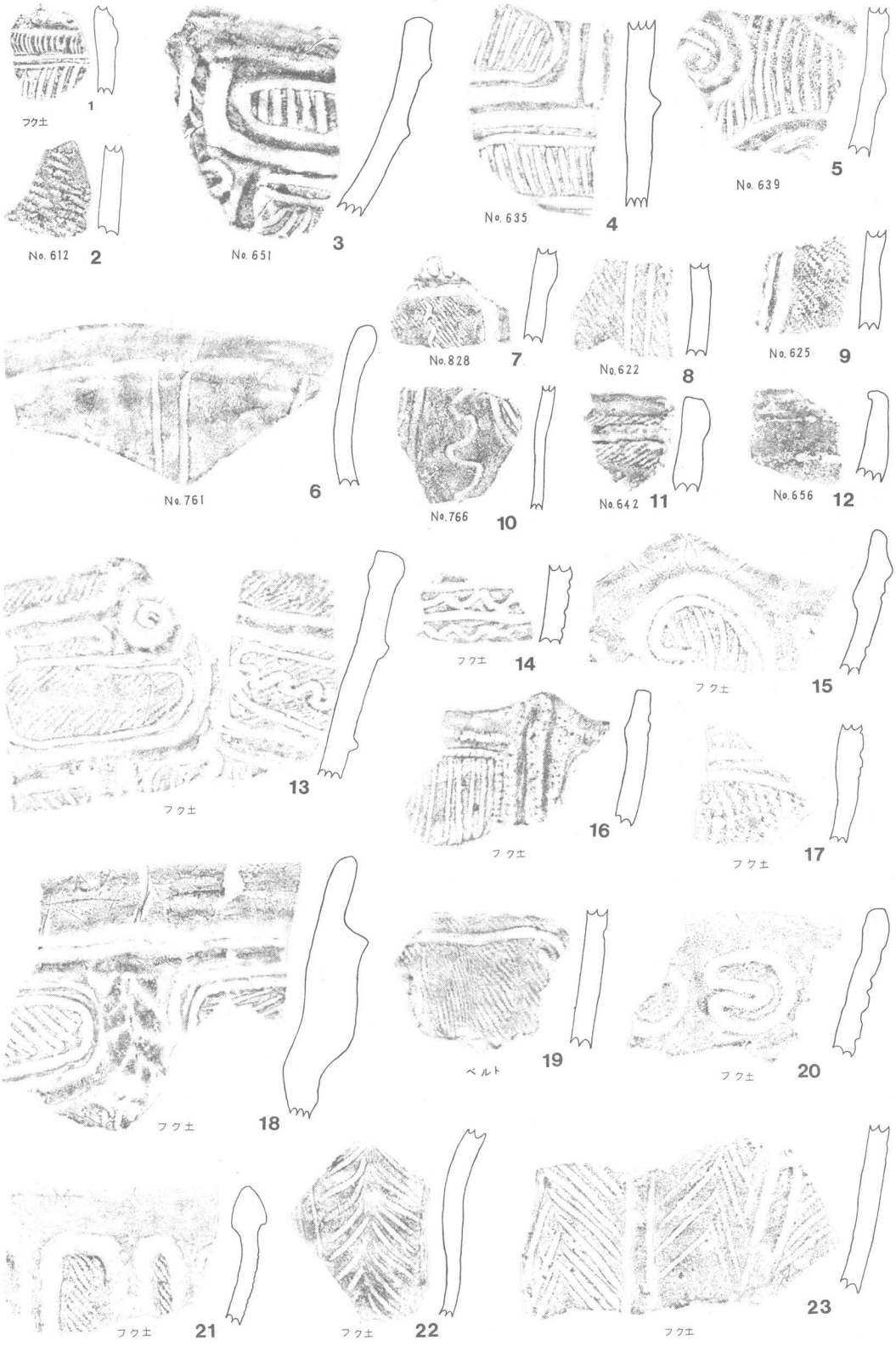
本址は　小形住居址ながら，完形品の出土が多く，炉の底に張られた土器は，曽利Ⅱ式に平行する豪華なもので，住居内から出土したものは多様で，曽利Ⅲ式に平行する要素も多分に含まれるによって時期決定は，曽利Ⅱ～Ⅲ式に位置づけされよう。

石器　（第40図）

本址から出土した石器は，石匙2，スクレイパー2，打製石斧12，横刃形石器31，凹石1，小形磨製のみ1，敲打器15，小形敲打器5，其の他のもの126点，合計195点，第40図の1～4は，打製石斧，1.2は，Ⅰ－A，3は，Ⅳ－A，4は，Ⅲ－Bに属す。5.7は，横刃形石器で5は，Ⅲ－D，7は，Ⅲ－Bに属す。6は，横刃の石匙，8は，凹石，9は，小形石のみ，緑色岩製で炉内出土，11は，緑色岩の小形敲打器，両先及び横に使用痕あり，12.13は，スクレイパー。

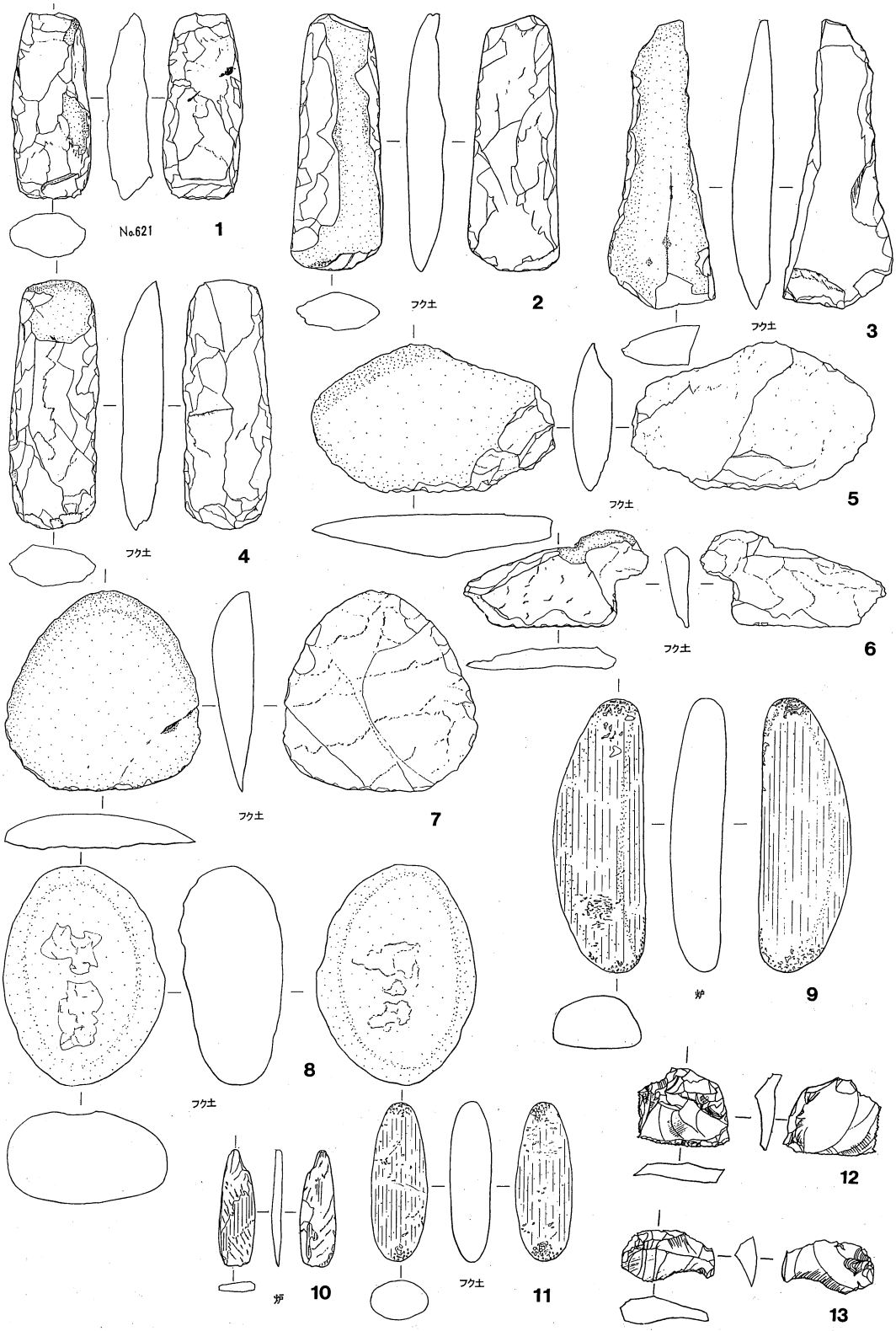


第37図　第５号住居址出土土器実測図(１～５　１：６
６～11　１：３)

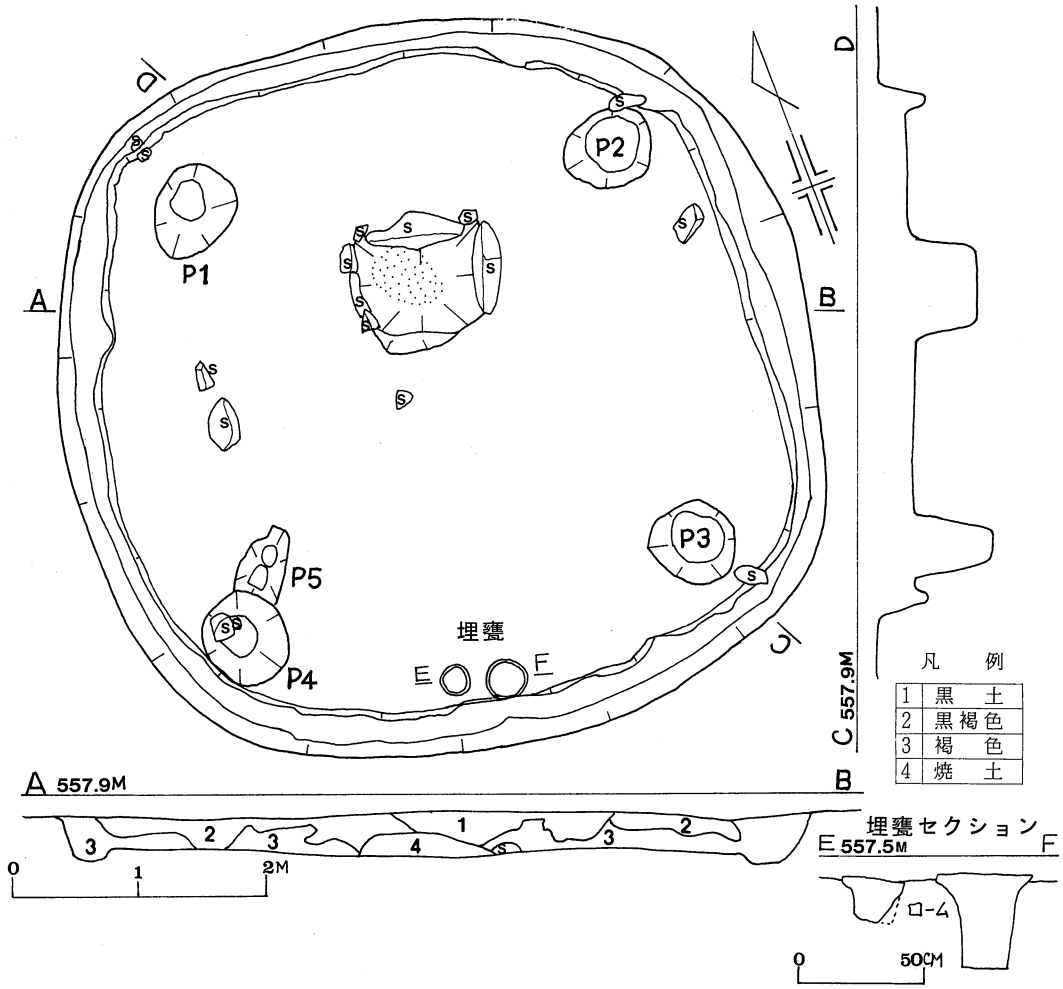


第38図　第５号住居址出土土器拓影（１：３）

第39図　第５号住居址炉内出土土器拓影（１～７　１：３
８　１：４）



第40図　第5号住居址出土石器実測図（1～11　1：3
12，13　1：2）



第41図　第６号住居址実測図

第６号住居址（第41図～第42図）

本住居址は，遺跡の西側の中央より検出されたもので，プランは，ローム層まで掘込んである円に近い隅丸方形の竪穴住居址である。その規模は，南北５ｍ80㎝，東西６ｍを測る。壁は僅かに外傾し壁高は北と西側は20㎝，東と南側は22㎝のものである。壁の直下には周溝が全周している。幅10㎝，深さ10㎝～15㎝の平均である。床面は概ね平で中央の部分が固く叩いて仕上げてあるが壁の近くは，一部軟弱のところも残存している。柱穴は４箇所，等間隔に円形のものが検出された。その直径は50㎝，深さ60㎝の前後のものである。炉は中央より北寄のところに石囲炉が発見された。東西１ｍ20㎝，南北１ｍの長方形をなし，縁石には自然石の80㎝～10㎝大のものを並べて組んである。炉の中心部は摺鉢状に凹ませて作られている。内部はかなりの量の炭化物と灰が充満し，全面に赤く焼土が残っている。南の壁の近くから２個の埋甕が東西に並んで出土した。東側の甕は，口縁部が僅かに欠けて

		出土数
埋甕	完形品	1
	半完形品	1
深鉢	頸　部	1
口　縁　部		43
胴　　部		334
底　　部		23
吊　　手		1
計		404

表34　第6号住居址
土器分類表

				スクレイパー	石錘		打製石斧	横刃形石器	磨製石斧		磨石	高打器	礫器	剥片	フレーク	その他	計
黒曜石				5											10		15
粘板岩												1	2			5	8
砂　岩								1					5			1	7
硬砂岩					2		5	23				7	23	17		1	78
花崗岩											1		6			1	8
片麻岩												1					1
緑泥岩							4	1	3			6	4	4			22
石灰岩													4				4
その他													3				3
計				5	2		9	25	3		1	15	47	21	10	8	146

表35　第6号住居址石器分類表

いるが完形に近く，器高52cm，胴幅24cmで口縁が外反している。文様は地文に縄文を描き，沈線により渦巻と横帯，垂線を描いてある。西側から出土された甕は頸部より口縁部にかけて残っているのみのもので，最大幅26cm，文様は東のものとほぼ同じである。炉の附近中央部の床面上より，頸部から上部の無い小形の深鉢が出土した。これは，横に潰れた，多少，胴の張ったもので，最大幅18cm，文様は埋甕と同じものである。

	A	B	C	計
Ⅰ		2		2
Ⅱ				
Ⅲ		3	1	4
Ⅵ	2			2
計	2	5	1	9

表36　第6号住居址
打製石斧形態別個体数

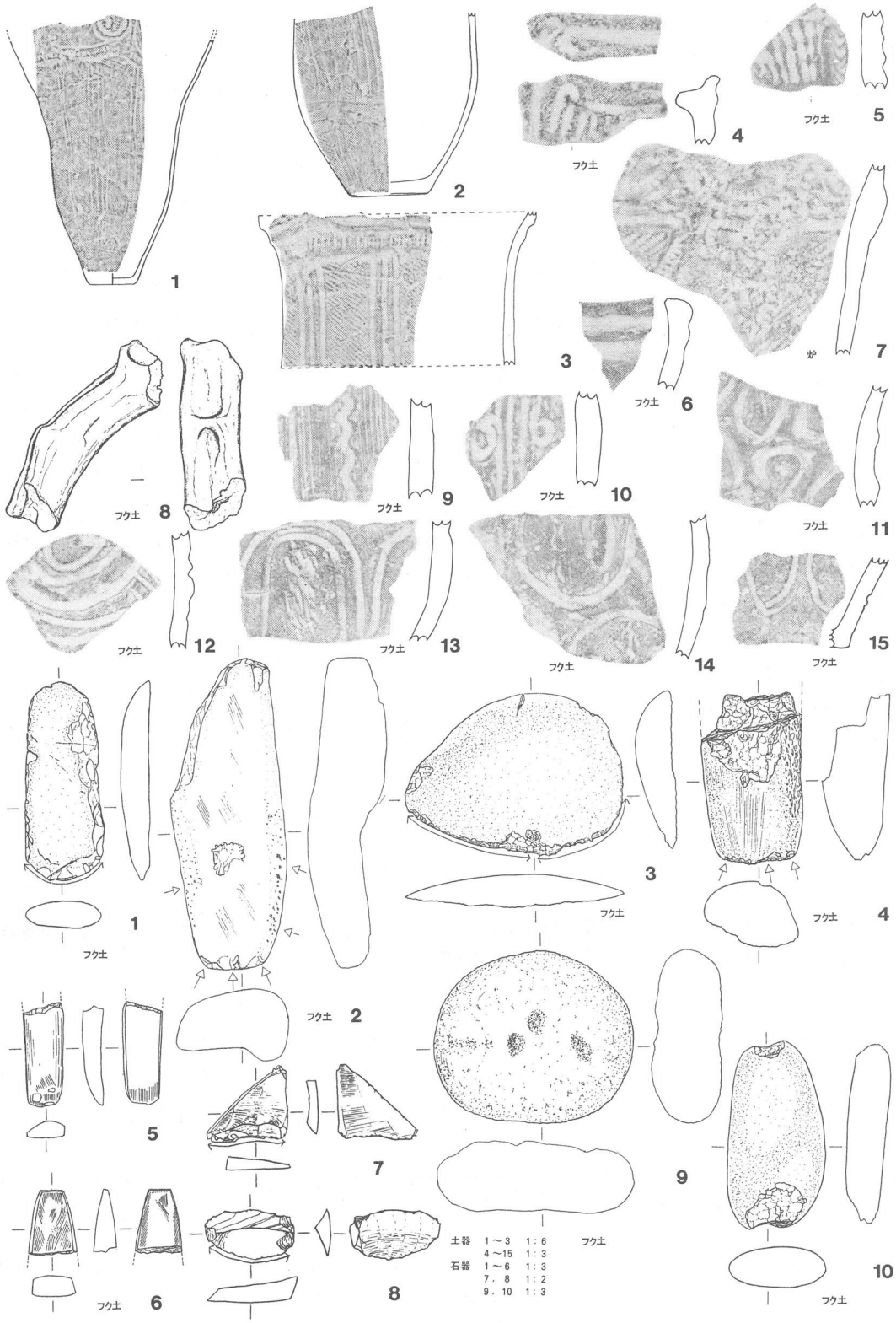
	A	B	C	D	E	計
Ⅰ	5	1				6
Ⅱ	1	6		1		8
Ⅲ	2	7				9
Ⅵ	2	0				2
計	10	14		1		25

表37　第6号住居址横刃形石器形態別個体数

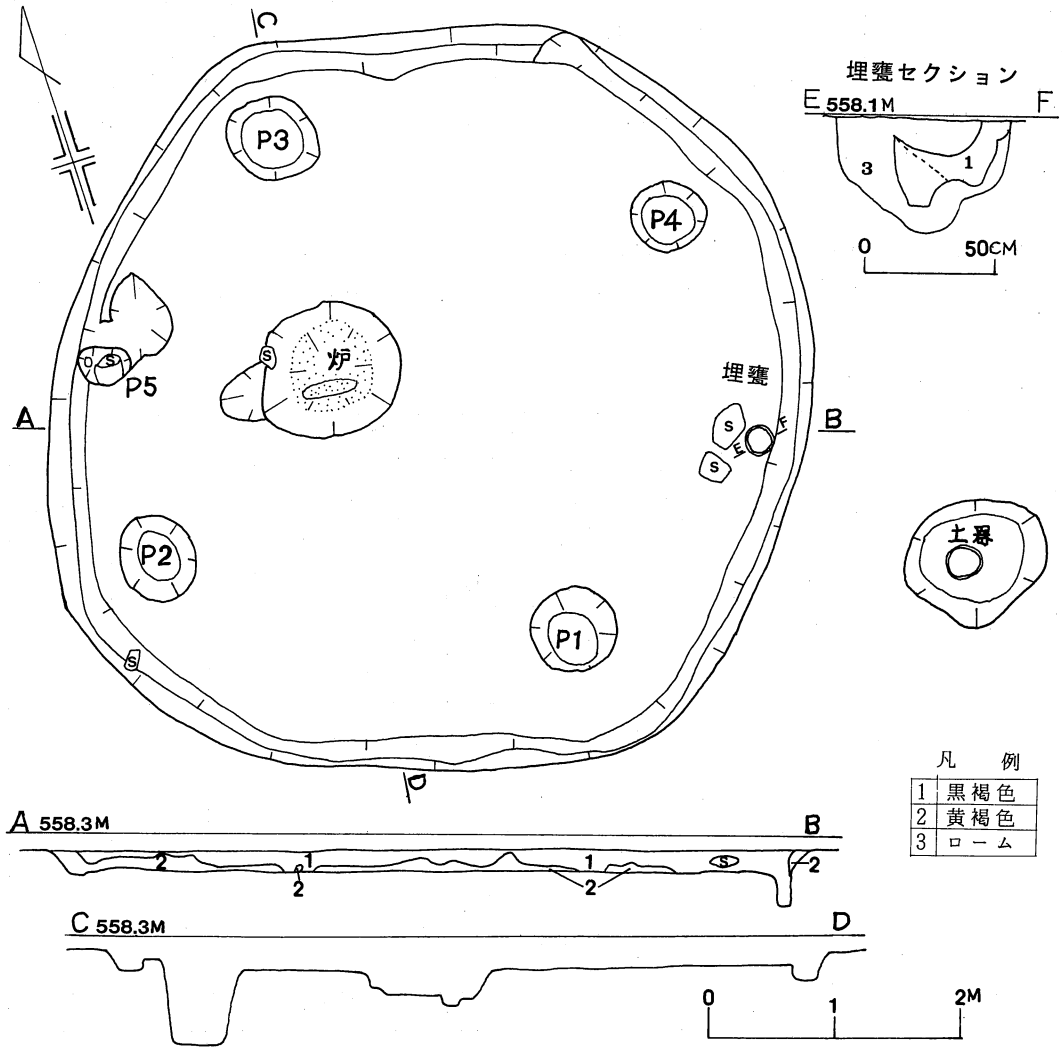
遺物はこの他に，土器片で深鉢，吊手形土器の吊手などで，石器では打製石斧，磨製石斧，横刃，凹石，石錘などである。出土遺物からみて本址は，縄文後期の曽利Ⅱに類似する遺構である。（根津）

No.	出土地点	遺物No.	長さ	幅	厚さ	重さ	使用痕	分　類
1	フク土	—	3.2cm	2.4cm	0.3cm	2.4g	あり	スクレイパー
2	〃	—	3.4	2.0	0.7	4.9	〃	〃
3	〃	—	2.7	1.4	0.4	2.1	〃	〃
4	フク土	—	3.0cm	1.7cm	0.2cm	1.7g	あり	スクレイパー
5	〃	—	2.9	2.2	0.8	5.4	〃	〃

表38　第6号住居址黒旺石分類表



第42図　第６号住居址出土遺物（１：３）



第43図　第７号住居址実測図

第７号住居址（第43図～第44図）

遺構（第43図）

本住居址は遺構のうちでは北西のグループに当る位置にN56～57グリッドとO56～57グリッドの中間地点に発見された遺構である。プランは楕円形を呈し，大きさは6.0×5.85ｍを測るが，ローム層を掘り込むがハードロームまでは達していない。壁面には何の施設も検出することができなかった。床の面は北側が高く南側が低い状態であり，一部埋立てて貼床としてあったため，周溝の確認に手間ど

表39 第7号住居址土器分類表

		出土数
埋甕	半完形品	1
口縁部		19
胴部		146
底部		4
計		170

った。主柱穴はP.1，P.2，P.3，P.4であると考えられ，その規模は楕円形で径51～72cm，深さ59～66cmを測る。炉址は中央やや北寄りに設けられ，石囲炉と考えられるが，炉石1個を残したのみで他は持去られた炉址である。炉内は底部までよく焼土が充満していた。P.1とP.3の中間の壁辺に大きさ25×38cmと24×26cmの平らな自然石に囲まれた状態で埋甕（第44図－5）が発見された。その位置は主軸の方向に近い場所で出入口に当る箇所と思われる。（友野）

遺物（第44図）

1・4は覆土中より発見された土器片で隆帯と隆帯との間に篦先による連続爪形状文が施された土器2はやはり覆土より出土した口縁に摺曲文が施された土器。3は隆帯の下部の区画帯に併行に沈線

表40　第7号住居址石器分類表

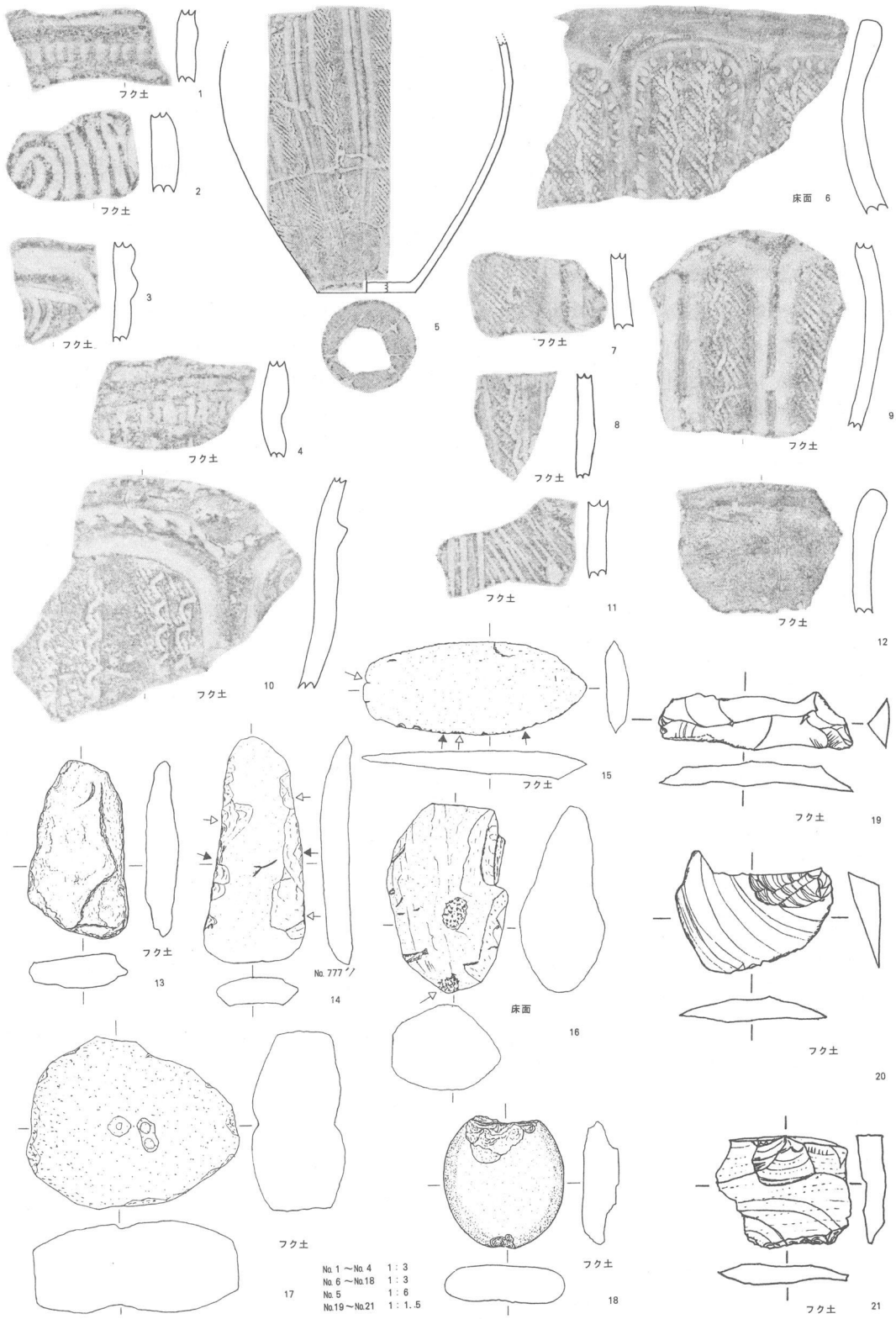
	スクレイパー	ピエス・エスキユ	打製石斧	横刃形石器	敲打器	乳棒状石器	凹石	石錘	磨石	礫	剥片	フレーク					計
黒曜石	5	1										16					22
チャート					1												1
粘板岩			2								2						4
砂岩								1		1							2
硬砂岩			6	15	2	3		1	16	6	8						57
緑色変岩			2								1						3
花崗岩							1			2							3
緑泥岩			1	2	2						4						9
その他						2			4								6
計	5	1	11	17	5	5	1	2	20	9	15	16					107

表41　打製石斧形態別個体数

	A	B	C	計
Ⅰ	1		2	3
Ⅱ			1	1
Ⅲ	1	5※		6
Ⅵ			1	1
計	2	5	4	11

表42　横刃形石器分類表

	A	B	C	D	E	計
Ⅰ	6	3				9
Ⅱ		3				3
Ⅲ	2	3				5
Ⅵ						
計	8	9				17



第44図　第７号住居址出土遺物（１：３）

表43　黒曜石分類

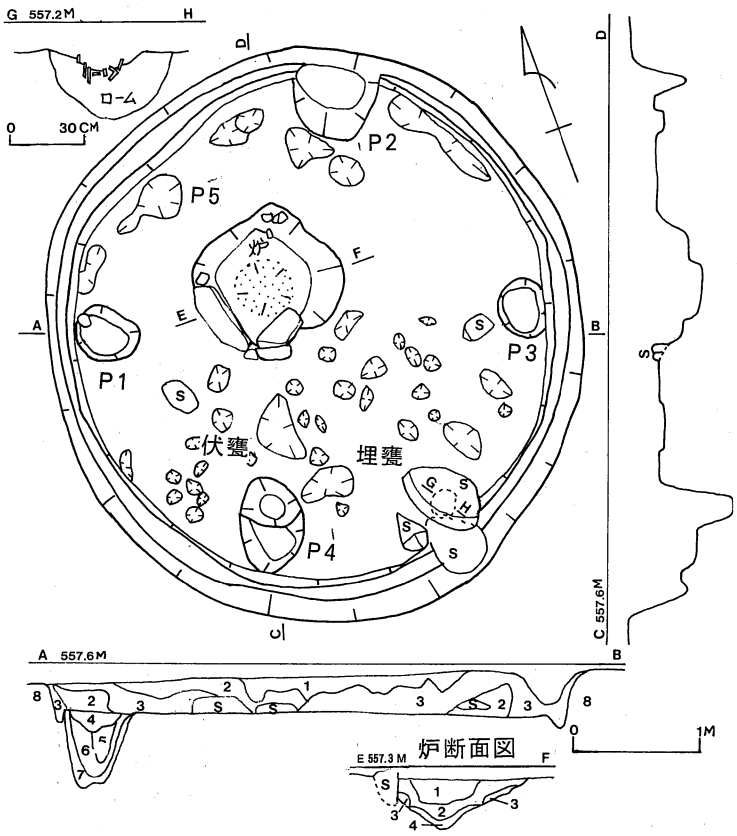
No.	出土地点	遺物No.	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	使用痕	分類	No.	出土地点	遺物No.	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	使用痕	分類
1	フク土	－	3.7	2.3	0.6	5.1	あり	スクレイパー	4	フク土	－	2.1	1.4	0.3	1.0	あり	スクレイパー
2	〃	－	4.6	1.3	0.5	2.4	〃	〃	5	〃	－	2.1	1.6	0.7	2.0	〃	〃
3	〃	－	4.8	1.5	0.5	3.3	〃	〃	6	〃	－	3.2	2.6	0.7	6.3	〃	ピエス・エスキユ

文が施された土器。5は口縁部を欠いた埋甕である。文様は地文が縄文で縦に篦による沈線文を走らせ，縄文帯の右り端に蛇行沈線文が垂下している曽利系の土器である。7・8は5と同系統の土器と思われる。6・9・10は半隆起文と地文が縄文で，それに結節縄文が施された深鉢形土器。11は深鉢形土器の胴部破片で，縦の沈線と綾杉状文が施された土器。12は無文の甕形土器。13は石器分類ＣⅠ，14はＡⅠ，15はＡⅠ，16は敲打器，17は凹石，18は石錘，19・20は黒曜石のスクレイパー。20・21はピエスエスキユ。

第9号住居址（第45図～第46図）

遺構（第45図）

埋甕セクション



凡例	
1	黒土
2	やや薄い黒土
3	褐色土ローム混入
4	暗黒色土（炭化物粒少量混入）
5	黒褐色土（1より黒色が濃い）
6	暗黄褐色土（にごったローム層）
7	黄褐色土（ローム層）
8	ローム層

凡例	
1	黒褐色土（炭化物粒少量混入）
2	暗褐色土（炭化物粒，ローム粒混入）
3	黄褐色土（ローム層）
4	焼土

第45図　第9号住居址実測図

本住居址は今回検出された遺構群のうちでは最も南側に位置しているもので，そのプランは長径4.3～4.5m楕円形をなす住居址である。主軸の方向はN23度Wである。柱穴はP1～P4と考えられ，その規模は40～60cmで形状大方楕円形で，その深さは45～63cmほぼ直穴である。その外に大小のピットがあるが，ごく浅く不整形のものが多かった。したがって，用途は不明である。床面は南側一部にやや軟弱の個所がみうけられたが他は良く踏固ためられていた。周溝は壁に沿って幅5～12cm，深さ4～10cm全体に巡っている。炉址は中央北寄りに位置しその規模は長径1.08×1.05m 縁石大小4個を残し他は抜取られた状態である。炉の内部は底までよく焼けていた。主軸の方向南壁に接して炉縁石かと思われる石を取り去ると，土拡状の穴に埋られたような状態で(第46図1)と別個体と考えられる土器が重なり合った状態で検出された。P4の北側に(第46図2)の伏甕が床面下に逆立した状態で発見された。

(宮下)

遺物（第46図）

1は床面に掘込まれた土拡状のピット内に埋甕の状態で発見された口縁部が復原できない無文で底部穿孔の甕形土器，その内に別個体の土器片沈線の渦巻文土器48片が出土した。 2は底部穿孔高さ14.2cm，口径9.6cmの小形伏甕で，文様は縄文地に縦の蛇行沈線が垂下する曽利系Ⅲ式に比定される土器。 3・4はソメン状粘土紐貼付の口縁部に近い部分の曽利Ⅰ～Ⅱ式に比定される土器。 5は口縁部破片で隆帯の下に篦状器具により連続爪形文が施された土器。 6は口縁部破片，半隆起文の区画に縄文の地文に沈線の渦巻とを施文した深鉢形土器。 7は抽象的な沈線文の深鉢形土器。8・9・10・11は無文をもつ深鉢形土器，文様は無文帯をもち隆帯で区画した内を篦状器の先で併行沈線を描いた土器。12はつばに穴をあけた甕形土器の破片。13は土器の破片を利用して作った小円盤。14は台付のミニチァ土器で器面に刷目文が施されている。15は深鉢形土器の底部，16は硬砂岩のAⅣ型石器。17は(746)AⅠ型石器，18は内湾する背をもつAⅣ型石器。19は黒曜石製スクレイパー，20は黒曜石のピエスエスキユー。その他の石器，石核6個黒曜石，乳棒状石器2緑色変岩，磨石6，硬砂岩，剥片17，硬砂岩，砂岩5，緑色変岩3。

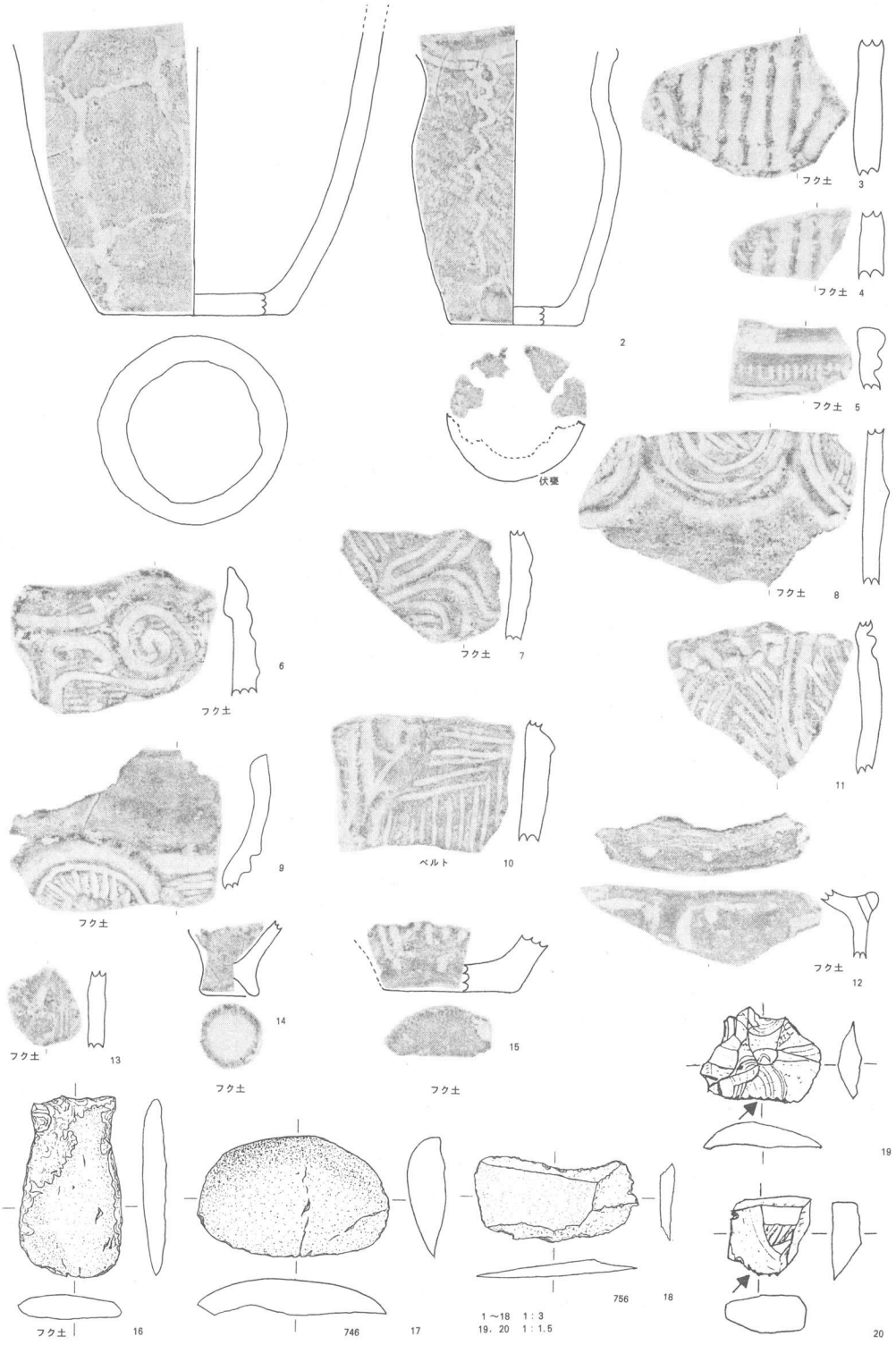
土器破片曽利Ⅱ～Ⅲ式に比定されるもの165個，底部破片4個。

表44　第9号住居址　土器分類表

		出土数
深鉢	半完形品	1
伏甕	完形品	1
ミニチュア台付土器		1
口縁部		28
胴部		212
底部		5
土器片円版		1
計		249

表45　第9号住居址　石器分類表

	スクレイパー	ピエス・エスキユ	打製石斧	横刃形石器	磨製石斧	乳棒状石器	磨石	フレーク	礫	剥片							計
黒曜石	4	1						7									12
チャート																	
粘板岩							1			1							2
砂岩										4							4
硬砂岩			3	14		1	7			14							39
緑色片岩					1					1							2
花崗岩																	
緑泥岩				1		1				2							4
片麻岩									1								1
その他										2							2
計	4	1	3	15	1	2	8	7	1	24							66



第46図　第９号住居址出土遺物（１：３）

表46　第９号住居址　石斧形態別個体数

	A	B	C	計
Ⅰ				
Ⅱ		2		2
Ⅲ				
Ⅳ	1			1
計	1	2		3

表47　第９号住居址　横刃形石器形態別個体数

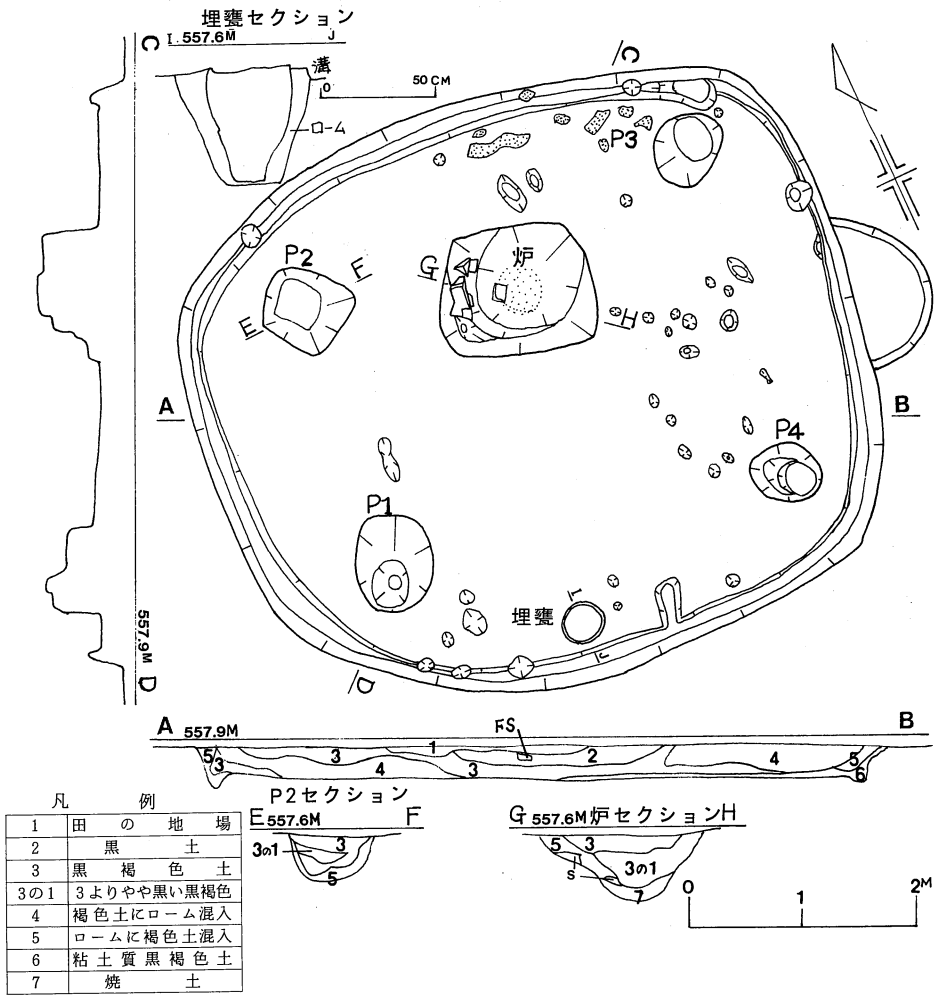
	A	B	C	D	E	計
Ⅰ	1	2				3
Ⅱ	1	1				2
Ⅲ	4	3	2			9
Ⅳ	1					1
計	7	6	2			15

表48　第９号住居址黒曜石分類表

No.	出土地点	遺物No.	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	使用痕	分類
1	床	750	3.0.	2.2	0.5	2.6	あり	スクレイパー
2	〃	751	2.9	2.5	0.3	2.4	〃	〃
3	〃	752	3.8	2.3	0.7	5.5	〃	〃
4	—	フク土	2.3	1.9	0.3	1.7	〃	〃
5	—	フク土	1.8	1.7	0.8	2.9	〃	ピエスエスキユ

第10号住居址（第47図～第49図）

遺構（第47図）



凡例

1	田の地場
2	黒土
3	黒褐色土
3の1	3よりやや黒い黒褐色
4	褐色土にローム混入
5	ロームに褐色土混入
6	粘土質黒褐色土
7	焼土

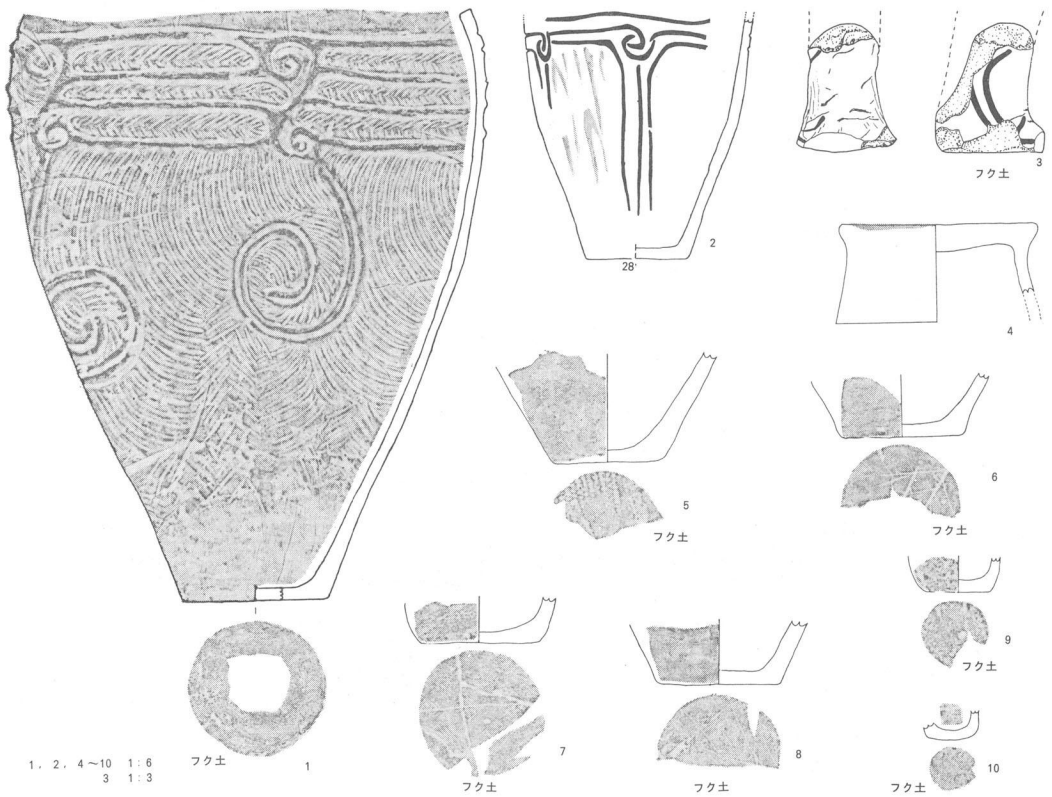
第47図　第10号住居址実測図

本址は，ＬＭ－57，58グリット内に検出された。遺構の直上に水田の地場が設けられ，地場土の層の中にも遺物が散在し，最初は，プランの確認に困難であった。覆土中，上部に遺物が多く，下半分から床面に近づくに従って減少の傾向を示した。

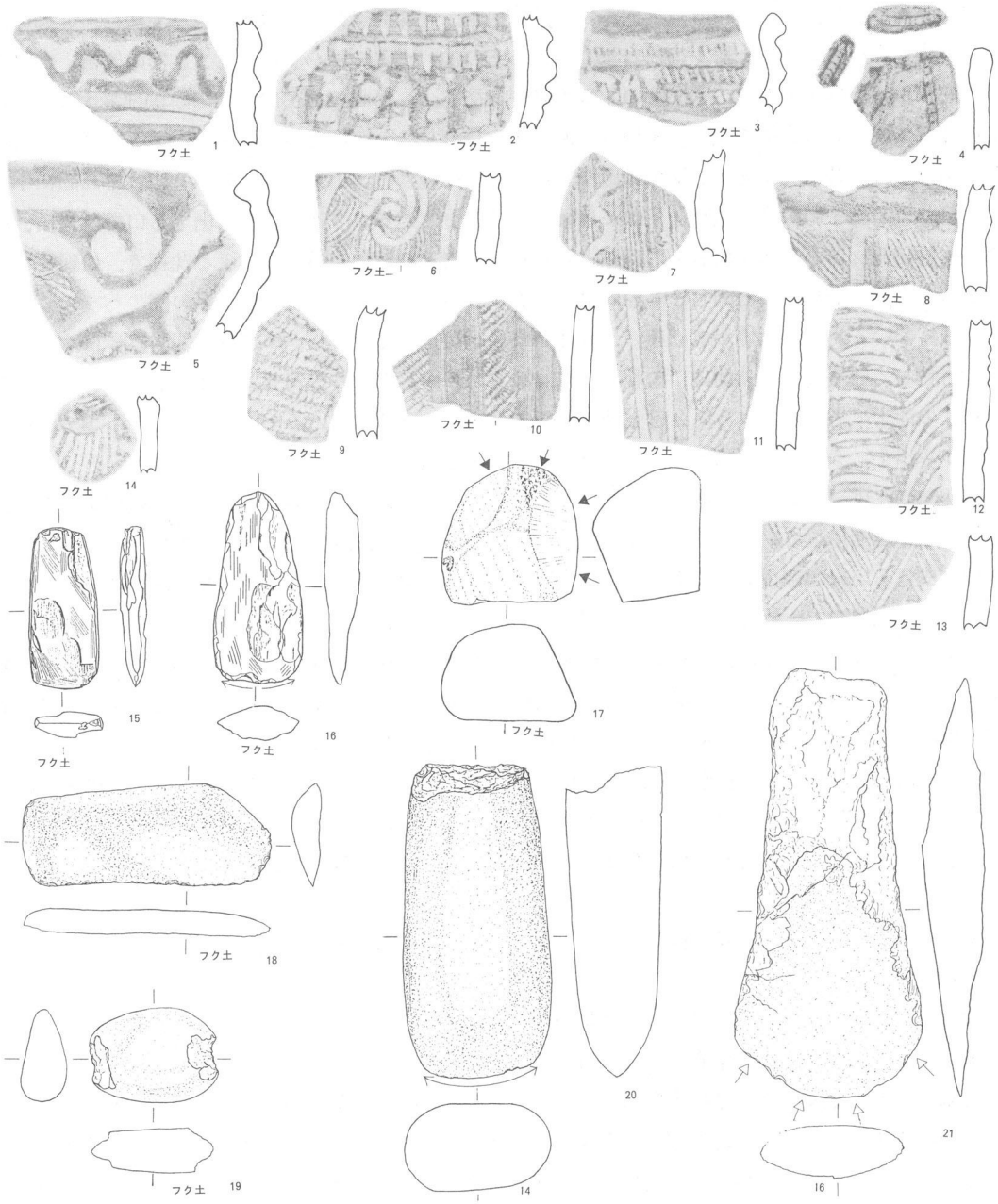
平面プランは，長軸 5.9 m，短軸 5.22 m を測る規模の隅丸長方形を呈する。主軸方位は，N－13°－E を示す。壁高は20㎝～32㎝で，やや急な立上りになっていた。周溝は幅約15㎝前後で，深さ約５～15㎝を測定する。主柱穴は，４個検出され，P1，P2，P3，P4である。P1は80×66－40㎝，P2は68×68－46㎝，P3は65×60－47㎝，P6は60×52－45㎝を測り何れも大形なもので，底はほぼ平らで堅く，４個の柱は，中心に向ってやや内向きの傾向になっていた。又P1，P3，P4は，プランが不整形の円形であるのに対し，Ｐ２は四角形に掘り下げてある。

床面は，平らで堅く踏み固められ良好であった。北側の壁近くに焼土の固りが８ケ所程存在し，床面に堅くついているものと，浮き上ったものがあった。床面東寄りには，小穴の一群があり，15×15－10㎝のもの３個，７×７－９㎝前後のもの15個あり，その配置がほぼ四角形をなし，内部施設ではないかと思われる。東側中央壁外に，90×70－11㎝を測る半円形状のピットが検出されたが，柵式のものであろうか。

床面には，復元可能な深鉢形土器と器台が出土し，鉢は箆描沈線文が施されてある。埋甕は，南側中央周溝すれすれに正位の状態で埋設され，底は穿孔され，全く完形で出土，甕の中約10㎝下ったと



第48図　第10号住居址土器実測（１：３）



第49図　第10号住居址出土遺物（1：3）

ころから打製石斧1個が検出された。

炉は，110×63－60cmを測る規模で，ほぼ長方形のプランを呈する。底は据鉢状をなし焼土が多量に検出された。石組は抜き取られ，小さなもの3個程残存したが竪穴式石囲り炉であると思われる。

（小木曽）

遺物（第48図～第49図）

出土土器片の総数は，1,067点で内，口縁部100点，底部25点あり。復元された土器は，3個体あり，埋甕1，小形深鉢形土器1は器台1である。その他，土偶の脚，ミニチュア土器の底部，台付土器の底部2は土盤等である。第48図の1は埋甕で口径36㎝，器高47㎝底部11.7㎝，胴部最大径39.3㎝で口頸部に逆S形の文様を施し，不均等であるが7分割しその間に隆帯による楕円区画文を三重に施し，中に横位の綾杉文を配す。胴部は唐草文が6分割に施され，相対するものが2組，その間に1個づつ施しその間を斜線文で埋め，下部には綾杉文を施してある。2は，床面に出土し口縁部欠損，胴部の径約18㎝，器高19㎝を測る小形深鉢と思われる。無文の地に箆描用具による沈線で，口頸部に小さな唐草文様を描き，6分割し3本の懸垂文を施す。器面には，ヘラ撫で仕上げの際のヘラの跡が線状に残っている。土器全体が焼け赤い，表面より裏面が荒れてザラザラになり中間当りにはオコゲが黒く付着している。1の時期は，曽利Ⅱ式に比定されるが，2は，曽利Ⅱ式の要素も含まれるが，曽利Ⅲ式の前半に考えられよう。3は土偶の脚部で，粗製で摩耗している。4は，器台で下半分欠損で床面から出土。5～9は底部で無文，10はミニチュア土器の底部。

第49図の1は平行隆帯の間に粘土紐を横位に蛇行状に施し，2は，横の連続爪形状刺突文を施し，その下は，箆描用具で縦に連続押引文が施されている。3は，口縁部で口縁が直線になっているのは，咲畑式に見る口縁が四角形を呈するものと思われる。口頸部から三段に連続刺突文が横に施されている。2は波状口縁で，竹管による連続押引文が施されている。以上4点は，曽利Ⅱ式に比定されよう。5・8～11は縄文を主体に，渦巻文，箆描沈線文が施され，6は渦巻文に竹管による平行沈線文を施す。7は地文に箆描用具による縦の平行線文を施し，蛇行懸垂文を配す。12・13は綾杉文，14は土盤で，沈線文を施す。本址は曽利Ⅱ式～Ⅲ式の要素をもつものと思われる。

石器は，228点出土し，打製石斧23点，横刃形石器30点，石錘6点，小形石斧2点，その他は敲打器，剥片等である。第49図の15は，小形半磨製石斧，石質は緑泥岩，16は小形打製石斧，緑色片岩17は，敲打器，18は横刃形石器，19は石錘，20は磨製石斧　21は打製石斧。

第11号住居址（第50図～第52図）

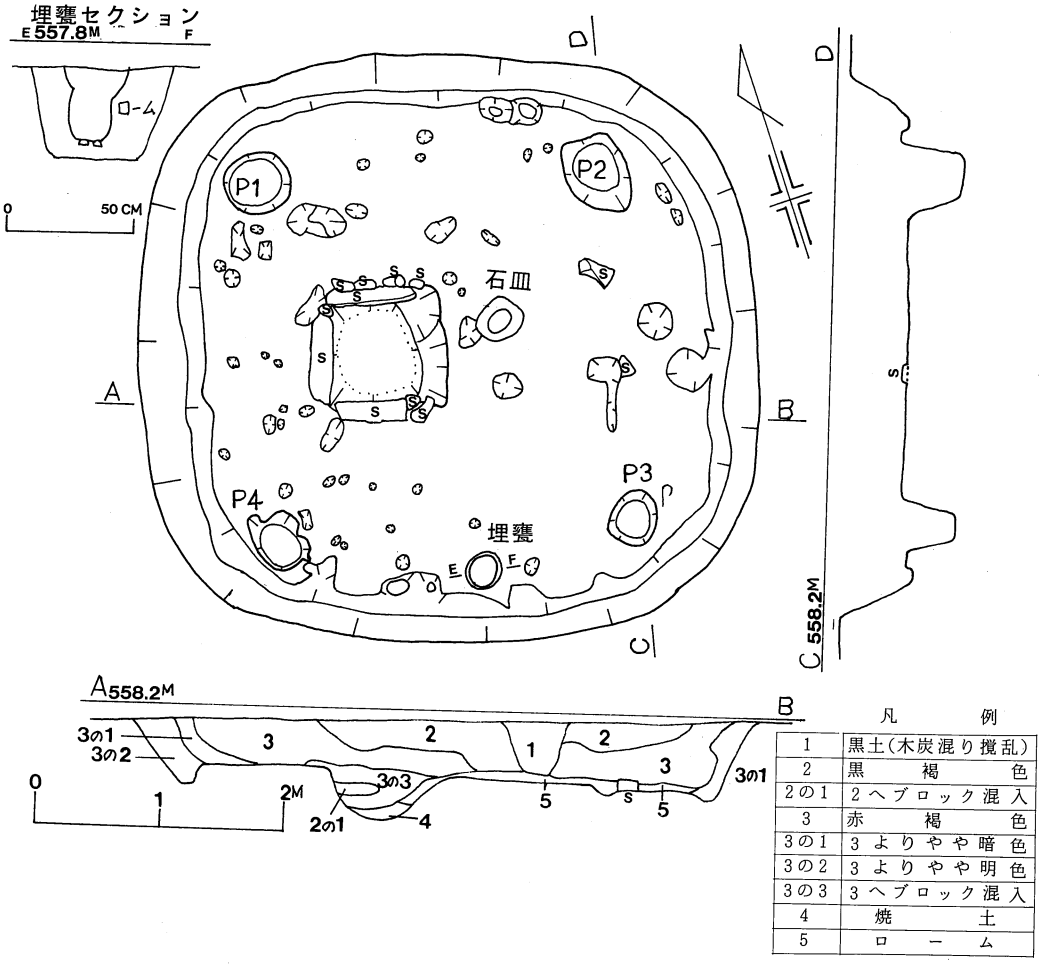
遺構（第50図）

本住居址は遺跡内では北西のグループに属し，近くに第7号住居が隣接している。発見された計測点的位置はP29グリッドを中心にしている。その規模は長径5.0,短径4.7ｍ深さ38～50㎝を測り，プランは隅丸方形を呈する。主軸の方向はN75度30分Eの向である。掘り込みはローム層より5㎝程上部漸移層からでハードローム迄は達していない。周溝は壁に沿って巡り幅12～19㎝深さ8～19㎝を測る。

床面は全般的に良好である。柱穴はP1～P4と考えられその大きさは37～68㎝，深さ45～48㎝とわりあいに一定した深さをたもっている。炉址は中央西寄りに検出された。その規模は長径1.1短径1.07㎝底は摺鉢状で，内部には焼土が充満していた。炉石は南・西・北が完全な形で残ったが，東側の炉石が抜かれた形である。P3,P4との中間壁に接して床面下に埋甕（第51図）が発見された。（横田）

遺物（第51図～第52図）

1は口縁部が内側に湾曲するキャリパー状を呈し口縁にやや退化した渦巻文施され，頸部以下は地文が縄文で，曽利Ⅲ式にみられる沈線のH状文が施された深鉢形土器（埋甕）2は深鉢形土器の頸部



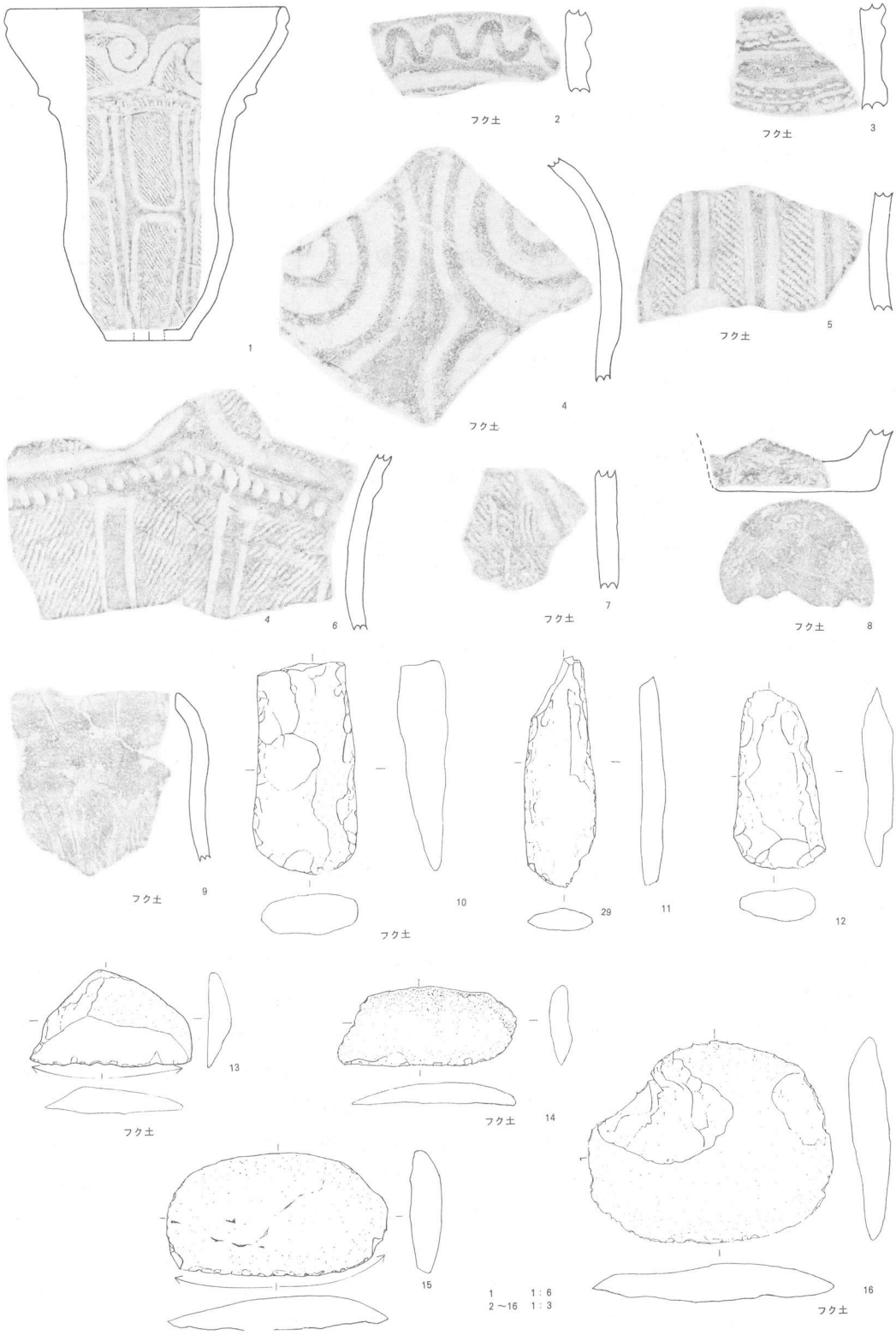
第50図　第11号住居址実測図

表49　第11号住居址
土器分類表

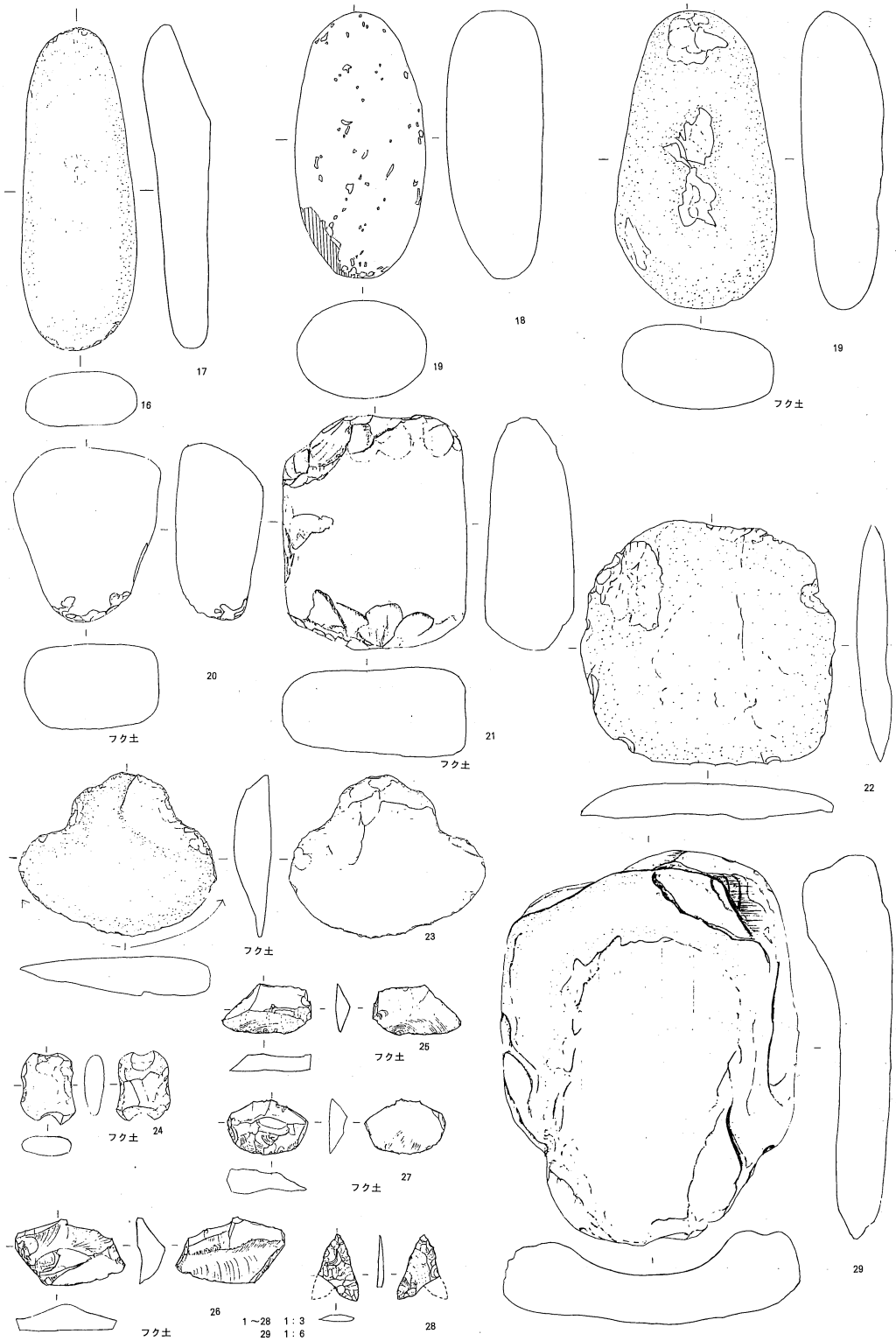
		出土数
埋甕	完形品	1
口縁部		31
胴部		154
底部		6
計		192

部と考えられる土器片，粘土紐を横位に貼りつけた曽利Ⅱ式によく見受けられる土器。3は隆線に2列の併行刺突文が施された深鉢形土器。4は口縁が内湾するキャリパ状の深鉢で，半隆線の大柄の渦巻文が施された土器。5は地文が縄文でへら状器具による併行波線が施された深鉢形土器。6は地文が縄文で頸部に連続刺突文をめぐらし，へら状器具による磨消した箇所に2条の沈線文を施したキャリパ形の深鉢形土器。7は地文が縄文で，それに結節縄文が施された深鉢形土器。8は無文の底部。9は無文の深鉢形土器の口縁部。

10，11，12は打製石斧。13，14，15，16は硬砂岩の横刃形石器。17，18は乳棒状の敲打器。19は凹石。20，21は抉入円形石器。23は有背状石器。24は硬砂岩の石錘。25，26，27はスクレイパー，28は黒曜石の石鏃。29は石皿。



第51図　第11号住居址出土遺物（1：3）



第52図　第11号住居址出土遺物（1：3）

表50　第11号住居址石器分類表

	石鏃	スクレイパー	打製石斧	横刃形石斧	敲打器	乳棒状石器	石錘	有肩扇状石器	石槍状石器	粗製ドリル	凹石	石皿	磨石	フレーク	礫	剥片	計
黒曜石	1	7												12			20
チャート															1		1
粘板岩					1	1										2	4
砂岩											1	1					2
硬砂岩			4	13	10	1	1	1		1			8		5	2	46
緑色片岩									1								1
花崗岩					4												4
緑泥岩			1	1	5	1							3			1	12
緑色岩						1							1				2
	1	7	5	14	20	4	1	1	1	1	1	1	12	12	6	5	92

表51　打製石斧形態別個体数

	A	B	C	計
Ⅰ	1	1※	1	3
Ⅱ				
Ⅲ		1		1
Ⅳ			1※	1
計	1	2	2	5

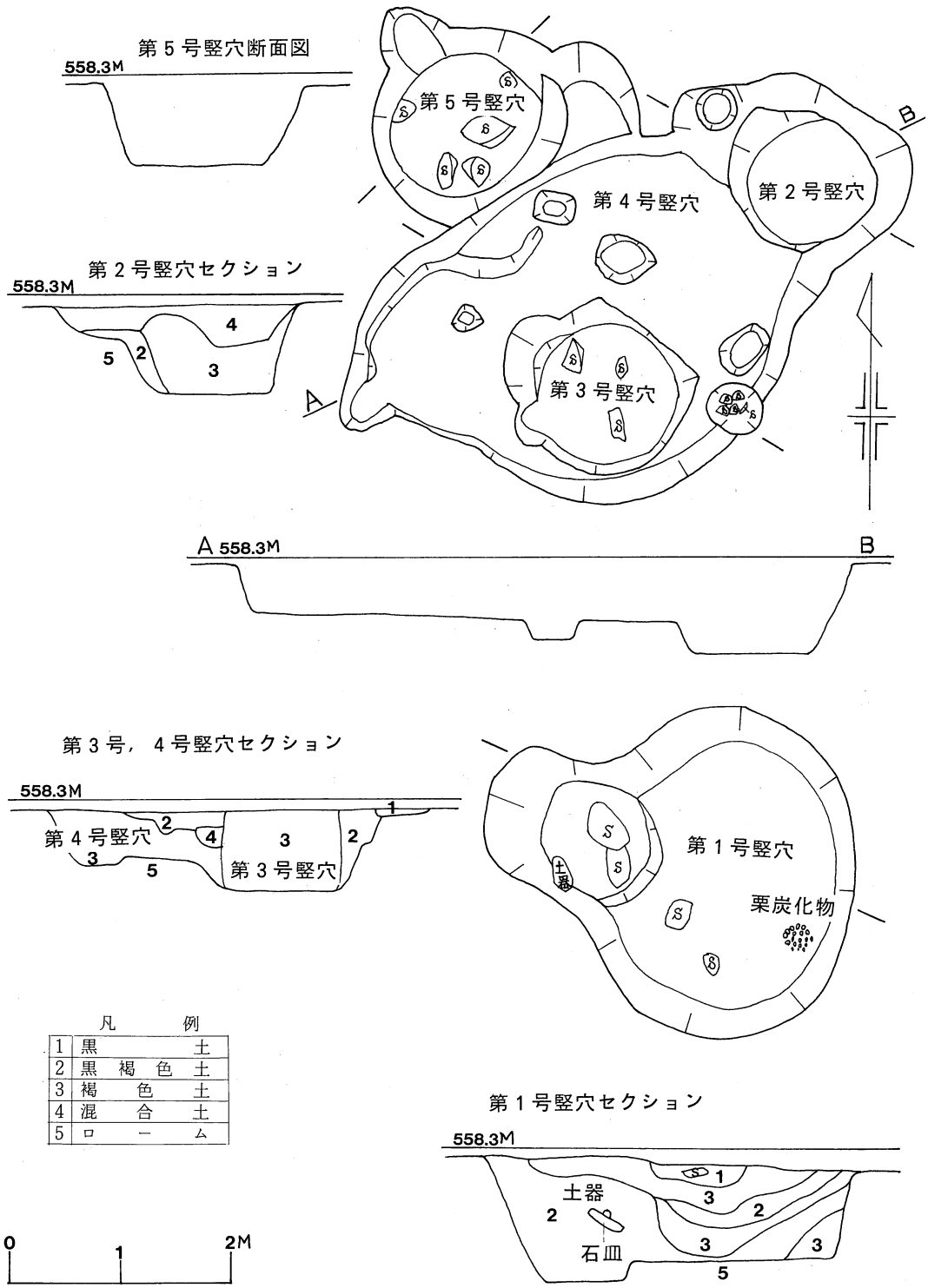
※折れ

表52　第11号住居址横刃形石斧形態別個体数

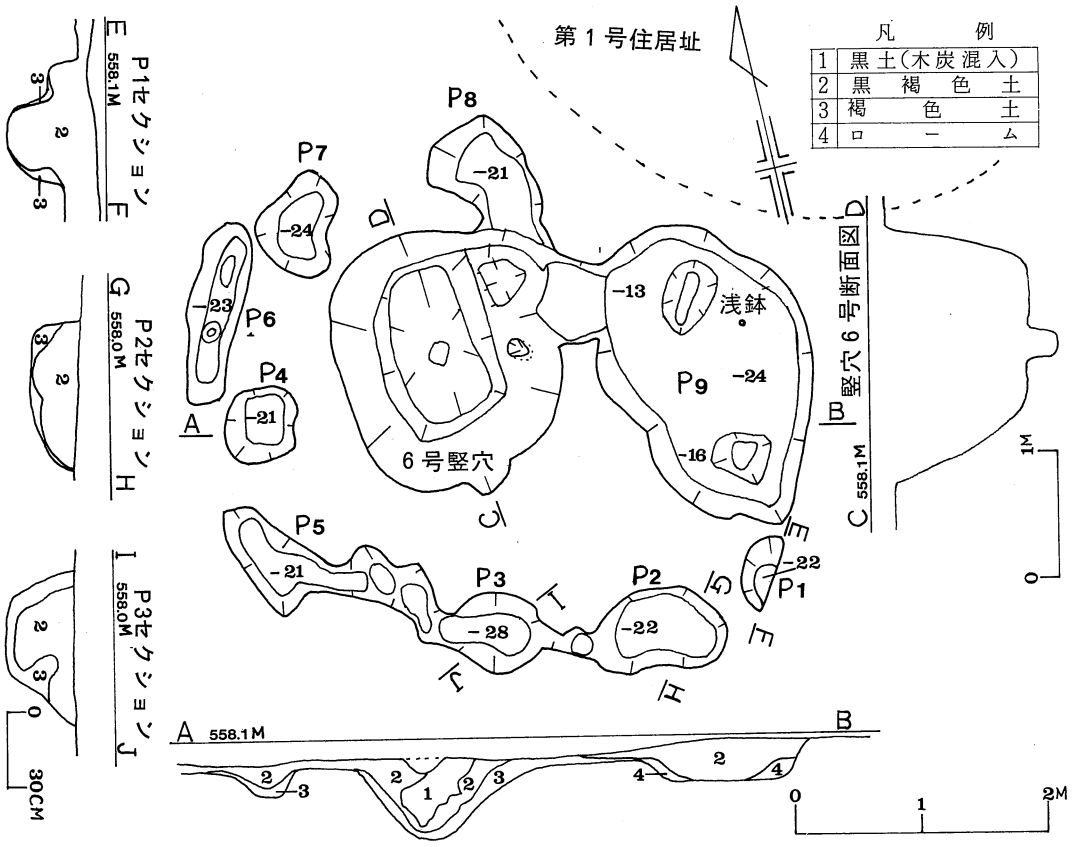
	A	B	C	D	E	計
Ⅰ	2	2				4
Ⅱ	5	2				7
Ⅲ		1	1			2
Ⅳ	1					1
計	8	5	1			14

表53　第11号住居址黒曜石分類表

No.	出土地点	遺物No.	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	使用痕	分類
1	フク土	－	3.2	1.7	0.3	1.3	あり	石鏃
2	〃	－	3.7	2.6	1.0	7.6	〃	スクレイパー
3	〃	－	4.2	2.2	0.7	5.5	〃	〃
4	床	20	3.7	1.9	1.1	5.8	〃	〃
5	フク土	－	3.3	1.9	0.7	3.9	あり	スクレイパー
6	床	20	3.5	1.7	0.5	2.4	〃	〃
7	〃	21	2.7	1.2	0.3	1.5	〃	〃
8	フク土	－	5.2	3.0	1.4	15.3	〃	〃



第53図　第1，2，3，4，5号竪穴実測図



第54図　第６号竪穴及び附近の実測図

第１号竪穴（図53）

本竪穴は遺跡の東縁に検出された，竪穴群の一つで，北側には，２・３・４・５号竪穴が，近接し西南には２・３・４・５号土拡が接し，東は溝状遺構がある。本址は大小２つの竪穴が一部で重なり遺構と成っている。大小共に円形で，西側の小さい方がこぶ状に重なっている，規模は概ね南北３ｍ，東西３ｍ50㎝，深さ１ｍを測る。壁は西側は外傾があり東は垂直に近い角度である。床面は平で固く仕上っており，中心から西側の小竪穴床面が一段と低く20㎝ほど段付状になっていて２ツの竪穴の中で火を焚したように焼土が３ケ所厚く残存していてその附近より30㎝～20㎝大の自然石が３個置かれてある。小竪穴の南壁に接して深鉢の頸部だけの26㎝大のものが壊れて出土した。遺物は土器の外に使い古して底部に穴のあいた砂岩製の石皿が出土して，中心より東寄り焼土の附近より山栗の炭化したもの64個がほぼ集中して出土した。そのほか土器片多数と石器類は敲打器，横刃，打石斧等数多く出土した。本竪穴は縄文後期，曽利のⅡの遺構と思われる。　（根津）

第２号竪穴（図53）

本竪穴は遺跡の東縁の竪穴群の一つで，４号竪穴の北側に掘込んである。円形で経は１ｍ60㎝，深さ85㎝を測る，壁は南を除き他はかなり外反する，西側は三重の構造になり外壁には30㎝大のピット

が掘られている。出土遺物は，深鉢の土器片と打石斧が出土した，これらの遺物よりみて本址は縄文中期後葉，曽利Ⅱの時期に該当するものと思われる。（根津）

第３号竪穴（図53）

本竪穴は遺跡の東縁に検出された４号竪穴の南側をローム層まで掘込んだ円形の竪穴で，経１ｍ50㎝，深さ45㎝を概ね測る。床面は軟く凸凹がある又床面上には，３個の自然石30㎝大のものが等間隔に据えてある。用途は不明である出土遺物は，打石斧，土器等が小量出土した，これらの遺物をみて本址は縄文の中期後葉，曽利Ⅱに該当する時期のものと思われる。（根津）

第４号竪穴（図53）

本竪穴は，遺跡の東縁に検出された竪穴群の中の一つで，北側は２号竪穴に掘られ南側は３号竪穴が重なるように掘込んでいる。不整円形で南北中心で５ｍ，東西３ｍ，深さ平均で50㎝を測る，壁は少し外傾している，床面は軟く小砂利混りである。南西の隅に僅かに周構が残っていて本址の中央部に３箇所柱穴を検出した。本址と関連性があるかは不明である。出土遺物は打石斧７個，深鉢の土器片小量を出土した，本址は出土遺物よりみて縄文中期後葉，曽利Ⅱに該当の遺構と思われる。（根津）

第５号竪穴（図53）

本址は遺跡の東縁に検出された一群の一つで，ローム層内に掘込んだ円形のものである。東側には４号竪穴が接して北は１号土拡と切合っている。西側は経50㎝大のピットが一部切っている。大きさは経１ｍ20㎝，深さ77㎝を測る。壁は僅かに外傾している床面は平で軟弱である，床面上には焼土中心部にあり40㎝～10㎝大の自然石が出土した。使用目的は不明である。出土遺物は小形の敲打器，横刃形石器，壊れた打石斧と磨石斧と土器片が，覆土と，床面上より出土している。これらの遺物よりみて，本竪穴はほかの一群と同様縄文中期後葉の曽利Ⅱの時期の遺構と考えられる。（根津）

第６号竪穴（図54）

遺構（第54図）

本址は，第１号住居址南，Ｌ－53，54グリット内に検出された。水田の地場が遺構の上に設けられていた為，周囲はある程度の破壊も考えられる。平面プランは，長軸約２ｍ，短軸約1.7ｍ，深さ約１ｍを測るやや隅丸長方形を呈し，底は長軸1.2ｍ，短軸約0.6ｍのほぼ長方形を呈する。壁は上半分までは，なだらかな傾斜になっているが，下半分は，急で垂直に近い立ち上りになっている。壁面は上部がやや軟か気味であるが，下半分は堅くなっていた。東壁中央の床面から55㎝あがった処に，縦15㎝，横10㎝，奥行18㎝の横に長い穴が検出されたが，丁度竪穴に出入りするに恰好な足掛けにも考えられる。床面は，ロームで堅く踏み固められ，おおむね平らになっていた。床面のほぼ中央に，19×20－22㎝の柱穴を思わせる円筒状のピットを検出した。壁及び底は堅くなっていた。（小木曽）

遺物（第55図）

本址の遺物は，主として覆土の上部にあたる木炭混りの黒土層及び黒褐色土層から出土し，33点を数えるのみだったが，３～４片を除いては，著しく摩耗していたことから，流れ込み遺物と考えられ

る。床面からはただ1片口縁部無文土器片が検出されたが，時期は不明である。その他の土器片は結節縄文を施したもの，連続爪形状刺尖文，懸垂文，縄文，綾杉文，無文土器等で，これらの出土遺物の範囲から時期決定をすれば，曽利Ⅱ～Ⅲ式に比定されるのでその時期は更に上るものと思われる。

又2片ではあるが覆土最上部から削痕を有す無文土器片が検出されたが，後述する浅鉢の一部であろう。

石器は，横刃形石器9，敲打器2，小形敲打器1，黒曜石の剥片8，その他円礫等24点が出土した。

その他の遺構，時間的制約により充分な精査が出来ず終ったが，6号竪穴を取りまく一連のピット群を水田の竪い地場下約10㎝に検出した。P1～P9がそれである。形態はそれぞれ異っているが，P2 P3, P5の如く連りを見せているものもある。深さは21～28㎝を測り，その規模は，長軸約5.5 m，短軸約4.2㎝のほぼ楕円形のプランを呈するものと思われる。

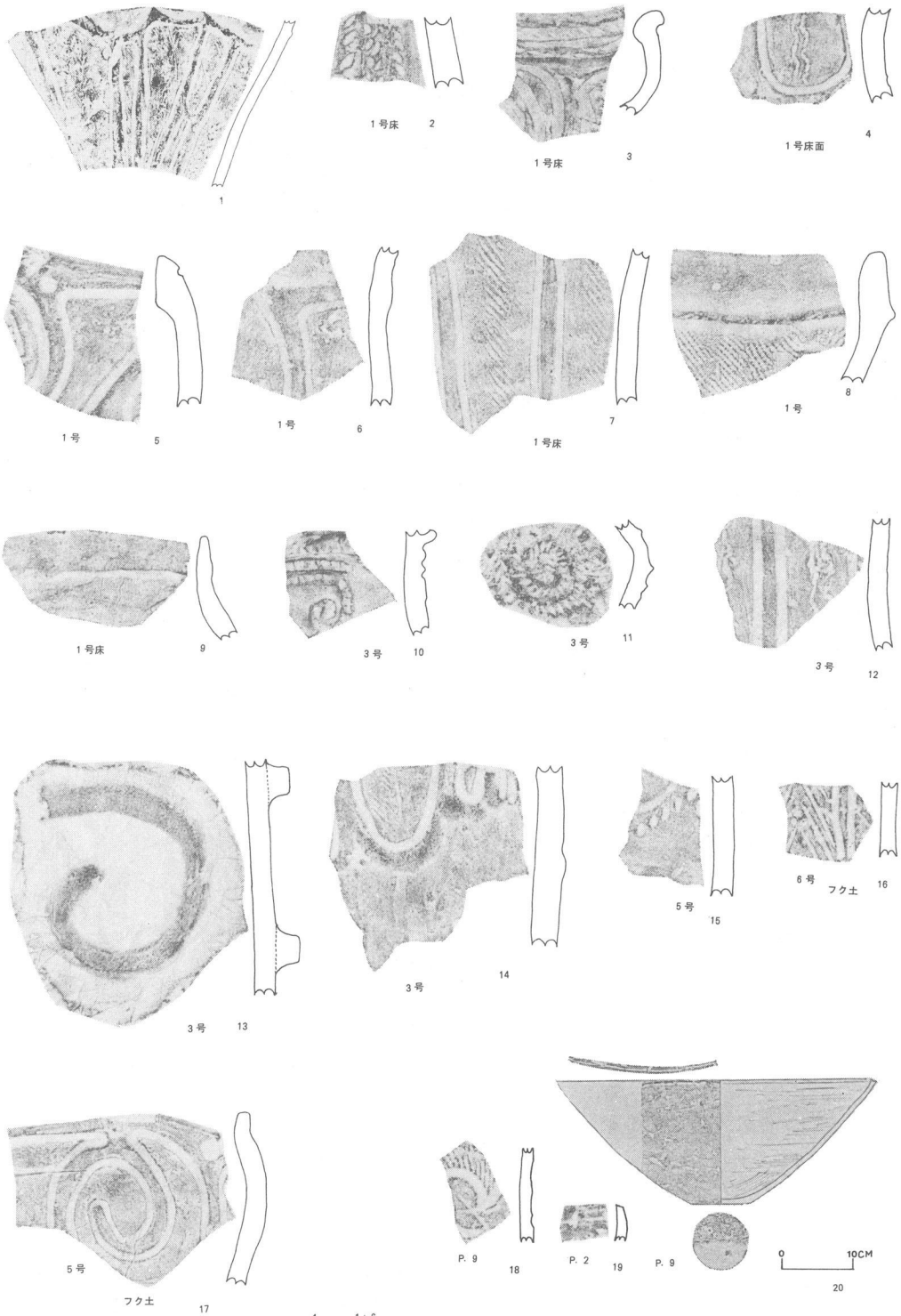
土器は，少量であるが，P2からは薄手の無文の口縁部が出土し，縄文後期前半のものと思われる(第55図№19)，P4からは，縄文中期と思われる細かい沈線文の土器が出土，P8からは，無文の口縁部，縄文を施したもので，縄文中期のものと思われる。P9からは，浅鉢の約4分の1個体程が上向きの状態で出土，口径45.3㎝，器高17.5㎝，底部8㎝で口縁には沈線文が巡っており，器面は荒く横位に擦痕がある。内面はヘラ磨きされ焼成も良好で黒磨きされたと思われる箇所もある。加曽利B式に比定されよう（第55図№20）又同ピット内から縄文後期前半と思われるものが2片出土しており第55図№18の拓影の擦消縄文土器と，無文の土器片である。その他縄文中期と思われる土器片2が出土した。

以上2つの遺構について概略を述べてきたが，6号竪穴と一連のピット群との関係については調査の段階では，未だ解明されていないのでここに2～3の問題点を提起し，分析すれば，その1は，縄文後期後半の加曽利B式浅鉢を中心に考えた場合，縄文後期に属する遺物は5号住居址覆土中に僅か2～3点検出されたのみで，本遺跡調査の範囲では検出されなかったが，P2からは縄文後期前半のもの1点を，竪穴からは縄文後期後半のもの3点を検出し，P9からは同じく前半のもの2点，後半のもの1点と浅鉢が出土した中で，P9は単独遺構として考えるべきか，否か。

その2は竪穴をとりまくピット群は，竪穴にある主柱穴を主軸とした建築上の母屋的な存在を示すものであれば，竪穴と一連のピットは一体のものであると考えられる。

その3は既存の住居址を開田とかその他の関係で，住居址の上部が破壊され，ピットと僅かの遺物が残存したものと考えると，1の場合とは反対に複数的関連をもち決め手はないにしても，浅鉢を伴う遺構であるように考えられる。

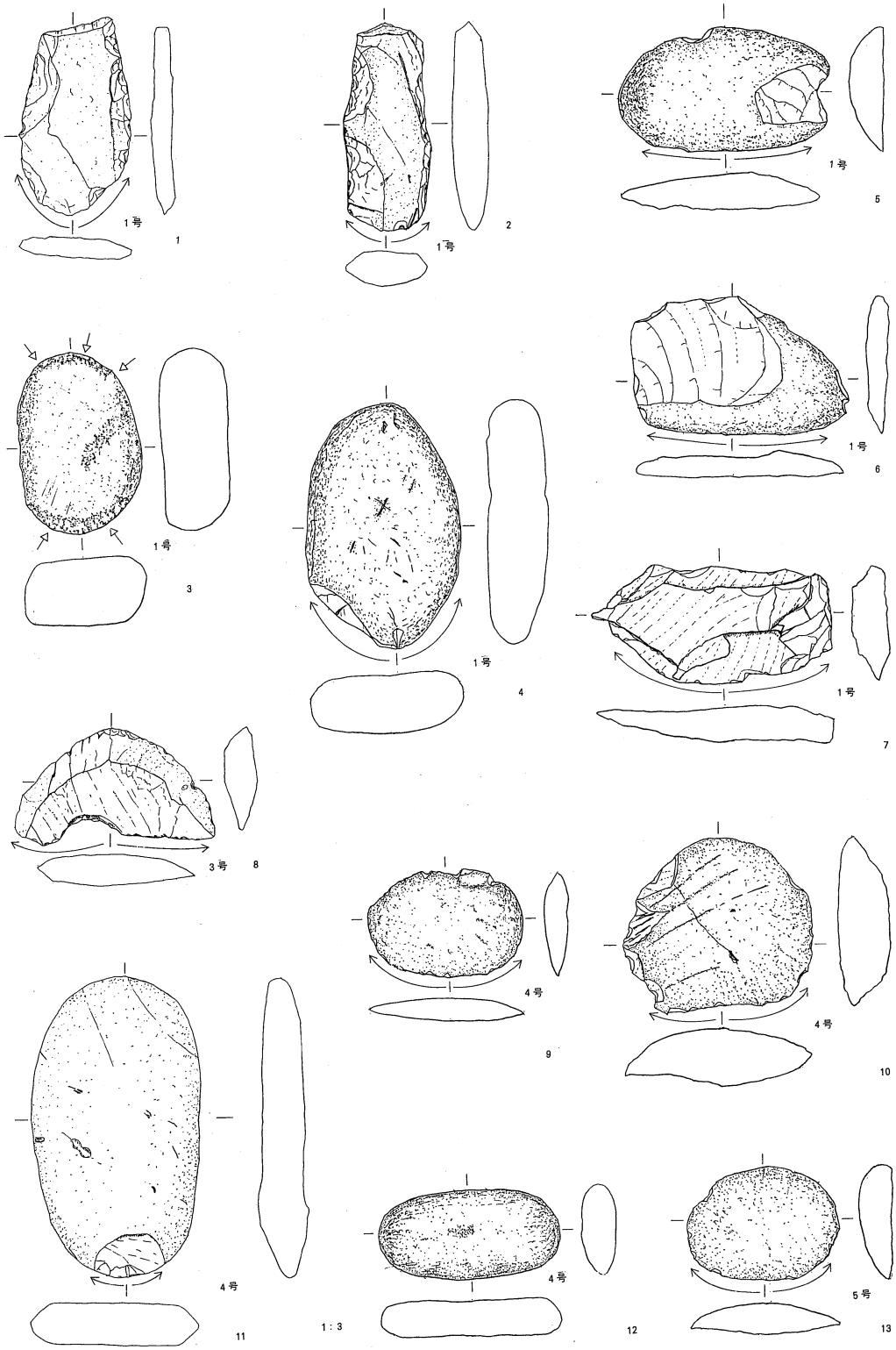
以上の3点から，1を肯定すれば結論は2と言うことになり，否定すれば3ということが言えるが，3の想定に立って遺物を見ると，縄文中期，縄文後期前半，同じく後半のものが混って出土し，これらが一切流れ遺物と判断され，遺構に遺物が伴なわないと考えられるが，遺構と遺物は別の存在だとすれば2に逆戻りと言いたいところであるしかし，P9の如き縄文後期前半のものと，同じく後半の浅鉢が同一ピット内に出土した事は全くの遇然ではないと思われる。時期的には時間差はあっても，片方が前半の終りで，他方が後半でも初めの方だと解釈すれば余り時間差はないものと思われる。遺物の存在が明らかになれば当然遺構に伴ってくることで，本址は，縄文後期後半の住居址の遺構ではないかと言えそうである。



1　　1：6
2～19　1：3
20　1：9

18，19，20，第6号竪穴外出土土器

第55図　竪穴出土土器

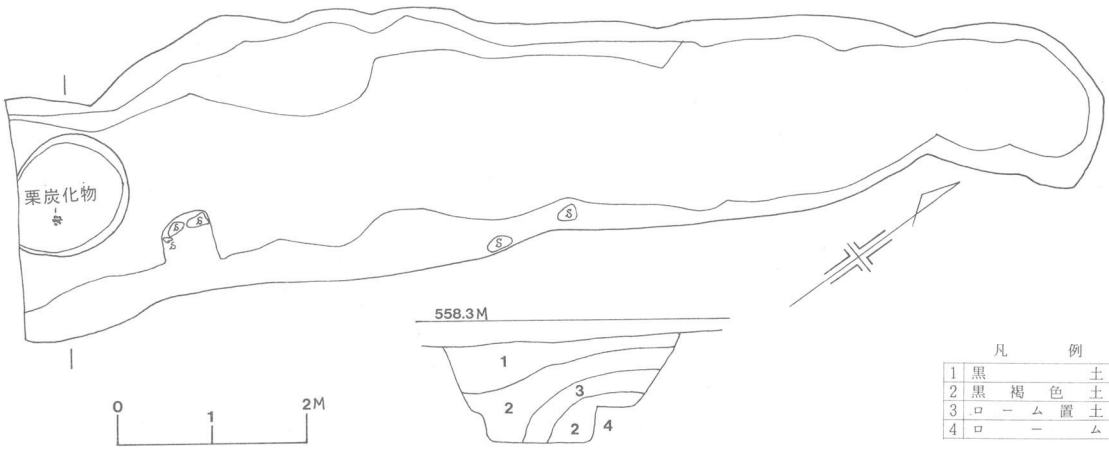


第56図　堅穴出土石器実測図（1：3）

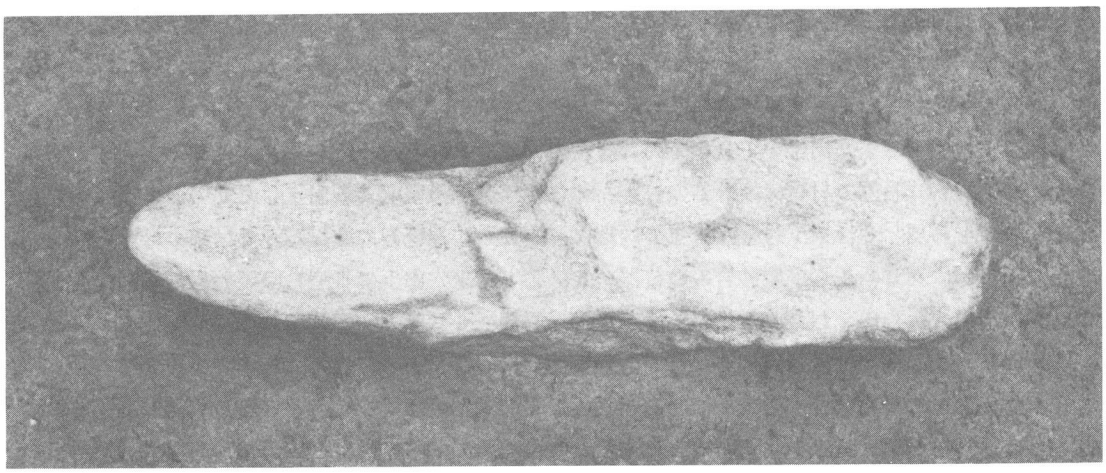
竪穴出土遺物

土器，1は第1号竪穴より出土した口縁部と底部を欠いた深鉢形土器である。H状の文様の区画内には地文に縄文が施されているものと，組紐文が施された区画帯がある土器で，曽利Ⅲ式に比定されるものである。2は第1号竪穴の床面上出土の頸部に刺突が施されている土器。3はキヤリパ形土器の口縁部で，箆状器具の先で斜位に連続して施文した曽利Ⅲ式土器。4は組紐文が施された深鉢形土器の破片で曽利Ⅲ式と思われる土器。5は波線と半隆帯文で渦巻文などが施された深鉢形口縁部，曽利Ⅲ式土器である。6も5と同様の土器。7は地文が縄文の深鉢形土器の胴部破片。8は，口縁部が無文帯で頸部以下斜縄文が施された曽利Ⅲ式土器。9は口縁部が折返状になって，やや薄手の無文土器で曽利Ⅱ式ではないかと思われる土器。10は横位又は渦巻状に連続刺突が施された深鉢形曽利Ⅱ～Ⅲ式土器。11，キヤリパ形の土器の口縁部で，箆状器具の先で渦巻状に施文した曽利Ⅱ～Ⅲ式土器。12は隆帯と隆帯との縦の区画内に組紐による施文がなされた曽利Ⅲ式土器。13は，第3号竪穴より出土した，渦巻文が施された深鉢形土器。14は，第3号竪穴より出土した1の土器と同じ深鉢形土器である。15は連続刺突文が施された第5号住居出土の曽利Ⅱ～Ⅲ式土器。16は6号竪穴出土の綾杉文が施された曽利Ⅲ式土器。17は第5号竪穴より出土した波線による渦巻文を施した深鉢形土器で曽利Ⅲ式土器。18は第6号竪穴より出土したもので，擦消縄文の縄文後期前半の土器の口縁部。20は第6号竪穴より発見された縄文後期後半と考えられる浅鉢形土器。

石器，1は第1号竪穴出土のＩＢ型で刃部に使用痕のある硬砂岩の打製石斧。2は第1号竪穴より出土したⅢ型Ｂ式石器で材質は硬砂岩の打製石斧。5は第1号竪穴より出土したⅡのＥ型抉入の硬砂岩製の横刃形石器。3は第1号竪穴出土の両端に打痕をもつ緑色岩の敲打器。4は第1号竪穴より出土した中央部にクビレをもつ硬砂岩の敲打器。6は第1号竪穴出土のⅢ型Ｂの硬砂岩の横刃形石器。7は第1号竪穴より出土したＡＩ型緑色岩の横刃形石器。8は第3号竪穴より出土した，外湾度が高く刃部に抉入状の凹みは使用痕と思われるもので分類上はＡⅢ型の変形したものである。9は第4号竪穴より出土したＢⅡ型自然面をもつ硬砂岩製の横刃形石器。10は第4号竪穴より出土した，ＢⅡ型硬砂岩の横刃形石器。11は第4号竪穴より出土した自然面の多い敲打器。12は第4号竪穴発見の硬砂岩の磨石。13は第5号竪穴より出土したＡＩ型の自然面をもつ緑色岩の横刃形石器。



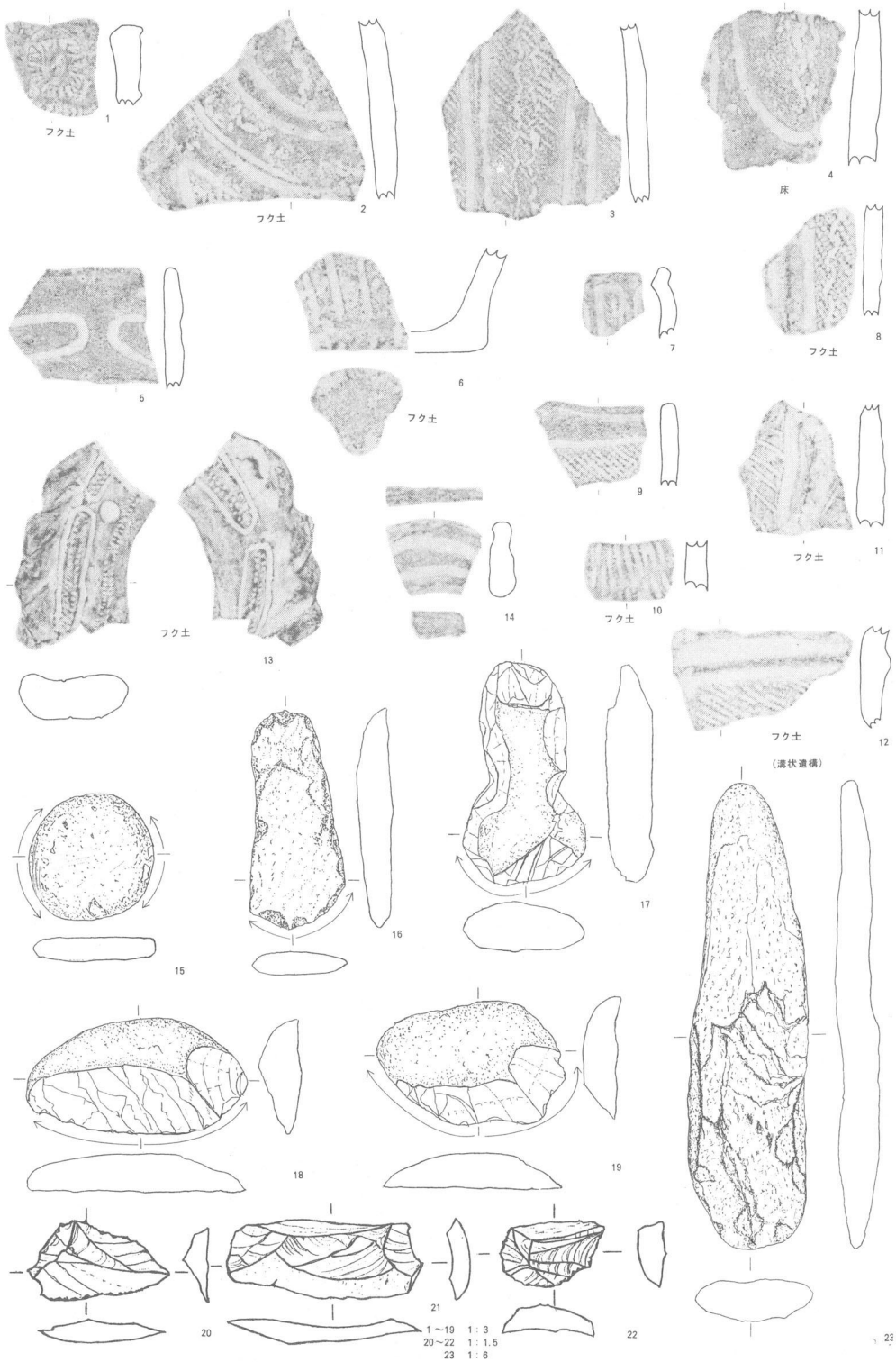
第57図　溝状遺構実測図



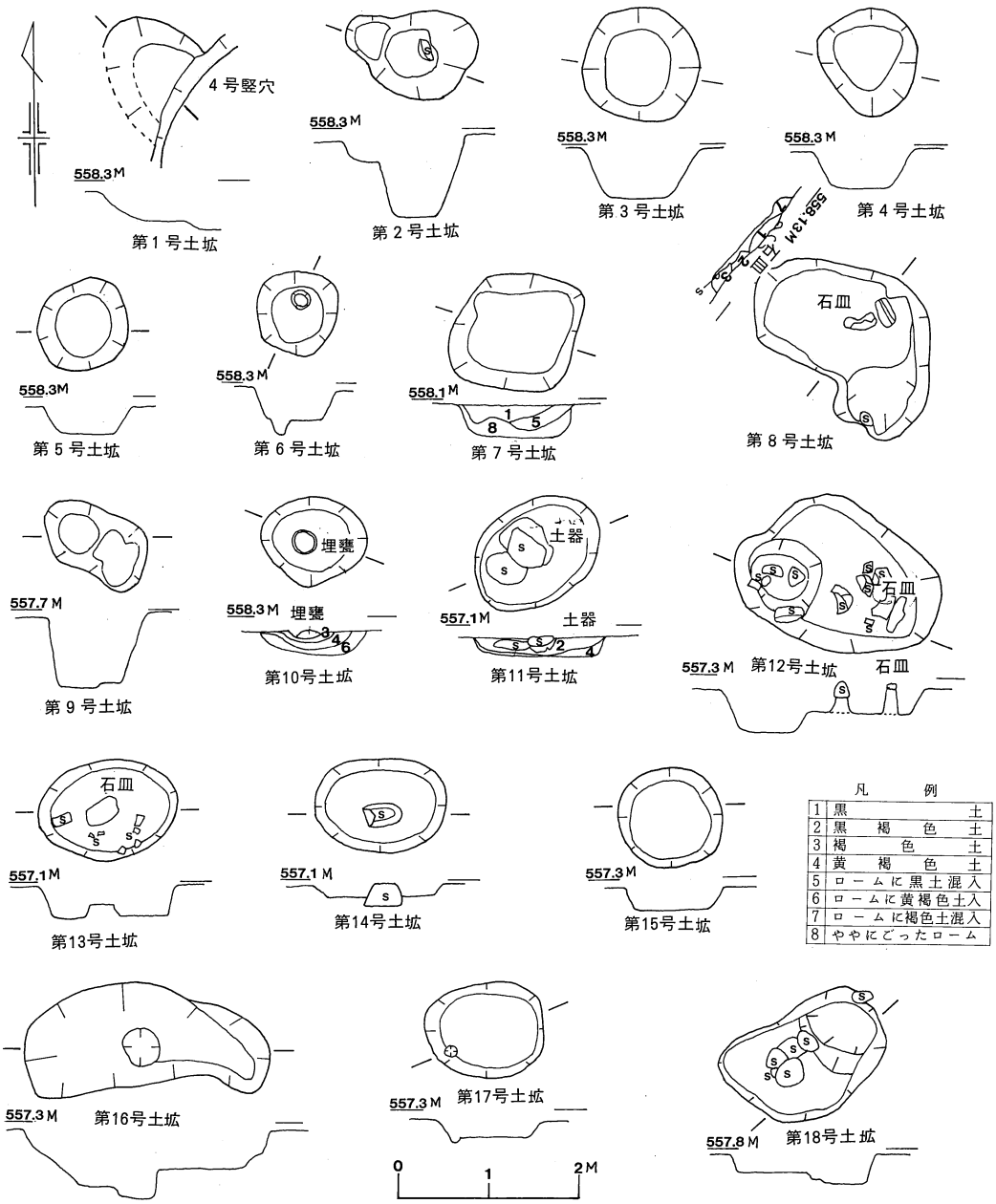
溝状遺構

本址は，遺跡地の最東端の道路添い南北に検出された。溝状の遺構でローム層の中へ割竹状に掘込んだもので西には1号竪穴が近接している。規模は南北10m50cm，東西の最大幅2m90cm，深さ最深96cm，北側の浅い所で35cmを測り，南は用地外と延びている。壁の北側は外傾は浅く，中央より南の壁は中間で段付状になっている。床面はかなりの凸凹があり固く叩いた貼床状になったところがところどころに残っているが，他は軟弱である。南の隅に経1m20cm，深さ58cm大の竪穴状の落込みが検出された。内部で火を焚いたような炭化物と灰が小量残存している。中央東壁の下のところから20cm大の自然石が4個，据えたように置かれてある。その内の2個は表面に僅か敲打の跡がみられ石器を造る時の台石と思われる。遺構内ところどころに焼土が10cm大の厚さで残っている。

遺物，石器は敲打器，打石斧，横刃形石器，石錘，磨石，種類も最も大量であり，特記すべきは，中央より南の壁近くに緑泥岩制の長さ43cmもある超大な打石斧が出土し，それに次ぐ大形のものもその附近より出土した，土器は破片であるが深鉢の破片が多量出土した。（根津）



第58図　溝状遺構出土遺物（1：3）



第59図　土　拡　実　測　図

土拡は，18基検出された。1～6号土拡は遺跡の東北地区にあり，1号土拡からは底より土器片が多量に出土した。8号土拡は上面に石皿が2個置かれており，1個は半完型で裏を蜂の巣石としている。10号土拡は，7号住居址の東にあり，中央に土器が逆位に入れてあり，水田造成時に下半部がけずり取られ頸部より上が残る。11号土拡は，住居群の西にあり深鉢を縦に3ツ割とし表を上にして重ねその上に石が置いてある。13号土拡中央の伏せた石皿。周辺の土拡の在り方にみて墓域である。

（木下）

表 54 上ノ原遺跡土拡一覧表

番号	図番号	平面プラン	大きさ (cm) 長径	短径	深さ	状態	出土遺物 石器他	土器	時期	備考
1		不整円	120	80	20	黒褐色土	横刃形石器4, 磨石斧1	口縁12, 胴部74, 底部5 肥手3	縄中後	底部より土器片多量出土し, 石器は小形の使用痕あるもの4個, 他は剥である。
2		不整楕円	150	100	83	黒褐色土	横刃5, 敲打器3, 磨石斧1, 石錐1	胴部102, 口縁15, 吊手2, 円盤1	縄中後	他の土拡群と接近していて遺物は主として床面からである。
3		楕円	130	120	54	黒褐色土		深鉢の口縁部が1片底部より出土	縄中後	遺物あまりなし
4		円	110	110	42	黒褐色土			縄中後	
5		楕円	110	100	29	黒褐色土			縄文後	
6		円	90	90	32	黒褐色土			縄中後	
7		不整形方	140	130	35～50	黒褐色土		無文土器片胴部2	縄中後	底は100×90cm, 北が高く南に傾斜, 底は堅い。
8		不整円	130	230	20～24	黒褐色土	石皿2	口縁6, 胴部46, 底部6, 台脚部1	縄中後	南側に70×80cmの掘込, 45cm石皿破片裏蜂の巣
9		楕円	70	125	22～24	黒褐色土 木炭混入		深6	縄中後	東側壁寄に土器片6重ねて入れてある。
10		楕円	100	115	25	黒褐色土 木炭混入		深1	縄中後	深鉢口径27cm現高13.5cmの土器が逆位に中央に入れてある。水田造成時に下半部とられる
11		楕円	112	145	27	黒褐色土 細粒炭混入		深1	縄中後	深鉢を縦に3分割にし表を上にして重ねその上に30×50cm大の石を置き, その西側に40×43cmの石が土器に接して入れてある。
12		不整円	166	230	26～46	黒褐色土 木炭混入	石皿1, 小円礫12, 黒曜石1, 磨石1, 打斧2, 折1, 石錘2, 礫器3, 深土器片16		縄中後	東寄り礫群中に底より20cm浮いて石皿が割れて伏せてある。西寄り80×80cmのピット覆土中に石器。
13		楕円	110	150	20	黒褐色土 細粒炭混入	石皿1		縄中後	中央部に石皿が伏せてあり小礫が9, 東南壁に礫6
14		楕円	100	140	25	黒褐色土 細粒炭混入			縄中後	底径80×120cm 中央部に25×40cmの石, 下部底に接している。
15		円	110	110	27	黒褐色土 細粒炭混入			縄中後	底径88×88cm中央部に底より10cm前後浮いて20×20cmの礫3個
16		不整円	110	270	70	黒褐色土 細粒炭混入			縄中後	底の径40×40cm
17		楕円	106	130	27	褐色土			縄中後	底の径は80×110cm西壁下に小ピット
18		不整円	130	170	33	褐色土 30×36cm 15×20cm 石5箇			縄中後	底は西より東に向って低い中心部に石が入る

凡例 「番号」土拡の通し番号, 「平面プラン」「円」は円形, 「不整円」は不整楕円形で形を省略, 「石器」打斧は打製石斧, フはフレーク, 「土器」深は深鉢, 「時期」縄中後は縄文中期後葉。

表55　上の原遺跡　土器・石器集計表

※1　大穴　　※2　炉内　　※3陶磁器片

土器集計表

	深鉢形土器	浅鉢	甕	壺	台付土器	台	口縁部	胴部	底部	把手	吊手	土偶	ミニチュア土器	土器片円盤	土器片円錐	その他	計
第1号住居址	6				14		256	1994	98	2		1		11	1		2383
2	1		1				149	1302	43			2		2			1500
3					5		72	644	25		1			7		31	785
4	3				1		203	1760	63	10		1		2			2043
5	4	2			3		66	316	9	1	1			2		21	425
6	1		2				43	334	23		1						404
7			1				19	146	4								170
8	1	1				1	19	187	6				1	1			217
9	1			1			28	212	5				1	1			249
10	1		1		2	1	100	1063	25	4		1	1	1			1200
11			1				31	154	6								192
第1号竪穴	0						17	79									56
2																	
3							3	28									31
4																	
5								2									2
6							5	28									33
溝状遺構							12	342	8		2						364
土拡	2						27	74	6	3	2			1			115
表採					6	1	77	714	16	12				2		6	834
Z					1		45	325	15	1	1					3	391
計	20	3	6	1	32	3	1172	9704	352	33	8	5	3	30	1	61	11434

石器集計表

	石鏃	石匙	石錐	スクレイパー	ピエスエスキュ	打製石斧	横刃形石器	磨製石斧	乳棒状石器	敲打器	石錘	磨石	石皿	凹石	その他	礫器	礫	剥片	計
黒曜石	22	2	3	87	59										7			440	620
硬砂岩		1	6			242	537		17	88	7	66		5	3	16	508	540	2036
砂岩						1	6		2	2	1			5	1		65	45	125
粘板岩		1	3			40	13	1	10	10	3	7	1		6	3	136	130	363
緑色片岩		1				13	17	7	17	19	2				1	3	67	63	210
花崗岩										8	1	5	3	6	1		94	19	137
片麻岩										1							3	7	11
緑泥岩				1		27	18	7	13	27	3	5		1	12		79	114	307
緑色岩						10	2	1	4	9		3			2		11	21	63
石灰岩									2								33	12	47
石灰質青色岩																	9	1	10
石英																	9	2	11
安山岩															1			1	2
蛇文岩								1										1	2
チャート				1						1							3	4	9
その他						1	1		2		4			2			9	37	56
計	22	6	12	89	59	334	593	17	67	165	17	90	4	13	22	36	1026	1437	4009

黒曜石

	石鏃	石匙	石錐	スクレイパー	ピエスエスキュ	打製石斧	横刃形石器	磨製石斧	乳棒状石器	敲打器	石錘	石皿	凹石	その他	礫器	礫	剥片	計
第1号住居址	8		2	21	31									5			151	218
2	2	1		16	18												53	90
3	2		1	10	2												79	94
4	1	1		15	4													21
5				2													7	9
6				5													10	15
7				5	1												16	22
8	1			1	2									1			1	6
9	4				1												7	12
10																	16	16
11	1			7													12	20
第1号竪穴																	4	4
2																		
3																		
4																	2	2
5																	8	8
6																		
溝状遺構				2													23	25
土拡																	3	3
表採	2			3										1			28	34
Z	1																20	21
計		2	3	87	59									7			440	620

硬砂岩

						横刃形石器	磨製石斧	乳棒状石器	敲打器	石錘	石皿	凹石	その他	礫器	礫	剥片	計
第1号住居址						37	122	4		1	5	2		8	228	211	618
2			1			28	50		7		1			4	41	62	194
3						10	22									30	23	85
4						28	36					3			16	35	118
5		1				14	31		11						36	11	104
6						5	23		7	2			1		23	17	78
7						6	15	3	2	1	16				6	8	57
8			1			3	10		1		2				14	6	37
9						3	14	1			7					14	39
10			4			17	28	2	11						58	34	154
11						4	13	1	10		8		1		5	2	45
第1号竪穴						2	8		3								13
2							4									1	5
3							3		1								4
4							6		2								8
5							2									3	5
6							9								13	1	23
溝状遺構						13	38		14				1		1	4	80
土拡							8		2						3		13
表採						46	60	3	8	1	26			4	23	63	234
Z						26	35	3	9	1	1				12	35	122
計		1	6			242	537	17	88	7	66		5	3	16	508	540	2036

緑色片岩

	石鏃	石匙	石錐	スクレイパー	ピエスエスキュ	打製石斧	横刃形石器	磨製石斧	乳棒状石器	敲打器	石錘	磨石	石皿	凹石	その他	礫器	礫	剥片	計
第1号住居址																	1	1	1
2							1		5	3						2	5	18	34
3						2	2		4								26		34
4									1										1
5		1						1		3							13	5	23
6																			
7						2												1	3
8																	4		4
9								1										1	2
10						5	2	1	4	5							11	3	31
11															1				1
第1号竪穴							1											7	8
2																			
3																			
4																			
5										1									1
6										2									2
溝状遺構							6											6	12
土拡								1									1	2	4
表採						4	4	1	1	2	2					1	2	17	34
Z							1	2	2	3							4	3	15
計		1				13	17	7	17	19	2				1	3	67	63	210

花崗岩

第1号住居址											1		2	3			24	7	37
2													1				7		8
3																	6	2	8
4																	9	6	15
5										3				1			30		34
6												1			1		6		8
7														1			2		3
8																	5		5
9																			
10																			
11										4									4
第1号竪穴																			
2																			
3																			
4																			
5																			
6																			
溝状遺構																		2	2
土拡																			
表採										1		1					3	1	6
Z												3		1			2	1	7
計										8	1	5	3	6	1		94	19	137

		石鏃	石匙	石錐	スクレイパー	ピエスエスキュ	打製石斧	横刃形石器	磨製石斧	乳棒状石器	敲打器	石錘	磨石	石皿	凹石	その他	礫器	礫	剥片	計
緑泥岩	第1号住居址						7	3	3	9		1	1		1		12	60	58	155
	2																			
	3																		15	15
	4						6	6			2							15	18	47
	5																			
	6						4	1	3		6							4	4	22
	7						1	2			2								4	9
	8																			
	9							1		1									2	4
	10																			
	11						1	1		1	5		3						1	12
	第1号竪穴																			
	2																		4	4
	3							1												1
	4																			
	5																			
	6																			
	溝状遺構																			
	土拡																			
	表採						6	1			12								7	26
	Z				1		2	2	1	2		2	1						1	12
	計				1		27	18	7	13	27	3	5		1		12	79	114	307
緑色岩	第1号住居址																			
	2									3			1				2	3		9
	3																			
	4																			
	5						3				6							1		10
	6																			
	7																			
	8																			
	9																			
	10																			
	11									1			1							2
	第1号竪穴																			
	2																			
	3																			
	4																			
	5																			
	6																	3		3
	溝状遺構						1													1
	土拡								1									1		2
	表採						1	2					1					1	7	12
	Z						5				3							2	14	24
	計						10	2	1	4	9		3				2	11	21	63
片麻岩	第1号住居址																	2	4	6
	2																			
	3																			
	4																	1		1
	5										1									
	6																			1
	7																			
	8																			
	9																			
	10																			
	11																			
	第1号竪穴																		3	3
	2																			
	3																			
	4																			
	5																			
	6																			
	溝状遺構																			
	土拡																			
	表採																			
	Z																			
	計										1							3	7	11

		石鏃	石匙	石錐	スクレイパー	ピエスエスキュ	打製石斧	横刃形石器	磨製石斧	乳棒状石器	敲打器	石錘	磨石	石皿	凹石	その他	礫器	礫	剥片	計
石灰岩	第1号住居址									1								29	11	41
	2																			
	3																			
	4																			
	5																			
	6																	4		4
	7																			
	8																			
	9																			
	10																			
	11																			
	第1号竪穴																			
	2																			
	3																			
	4																			
	5																			
	6																			
	溝状遺構																			
	土拡																			
	表採																			
	Z									1									1	2
	計									2								33	12	47
石灰質青色岩	第1号住居址																	9	1	10
	2																			
	3																			
	4																			
	5																			
	6																			
	7																			
	8																			
	9																			
	10																			
	11																			
	第1号竪穴																			
	2																			
	3																			
	4																			
	5																			
	6																			
	溝状遺構																			
	土拡																			
	表採																			
	Z																			
	計																	9	1	10
安山岩	第1号住居址															1				1
	2																			
	3																			
	4																			
	5																			
	6																			
	7																			
	8																			
	9																			
	10																			
	11																			
	第1号竪穴																			
	2																			
	3																			
	4																			
	5																			
	6																			
	溝状遺構																			
	土拡																			
	表採																		1	1
	Z																			
	計															1			1	2

	石鏃	石匙	石錐	スクレイパー	ピエスエスキュ	打製石斧	横刃形石器	磨製石斧	乳棒状石器	敲打器	石錘	磨石	石皿	凹石	その他	礫器	礫	剥片	計
第1号住居址																	23	21	44
2									2	1							3	1	7
3							2										10		12
4							1										3		4
5																	5		5
6							1								1		5		7
7											1						1		2
8																			
9																		4	4
10																			
11													1	1					2
第1号竪穴							2												2
2																			
3																			
4																			
5																			
6																	6		6
溝状遺構						1												3	4
土拡																	1	1	2
表採										1							5	6	12
Z																	3	9	12
計						1	6		2	2	1		1	1	1		65	45	125
第1号住居址																	9	2	11
2																			
3																			
4																			
5																			
6																			
7																			
8																			
9																			
10																			
11																			
第1号竪穴																			
2																			
3																			
4																			
5																			
6																			
溝状遺構																			
土拡																			
表採																			
Z																			
計																	9	2	11
第1号住居址				1													1	1	3
2																			
3																			
4																			
5																			
6																			
7									1										1
8																			
9																			
10																			
11																			1
第1号竪穴																			
2																			
3																			
4																			
5																			
6																			
溝状遺構																			
土拡																			
表採																		1	1
Z																	1	2	3
計				1					1								3	4	9

	石鏃	石蛇	石錐	スクレイパー	ピエスエスキュ	打製石斧	横刃形石器	磨製石斧	乳棒状石器	敲打器	石錘	磨石	石皿	凹石	その他	礫器	礫	剥片	計
第1号住居址						4	3		2		1					1	57	54	122
2		1	1			6			2	1					1	1	11	4	28
3									2		1						7	4	14
4						11	4										5	14	34
5						1											10	2	13
6										1					5		2		8
7						2												2	4
8						1						1					13	5	20
9																		1	1
10			2			1		1				5					18	5	32
11									1	1								2	4
第1号竪穴							1												1
2																			
3																			
4																			
5																			
6										1									1
溝状遺構						3				1								2	6
土拡							1			1							2	2	6
表採						9	1		2	3	1	1				1	4	15	37
Z						3	3		1	1							7	17	32
計		1	3			41	13	1	10	10	3	7			6	3	136	129	363
第1号住居址																			
2																			
3																			
4																			
5																			
6																			
7																			
8																			
9																			
10																			
11																			
第1号竪穴																			
2																			
3																			
4																			
5																			
6																			
溝状遺構																			
土拡																		1	1
表採								1											1
Z								1										1	2
計																			
第1号住居址																			
2																			
3						1	1										6		8
4																		34	34
5																			
6																	3		3
7									2			4							6
8																			
9																		2	2
10																			
11																			
第1号竪穴																			
2																			
3																			
4																			
5																			
6																			
溝状遺構																		1	1
土拡																			
表採															2				
Z																			
計						1	1		2			4			2		9	37	

所　見

今回の調査によって得られた成果は予想以上のものがあった。ここでは，その中の主要と考えられる二・三の点について述べ所見としたい。

調査の内容については前章で詳しく述べてあるので省略する。

1. 本遺跡の自然的な環境について述べると，上の原遺跡は天竜川の右岸段丘上にあり，標高は550～555 m に分布する。この台地は南に2度44分の傾斜をなす独立の段丘である。天竜川との比高は40mあり，天竜川より数えて三段目の段丘に当る。遺跡の西には横前部落に源を発する郷士沢が天竜に注いでいる。北側は刈谷原に源を発する栗生沢が流れ，縄文時代の人々の生活には恵まれた環境と言える場所である。上の原地籍の総面積は4.5 haあるが，遺跡の範囲は確認されていないが，少くともその約半分は遺跡地と考えている。

今回の調査では，耕作者や土地所有者の関係もあって，遺構配置図に示した個所の調査にとどまった。

2. 上の原遺跡の集落の在り方は，今回の調査の箇所の北側水田より果樹園から，水田・畑と山寄りに分布することが確認された。こうしたことより，集落は北側山寄りに半馬蹄形に南側に，広場や墓域をもつ集落であることが確認された。また，集落の規模は推定で少なくとも20軒以上にたっすると思われる。

3. 集落の存在した時期であるが，現在のところ縄文中期後葉曽利系Ⅱ～Ⅲ式にわたった集落と考えている。そのほか縄文中期中葉の土器片，縄文後期後半，平安時代の陶器片，室町時代，桃山時代から江戸時代にわたる陶器の破片が検出された。

4. 遺物，遺物の処理については，当初設定されたグリッドの全出土遺物について記録を試みたのであるが，調査の日程及び費用の点から第1号住居址のみ止め，他の遺構については覆土中と床面とに分け，床面のみ記録をすることとした。しかし集計においては，土器と石器に分類し全片集録することができた。個々の遺構については表に出来るものは表とし，記述でまにあうものは記述としたが，最終的には全体の集計表にまとめることができた。

5. 今回の調査で特に重点を置いたのは，各遺構の発掘担当者が，報告書作成まで一貫して行うことができたことである。しかしながら，このため記述の面でそれぞれの特色がうかがえるが，やや，統一を欠く面がある。

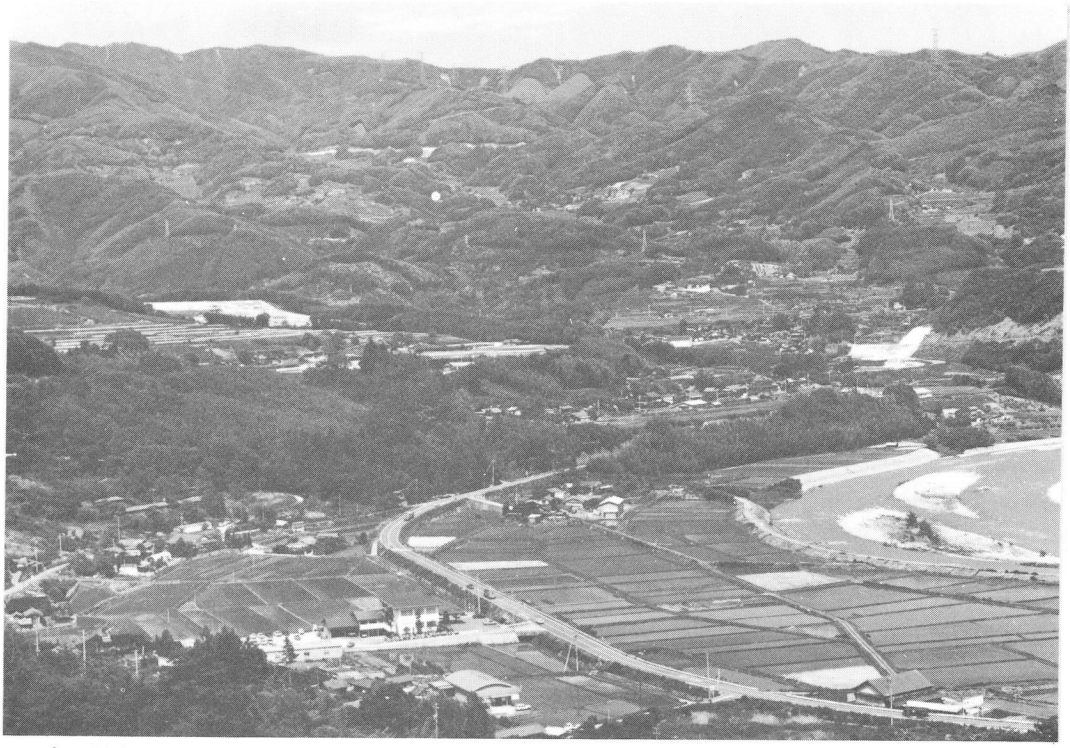
また，長年の調査で遺物全体の数の捕え方が不完全であったのであるが，今回の調査ではでき得る限り正確に数的面に組むことができたのは表のまとめを担当された宮崎五百子さんの努力があったためと思う。整理に当った，根津清志・木下平八郎・小木曽清調査員・横田愛子・高山よし子調査補助員，細田登志美さん，そして報告書を中心になってまとめられた教育委員会の松下千里氏等のみなさんの努力の成果と存じます。関係した皆さん大変に有難う御座いました厚く御礼を申し上げます。

（友野）

図　　版

図版 1

上の原遺跡遠景（東より）



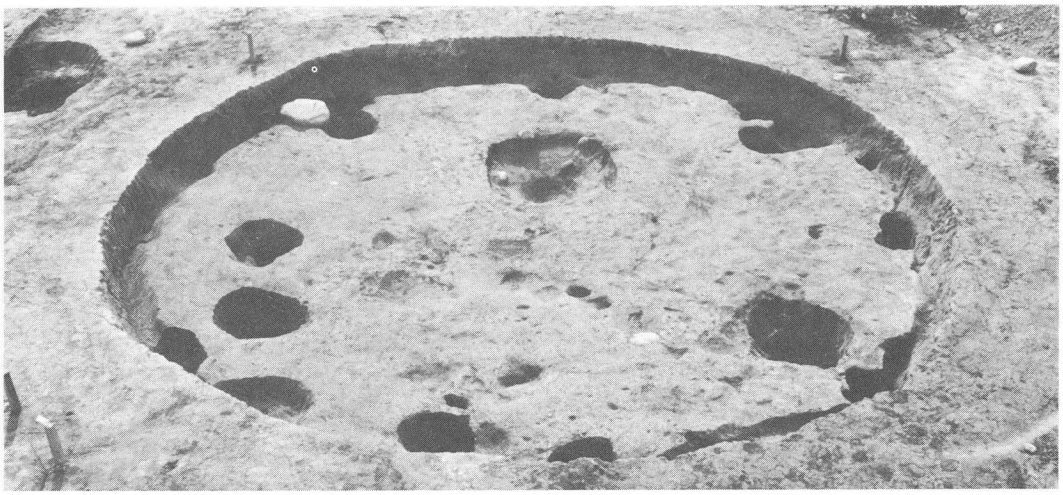
上の原遺跡遠景（西より）

図版 2

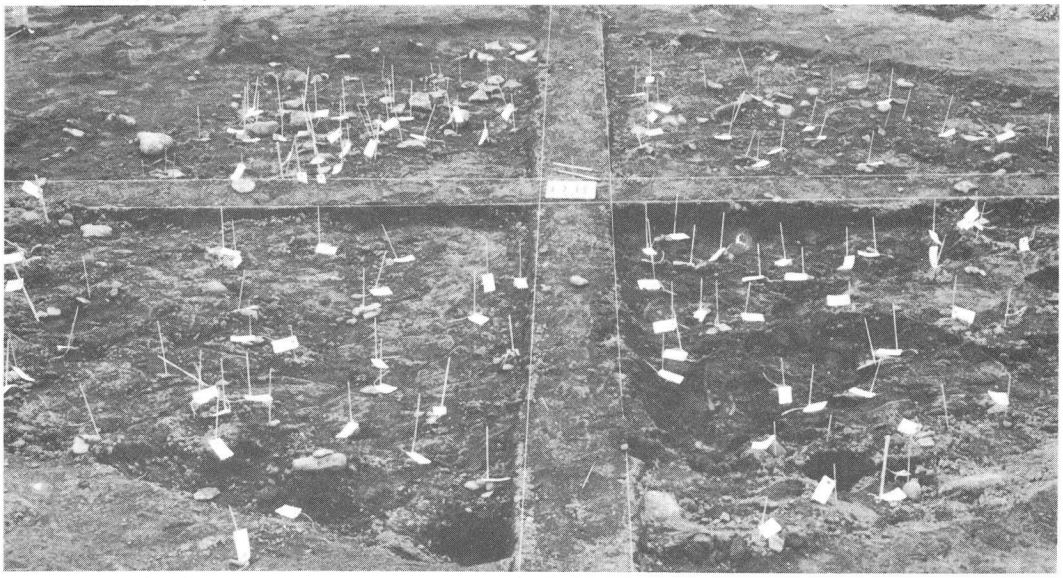
住居址群（西より）

住居址，土拡群（南より）

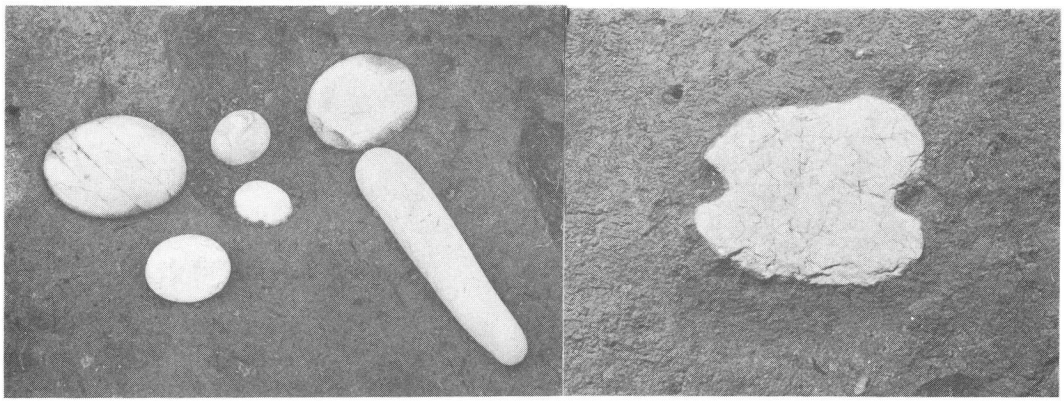
図版 3



第 1 号住居址（東より）

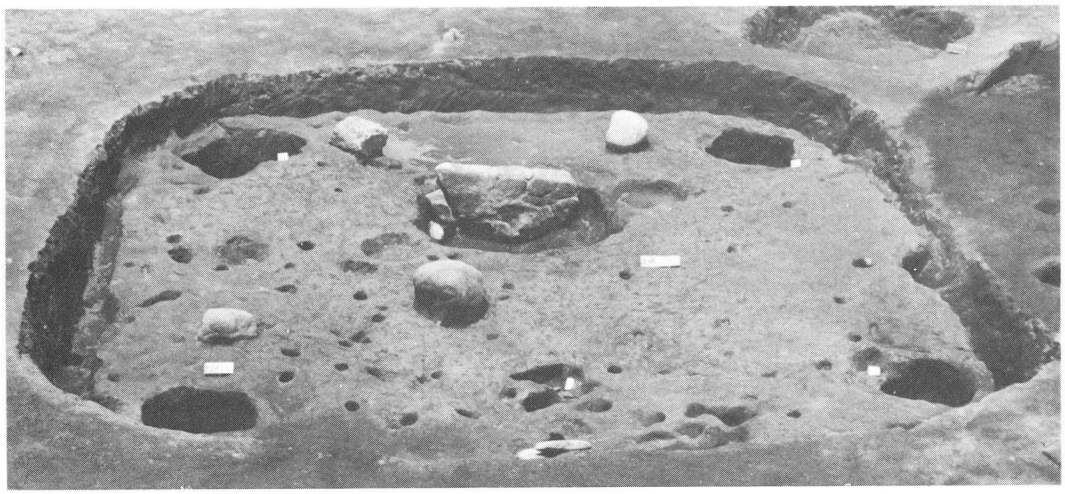


第 1 号住居址　遺物出土状態

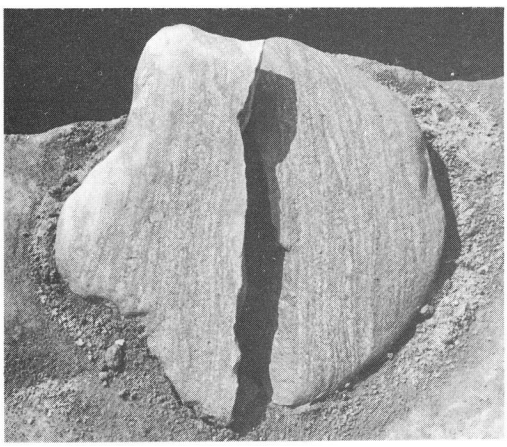


第 1 号住居址　石器出土状態

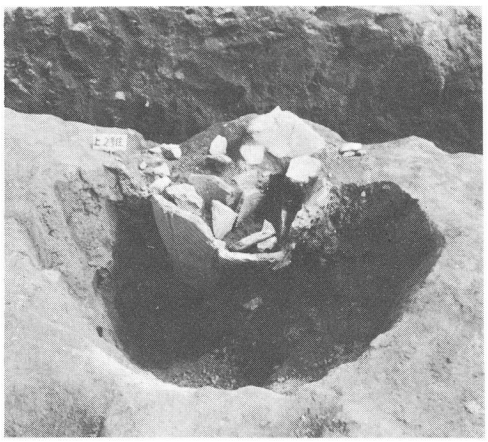
図版 4



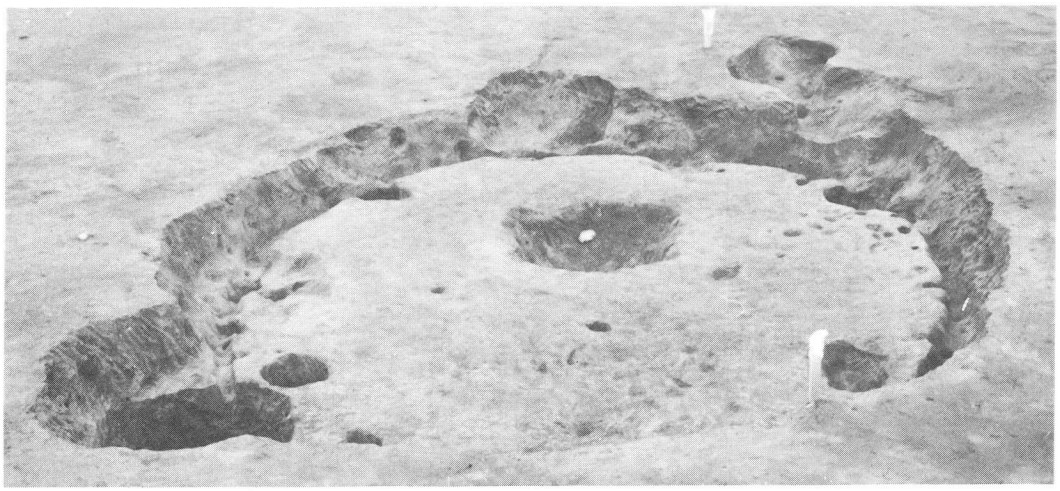
第 2 号住居址（東より）



第 2 号住居址　　蓋石

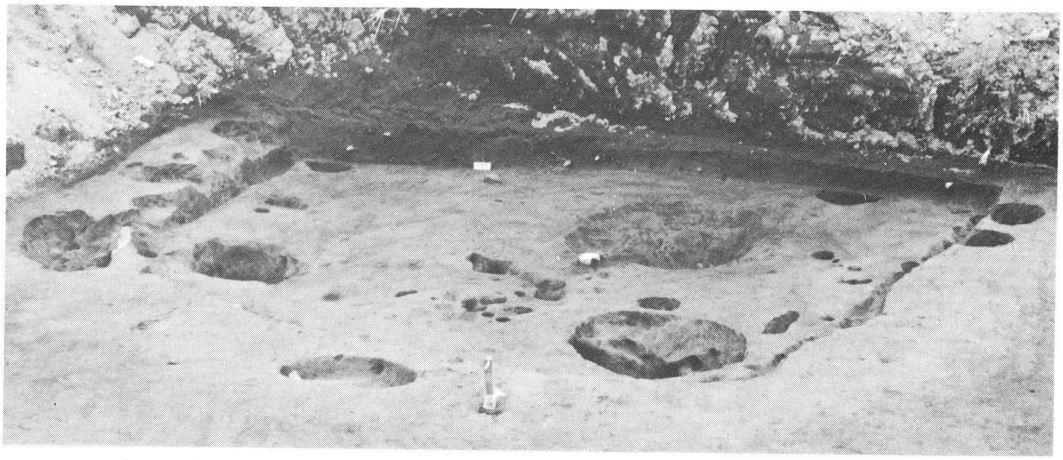


第 2 号住居址　埋甕

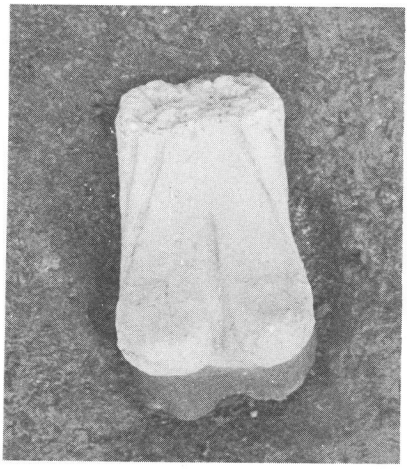


第 3 号住居址（西より）

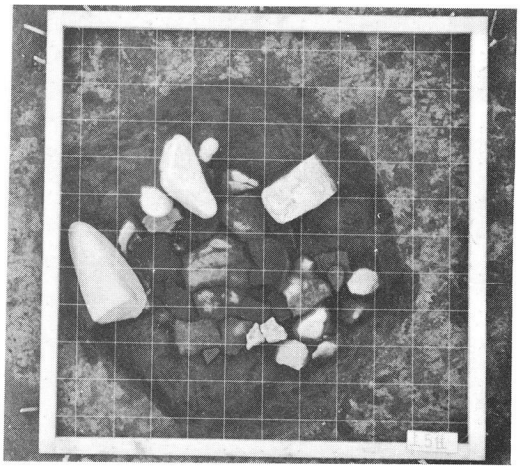
図版 5



第 4 号住居址（南より）



第 4 号住居址　土偶出土状態



第 5 号住居址　炉

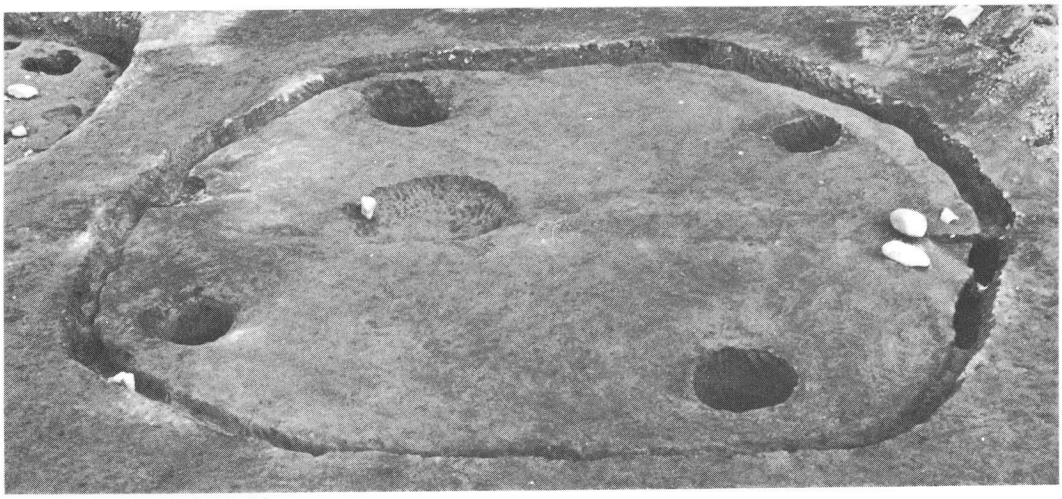
第 5 号住居址（南より）

図版 6

第 6 号住居址（南より）

第 6 号住居址　埋甕出土状態

第 7 号住居址　埋甕出土状態



第 7 号住居址（南より）